スルヤウナコトヲ爲シテハイカヌ、又人權ヲ蹂躙スルヤウナコトヲ爲シテハイカヌト云フ、此警察官竝ニ檢事ニ對スル御希望ハ、私共洵ニ御尤ナ御希望デアルトシテ贊成ヲ致スノデアリマス、併ナガラ所謂暴力行爲ナルモノハ、何處マデモ是ハ刑事政策ノ見地カラ申シテモ、社會政策ノ見地カラ申シテモ、斷々乎トシテ糾斷ヲシナケレバナラヌコト、思フノデアリマス、此意味ニ於キマシテ、私共本案ニ贊成スルノミナラズ、山口君ノ所謂此希望決議ナルモノニ對シテハ、贊成ノ意ヲ表スルモノデアリマス、但シ玆ニ注意スベキハ、山口君ノ所謂附帶決議ナルモノハ、吾〻委員會ニ於テ現ハレザリシ所ノモノデアリマシテ、委員長カラモ其報告ハナカッタノデアリマス、此處デ本會議ニ於テ、政友會ノ諸君カラ提案ニナッタル此附帶決議ナルモノハ、所謂本案ニ贊成ナサル所ノ希望デアルト思ヒマシテ、其意味ニ於テ贊成ヲ致スノデアリマシテ、別ニ特段ナル附帶ノ決議トシテ動議ヲ御提出ニ相成ラナイノデアリマスカラ、是ハ希望デアリマシテ、其希望ハ吾〻ニ於キマシテモ全然贊成ヲ表スルモノデアリマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ四月十日法律第六十號ヲ以テ公布セラル

六二　獸醫師法案

（小字及――ハ貴族院修正）

獸醫師法

第一條　獸醫師タラムトスル者ハ農林大臣ノ免許ヲ受ケ獸醫師名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

獸醫師ノ免許ヲ受クルニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スルコトヲ要ス

一　大學令ニ依ル大學ニ於テ獸醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、東京帝國大學農學部獸醫學實科ヲ卒業シタル者又ハ官立公立ノ專門學校若ハ文部大臣カ之ト同等以上ト認メ指定シタル學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二　獸醫師試驗ニ合格シタル者

三　外國ノ獸醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ獸醫師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

第一項ノ登錄及前項第二號ノ獸醫師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　農林大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ獸醫師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

一　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者

三　精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

第三條　農林大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ獸醫師ノ免許ヲ爲ササルコトヲ得

一　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

二　獸醫事ニ關シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ不正ノ行爲アリタル者

第四條　獸醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死產證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中斃死シタル場合ニ交付スル斃死診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　開業ノ獸醫師ハ診察又ハ治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

獸醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死產證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　獸醫師ハ診療簿ヲ備ヘ三年間之ヲ保存スヘシ

第七條　獸醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　獸醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣獸醫師會ヲ設立スヘシ

道府縣獸醫師會ハ日本獸醫師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣獸醫師會ハ日本獸醫師會ノ會員トス

道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ獸醫事衞生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

道府縣獸醫師會ハ道府縣ヲ、日本獸醫師會ハ內地ヲ區域トス

第九條　道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十條　本法ニ規定スルモノノ外道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　獸醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

獸醫師第三條各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號又ハ第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　獸醫師ノ免許ヲ受ケスシテ其ノ業務ヲ爲シタル者

二　業務停止中ノ獸醫師ニシテ其ノ業務ヲ爲シタル者

三　第四條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者

第十三條　第五條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

獸醫免許規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前獸醫免狀ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ獸醫免狀ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ未成年者タルノ故ヲ以テ其ノ免許ヲ取消スルコトヲ得ス

本法施行前交付シタル獸醫假免狀ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ假免狀ノ有效期間ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

本法ノ規定ハ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ獸醫免狀ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施行後十二年内ニ八年内ニ從前ノ規定ニ依ル獸醫免狀ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第一條第二項ノ規定ニ拘ラス獸醫師ノ免許ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ未成年者タルコトヲ妨ケス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役

又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

右ハ大正十五年二月十七日貴族院ニ提出ス同院ハ三月九日本案ヲ修正議決シ即日本院ニ送付ス本院ハ三月二十三日本案ノ第一讀會ヲ開キ高田政府委員ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

獸醫師ニ關スル現行法律タル獸醫免許規則ハ、明治二十三年ノ制定ニ係ッテ居リマス、故ニ畜産界ノ發達ニ伴ハナイ點ガ多々ゴザイマスカラシテ、其改正ノ要望ハ去ル五十議會ニ於キマシテ、請願トシテ或ハ建議トシテ本院ニ現レタノデゴザイマス、改正ノ第一點ハ現行法ニ於テハ獸醫師ノ免許回獸醫師法ヲ制定致サントスルノデゴザイマス資格ハ、農業學校程度ニ依ル獸醫學ヲ卒業シタ者ニ、免許資格ヲ與ヘタノデゴザイマスガ、我ガ畜産界ノ現況竝ニ獸醫學ノ進歩ニ鑑ミマシテ、專門學校卒業程度ニ改メルノ必要アルノデゴザイマス、獸醫師ノ向上ト其衞生ノ發達ヲ圖ラントスル爲ニハ、獸醫師ノ團體的活動ヲ俟ツ所ガ極メテ大ナルモノガアルノデゴザイマス、故ニ獸醫師會ヲ設ケシムルノ必要ガアルノデアリマス、仍テ是等ノ事項ニ關スル規定ヲ設ケマシテ、獸疫衞生ノ改良發達ヲ圖リ、以テ我ガ畜産業ノ振興ニ資セントシテ玆ニ法律案ヲ提出シタノデゴザイマス、本案ニ對シマシテ貴族院ニ於キマシテ、政府原案ニ對シ、第四條及附則ノ第八項ニ修正ヲ加ヘタノデゴザイマス、サリナガラ此修正ハ何レモ本案ノ改正ノ根本ニ觸レテ居ルモノデハゴザイマセヌカラ、政府ハ此修正ヲ以テ大體支障ナキモノト看做シテ居ルノデゴザイマス、以上ノ通リデゴザイマスカラ、御審議ノ上ニ速ニ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス

高橋熊次郎君、土屋清三郎君ハ質疑ヲ爲シ高田政府委員及鈴置政府委員之ニ應答ス

高橋熊次郎君ノ質疑

此獸醫師法案ヲ御提出ニ相成ッタノハ、之ニ依テ獸醫師ナル者ノ素質ヲ向上致シ、又學識ノ向上ヲ圖リ、而シテ之ニ依テ獸醫師ノ權利ヲ明ニシ、又義務モ相當ニ負ハセヤウト云フヤウナコトニ承ッタノデアリマス、而シテ此法律ヲ見マスルト、又只今ノ御意思ニ依テ見マスルト云フト、權利ノ方ト云フモノハ洵ニ薄イヤウニ感ゼラレル、形式ニ於テハ權利ハ相當認メラレヲ居ルヤウデアリマスケレドモ、實質ニ於テハ此法律ニ依ヲ期待サレル所ノ獸醫師ノ權利ト云フモノハ確的ニ認メラレヤ否ヤト云フコトハ、疑問ニ相成ッテ居ルノデアリマス、然シテ義務ノ方ニ於テハ、隨分過重ナ義務ヲ負ハシメルヤウニ思ハレルノデアリマス、卽チ此法案ノ第何條デアリマスカ、末項ニアリマス所ノ十三條ニ「第五條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス」斯ウ云フコトガアル、其第五條ト云フノハドウ云フ事デアルカト云フト「開業ノ獸醫師ハ診察又ハ治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス」ト斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス、又第二項ニハ「獸醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死產證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス」斯ウ云フコトガ若シ起リマシタナラバ、百圓以下ノ罰金ニ處セラレル、斯樣ナコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、是ガ重イカ輕イカト云フヤウナコトハ、之ヲ他ノ比較法デアル所ノ醫師法、或ハ齒科醫師法、藥劑師法ト云フモノト比較對照致サナケレバ相成ラヌト、斯樣ナ場合ニ於テハ如何ナル罰則ガアルカト云フト、二十五圓以下ノ罰金、斯ウ云フヤウナコトニ相成ルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、或ハ齒科醫師法デモ二十五圓以下ト云フ以下デアッタラウト思フ、能ク世ノ中ニ問題ニナッテ居ル所ノ露西亞ノ犬ナドヽ云フモノハ隨分値打ガアル、十萬圓ト斯ウ云フヤウナコトニナッテ居ル、斯ウ云フ工合デアル、或ハ「ライオン」デアルトカ、或ハ又下ッテ蕃庵デアルトカ云フヤウナ色々ナ方モアリマスケレドモ、人間ノ價値トシテハ同ジデアルノデアル、動物ハサウ云フコトニハ參ラヌノデアリマス、左樣デアリマスカラシテ、私ハ一ツノ動產トシテノミ取扱ハレル此動物ヲ取扱フ所ノ獸醫師ガ、人間ノ命ヲ取扱フ所ノ醫師、齒科醫師、其他ノ者ト非常ナ玆ニ逕庭ノアルト云フコトハ、私ハ是ハ諒解ニ苦シムノデアル、何ガ故ニ獸醫師ニノミ斯樣ナ過重ナル負擔ヲ負ハシメタカト云フコトヲ能ク承ラナケレバナラヌ、而シテ之ニ付キマシテ尙ホ玆ニ疑問ノアリマスノハ、一旦診療ヲ拒ム、卽チ診察或ハ治療ヲ拒ムト云フコトニナルト、斯ノ如キ過重ナル刑罰ヲ受ケルノデアル、然ラバ獸醫師ト云フ者ハドウ云フ立場ニ在ルカ、所謂獸醫ト云フモノ——獸醫師ト云フ言葉ガアリマスガ、獸醫師ト云フ者ハ如何ナル意味デアルカ、卽チ之ニ關聯シテ家畜ト云フモノハドウ云フモノデアルカト云フコトヲ能ク定メテ行カナケレバナラヌト思フノデアリマス、私ハ豫備知識ヲ得ル爲ニ貴族院ノ速記錄モ此處ニ持ッテ來テ居ルノデアリマスガ、政府ノ說明スル所ハ斯樣ニナッテ居ルノデアリマス、私ガ分ラナイバカリデナク、恐ラクハ諸君ニ於テモ御分リ惡イト思フノデアリマス、是ハ曾我子爵ノ委員長トシテノ御報告ノ御演說中ニアルノデアリマスガ「獸醫ト云フ字ノ定義ハ如何」是ハ委員會デ斯ウ云フ質問ガ出タト云フコトヲ此處デ述ベラレテ居ルノデアリマス、「獸醫ト云フ獸ノ字ノ定義ハ如何」或ハ「獸畜」或ハ「家畜」、或ハ家禽ト云フヤウナ字ガ用キラレテアルガ、此定義ヲ明カニスル必要ガ大ニアルト思フ、如何トナレバ此法案ト云フモノハ、法律ノ制裁ヲ加ヘルコトニナッテ居ルカラ、獸ノ字ノ定義如何ニ依テハ、非常ニムヅカシイ問題ガ起リハセヌカト云フヤウナ御質問デゴザイマシタ、政府ノ說明

ウガ、給仕デアラウガ、命ニハ變リハナイノデアリマスケレドモ、動物ニ於テハ左樣ニハ參ラヌノデアリマス、動物ニ於テハソレ〳〵經濟的價値ト云フモノガアル、左樣デアリマスカラ只デ貰ッテモ要ラナイト云フヤウナモノモアルシ、何萬圓ト云フヤウナモノモアルダラウト思フ、能ク世ノ中ニ問題ニナッテ居ル所ノ露西亞ノ犬ナドヽ云フモノハ隨分値打ガアル、十萬圓ト斯ウ云フヤウナコトニナッテ居ル、斯ウ云フ工合デアル、或ハ「ライオン」デアルトカ、或ハ又下ッテ蕃庵デアルトカ云フヤウナ色々ナ方モアリマスケレドモ、人間ノ價値トシテハ同ジデアルノデアル、動物ハサウ云フコトニハ參ラヌノデアリマス、左樣デアリマスカラシテ、私ハ一ツノ動產トシテノミ取扱ハレル此動物ヲ取扱フ所ノ獸醫師ガ、人間ノ命ヲ取扱フ所ノ醫師、齒科醫師、其他ノ者ト非常ナ玆ニ逕庭ノアルト云フコトハ、私ハ是ハ諒解ニ苦シムノデアル、何ガ故ニ獸醫師ニノミ斯樣ナ過重ナル負擔ヲ負ハシメタカト云フコトヲ能ク承ラナケレバナラヌ、而シテ之ニ付キマシテ尙ホ玆ニ疑問ノアリマスノハ、一旦診療ヲ拒ム、卽チ診察或ハ治療ヲ拒ムト云フコトニナルト、斯ノ如キ過重ナル刑罰ヲ受ケルノデアル、然ラバ獸醫師ト云フ者ハドウ云フ立場ニ在ルカ、所謂獸醫ト云フモノ——獸醫師ト云フ言葉ガアリマスガ、獸醫師ト云フ者ハ如何ナル意味デアルカ、卽チ之ニ關聯シテ家畜ト云フモノハドウ云フモノデアルカト云フコトヲ能ク定メテ行カナケレバナラヌト思フノデアリマス、私ハ豫備知識ヲ得ル爲ニ貴族院ノ速記錄モ此處ニ持ッテ來テ居ルノデアリマスガ、政府ノ說明スル所ハ斯樣ニナッテ居ルノデアリマス、私ガ分ラナイバカリデナク、恐ラクハ諸君ニ於テモ御分リ惡イト思フノデアリマス、是ハ曾我子爵ノ委員長トシテノ御報告ノ御演說中ニアルノデアリマスガ「獸醫ト云フ字ノ定義ハ如何」是ハ委員會デ斯ウ云フ質問ガ出タト云フコトヲ此處デ述ベラレテ居ルノデアリマス、「獸醫ト云フ獸ノ字ノ定義ハ如何」或ハ「獸畜」、或ハ「家畜」、或ハ家禽ト云フヤウナ字ガ用キラレテアルガ、此定義ヲ明カニスル必要ガ大ニアルト思フ、如何トナレバ此法案ト云フモノハ、法律ノ制裁ヲ加ヘルコトニナッテ居ルカラ、獸ノ字ノ定義如何ニ依テハ、非常ニムヅカシイ問題ガ起リハセヌカト云フヤウナ御質問デゴザイマシタ、政府ノ說明

スル所ニ依リマスレバ、此字ノ定義ニ付キマシテハ、政府自身モ非常ニ適當ナル字ヲ探サレマシタガ、遂ニ其一言ニシテ盡ス所ノ簡單ニシテ明瞭ナル所ノモノヲ見出スコトガ出來ナイ、而シテ今日政府ノ解釋シテ居ル所ノ獸畜、或ハ家禽ヲ込メテ、サウシテ人間ノ馴飼シ馴ラシ得ル所ノモノ、普通ノ狀態ニ於テ人間ガ飼養持ッテ居ル所ノモノ、其肉ハ以テ食料ニ供スルコトヲ得、其中カラ勞働ニ使用スルコトヲ得ルモノ、又其毛、革、ノ如キハ工業原料ニナリ得ルモノ、其外ニ愛玩用ノ獸、卽チ競馬馬トカ、犬トカ、猫トカ云フ種類ノモノヲ含ンダモノト解釋シテ居ル、今日ニ於テハ其範圍ヲ確定的ニ定メルト云フコトハ非常ニムヅカシイカラ、ドウカ常識ノ判斷ニ俟ッテ貰ヒタイト云フヤウナ御說明デゴザイマシタ」斯ウ云フコトニナッテ居リマス、ソレデ私ハ斯ウ云フ コトヲ家畜ノ定義如何ナドヽ直ニ御問ヒ申シテモ、矢張同ジヤウナ答辯ガアルダラウト云フコトヲ恐レテ、先廻リシテ此事ヲ私ハ申上ゲテ置ク、私ハ斯ノ如キ答辯デハ滿足致サヌト云フコトヲ、時間ノ節約上豫メ申上ゲテ置クノデアル、何ガ故ニ斯ノ如キ說明デハ私ハ滿足セヌカト云フト、法律ノ解釋ニ常識ヲ用ユルト云フ如キコトハ、何ノコトデアルカ、サウ云フ法律上ノ解釋ガ違フト云フコトニ相成ル、斯樣ナコトニ相成ルダラウト思フ、或ハ警察官デアルトカ、或ハ裁判官デアルトカヽ、是ハ家畜デアル、左樣デアルカラオ前ハ之ヲ診察シテ吳レト言ッタノニ、行カヌカラ百圓ノ罰金ニ處スル、或ハ又鼠ノ如キモノ、鼠ハ家畜デアル、是ハ大切ナ家畜デアル、或ハ又「ライオン」ガ少シ風邪ヲ引テ五六日寢テ居ル、是デハ困ルカラト云フテ來ル、斯ウ云フ猛獸モ馴ラセバ馴サレルモノデアル、或ハ豹ト云フモノガアル、大分欝イデ居ッタガ、近頃是ガ調子ガ變ッテ時々大キナ聲デ嚇シタリスルガ、是ハ病的デアルカモ分ラヌカラ診察シテ來レト言フテ來ル、併ナガラ是ハ猛獸デハアリマスケレドモ、之モ馴ラセバ馴ラシ得ル、馴飼シ得ルコトガ出來ル、ソレノミナラズ斯カル獰猛ナル動物モ、馴ラシ飼ッテ馴ラスコトガ出來ルモノデアルト云フヤウナコトニナレバ「ライオン」ヤ豹ナドガ問題

ニナラヌトモ限ラヌ、私ハ斯ウ思フノデアリマス、マダ色々アル、而シテ私ハ法律ノ上ニ於テ家畜ト云フ語ヲ探シマシタケレドモ、私ハ唯家畜傳染病豫防法ニ於テ、此法律ノ云フ家畜ハ是レ是レデアルト云フヤウナコトヲ八ツバカリ掲ゲテ居ルト云フ外ニ、家畜ト云フ語ハ見出サナイ、卽チ此法律ニ依リマスト、家畜ト云フノハ馬、牛、綿羊、山羊、或ハ犬、ソレカラ鷄デアルトカ、或ハ鷲鳥デアルトカ——ソレカラモウ一ツ拔ケタノデアリマス、ア、豚ガ入ッテ居ッタ、是デ八ツニナル、マア常識ノ標準ハ之ニ依テ見レバ宜イジヤナイカト云フコトヲ政府當局ハ言ハレルノデアラウケレドモ、常識ノ標準ト云ッテモ、鷲鳥ガ家畜ノ中ニ入ッテ居ラナイト云フノハオカシイジヤナイカ、日本ニ鷲鳥ナドハドレ位アルカト云フコトハ、統計ヲ見レバ分ル、此法律デハ常識デヤルト云フガ、而モ政府デハ大ニ奬勵ヲサレテ居ル所ノ狐ノヤウナモノハドウデス、千島邊リニハ四箇所モ養狐所ヲ設ケテ、狐ノ蕃殖トデモ言ヒマセウカ、サウ云フコトヲ行ッテ居ル者ガアル筈デアル、法律ナドヲ探シテ見テ見マスルト——別ニ探ネル必要ハナイダラウト思ヒマスガ、種狐ヲ配付スルト云フ規定ナドガアル以上ハ、此種狐ヲ養成シテオキデナル、サウ云フモノヲ家畜ニ入レナイト云フコトハ、不思議ナ話デアリマスカラ、是ハ矢張常識ノ標準ニハナラナイト云フコトニナリマスト云フト、一體家畜ト云フモノハ何ヲ指スカト云フコトニナルダラウト思フ、サウ云フコトニナリマスト云フト、一ノデアリマス、先程「ライオン」、豹ナドノ猛獸ト云フヤウナモノモ、十分馴ラシマスト云フト、柔順ナモノニナル、又是ガ觀賞用ナドヽ云フコトニナリマスト云フト、何萬圓ニ賣レル品物ニナルダラウカト思フノデアリマス、左樣デアリマスカラ、外國ト同ジヤウニ、我國ニ於テモ之ヲ馴致致シ、繁殖致シマシテ、逆ニ海外ニ輸出スルト云フヤウナ商賣ガ、玆ニ出テ來ルダラウト私ハ考ヘテ居ルノデアル、斯ウ云フヤウナコトデアリマスルト云フト、斯フ云フ猛獸デアリマスケレドモ、是ハ猛獸バカリデモナカラウト思フ、隨分之ニ類シタヤウナモノガ澤山アルダラウト思フノデアリマス、實際ニ於テ疑問ノ生ズルモノヲ、犬ナド、申シテモ、隨分高價ナモノガアルト云フコトヲ私ハ度々聞イテ居ル、或ハ英吉利

ノ獵犬ナドハ、二十萬圓モスルモノガアル、現ニ議員ノ中ニ中野君ノ如キ露西亞犬ヲ三頭モ持ッ居ル、一日ノ食事ダケデモ五圓掛ル、吾々ノ食費ヨリハ餘程多イノデアル、斯ウ云フ御方ニハ、犬ナドノ病氣シタ時ハ、オ爨ドンヤ下男ナドノ病氣ニナッタヨリ餘程心配シ、苦痛ニ感ゼラレルダラウ、醫者ノ所ニ駈付ケテ、醫者ガ來テ呉レテ獸醫ガ來ナカッタ、或ハ醫者モ來ナカッタ、獸醫モ來ナカッタ、兩方來ナカッタト云フ場合ニハ、醫者ノ方ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處セラレ、獸醫ノ方ハ百圓以下ノ罰金ニ處セラレルト云フ場合ニハ、下男ノ生命ヨリハ、此犬ノ生命ガ大切ダト云フ斯ウ云フコトニナルト、サウ云フコトニ齟齬ヲ來スガ故ニ、私ハ家畜ナルモノヽ、定義ヲ嚴密ニシナケレバナラヌ、而シテ一方ニ於テハ、ソレデアルカラ馴ラスコトガ出來ルトカ、或ハ繁殖性ヲ持ッテ居ルモノモアリ、或ハ今ノ畜産學ノ原則カラ言フト、繁殖シタモノガ又馴化スルコトガ出來ルト云フコトヲ言ッテ居ルヤウデアリマスケレドモ、ソンナコトヲ以テ此獸醫師ヲ律スルコトノ基礎ニ致シタラ、將來隨分面倒ナ問題ガ起ルデハナイカト吾々ハ考ヘテ居ル、殊ニ一方ニハ獸醫學ナドヽ云フモノハ、日進月歩、駸々乎トシテ進ンデ居ッテ、我國ニ於テハ水產ト云フコトハ、獸醫學カラ省イテ居ルヤウデアルケレドモ、諸外國ニ於テハ水產モ亦獸醫學ノ中ニ……ソレデ私ハ家畜ノ定義ガ分ラヌト云フヤウナコトヲ非常ニ……

右演說中議長ハ定足數ヲ缺クノ虞アリト認メ延會ヲ宣告ス仍テ翌二十四日質疑ヲ繼續セリ

三月二十四日ニ於ケル質疑應答左ノ如シ

高橋熊次郎君ノ質疑

本案ニ對シテ昨日質疑ノ演說中ニ、不幸ニ致シテ本議場ニ於テ議員出席ノ定足數ヲ缺キマシタガ爲ニ、延會ノ已ムヲ得ザルニ出デタノデアリマス、洵ニ私ハ之ヲ遺憾トスル者デアリマス、而シテ昨日ハ本案ニ對シテ、先ヅ審議ヲ進ムル上ニ置キマシテ、第一疑問ト致シマシタノハ、家畜ノ意義如何、又此法案ニ包含セラレタル所ノ範圍ハ如何ナルモノデアルカト云フ質問ヲ致シタノデアリマス、而シテ私ハ更ニ進ンデ、此法案ニ於テ獸醫師ハドレ程保護サレルノデアルカト云フコトヲ伺ヒタイト思ッタノデアリマス、而シテ獸醫師ハ頗ル社會ヨリ受クル所ハ薄イノデアル、左樣デアリマスルガ故ニ、獸醫師ノ生活ノ保障ヲ將來ニ求メナケレバナラヌ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル所見ヲ持タルヽカト云フコトヲ詳細ニ承リタイト思ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ私ハ議場ノ模樣竝ニ會期モ僅カ餘ス所ハ二日デアル、政府ノ提出案竝ニ議員ノ提出諸案ガ山積ヲ致シテ居ル狀況ヲ見マシテ、又更ニ重要ナル緊急上程ノ案件モアルト云フコトヲ承ッテ居ルノデアリマス、左樣デアリマスルカラシテ、私ハ家畜ノ意義其他ニ對スル昨日ノ此ノ壇上ニ於テ陳述致シタル疑問ノ點ヲ、政府ノ御答辯ヲ求ムルニ止メマシテ、自餘ノ數點即チ私ノ伺ハントスル其他ノ疑義ノ重要ナル二三ノ點ニ對シマシテハ、委員會ニ於テ其ノ詳細ヲ陳述致シテ政府ノ所見ヲ求ムルコトニ致シマシテ、本會ニ於ケル陳述ハ大ニ讓歩ヲ致シマシテ、此程度ニ止メタイト思フ次第デアリマス

高田政府委員ノ應答

第一ハ、第十三條ノ罰金ガ醫師法其他ニ比シテ非常ニ重イデハナイカ、斯ウ云フ御疑問ト拜承致シマシタ、成程、獸醫師法ト單純ナ醫師法ト比較スレバ重イノデゴザイマス、併シ是ハ經濟狀態ノ變化ニ依リマシテ、罰金ノ刑ヲ重クスルト云フコトモ已ムヲ得ナイト思フノデゴザイマス、醫師法ニ於テハ輕イノデゴザイマスガ、最近制定致シマシタル所ノ藥劑師法ニ於キマシテハ、即チ五十議會ニ於テ制定セラレタル所ノ藥劑師法ニ於キマシテハ、其第十八條ニ於テ、丁度此獸醫師法ニ在ル、正當ノ事由ナクシテ治療ヲ拒ムコトヲ得ズト同樣ノ意味ニ於テ、正當ナ事由ナクシテ調劑ヲ拒ンダ場合ノ規定ガアルノデゴザイマス、此規定ハ二百圓以下ノ罰金ニナッテ居ルノデゴザイマス、卽チ醫師法ト比較致シマスレバ、成程罰金ハ重イノデゴザイマスケレドモ、醫師法ノ此罰金ノ制定ハ、ズット古イコトデゴザイマスカラ、經濟狀態ノ變化ニ依テ、所謂罰金ノ效力ヲアラシムル爲ニハ相當ノ程度ニ引上ゲルコトガ必要デアル、斯ウ云フ理由デゴザイマス、卽チ昨年制定シ

タル藥劑師法ハ二百圓以下デゴザイマスケレドモ、其半額ニ致シタ次第デゴザイマス、次ニ獸醫師ノ定義ノ問題、是ハ昨日高橋君ガ貴族院ノ議事錄ヲ御引用ニナリマシタガ、此獸醫師ノ定義ヲ定ムルト云フコトハ、極メテ困難デゴザイマシテ、實ハ本案ヲ立案スル當時ニ於キマシテモ、又貴族院ノ委員會ニ於キマシテモ何トカ獸醫師ノ定義ヲ極メル方ガ宜シイデハナイカト云フ意見モアリマシタガ、ドウモ、ドウ研究致シマシテモ、定義ヲ決メルト云フコトハ容易デナイノデゴザイマシテ、隨テ諸外國ニ於キマシテモ、獸醫師ト云フモノニ付テノ一定ノ定義ガゴザイマセヌヤウデゴザイマス、併ナガラ何等カ定義ラシイモノヲ決メナケレバナラヌ、ソコデ政府ノ意見トシテハ、獸醫師ハ家畜ノ疾病ニ關スル診察、治療ヲ施ス者ヲ謂フ、但シ疾病ノ豫防及健康モ司ル者デアル、大體斯ウ解釋致スノデゴザイマス、然ラバ家畜トハ如何、家畜トハ人ノ飼養ノ下ニ馴致シ、通常——通常デゴザイマス、通常蕃殖シ得ル鳥獸ヲ謂フ、斯ウ云フ解釋ヲ採ッテ居ルノデゴザイマス、故ニ昨日一寸御話致シマシタ狐ノ問題デゴザイマス、狐ガモウ少シ進歩シテ參ッテ、アレヲ飼養スル程度ガ進歩シテ參ルト云フト、或ハ狐ガ家畜ニ進ム時代ガアルカモ知レマセヌ、又「ライオン」モ熊モ或ハサウナル時代ガアルカモ知レマセヌガ、當分ハ政府ノ解釋デハ、是ハ家畜ト見ナイノデゴザイマス、猛獸ノ中ニ入レテ居ルノデゴザイマス、左樣御諒承ヲ願ヒマス、尙ホ詳細ハ高橋君ノ御意見モアリマシタ、委員會ニ於キマシテ申上ゲルコトニ致シタイト思ヒマス

土屋清三郎君ノ質疑

私ハ農林及文部當局者ニ極メテ簡單ニ質問ヲ致シマス、只今農林當局者ハ高橋君ノ獸トハ何ゾヤト云フコトノ質問ニ對シマシテ、人ノ飼養ノ下ニ馴致シ且ツ蕃殖スルモノヲ云フト云フコトヲ申サレマシタガ、此問題ハ貴族院ニ於テモ澤山質問ガアリマシタ通リ、獸醫師ニ取リマシテハ其權利義務ニ重大ナル關係ヲ持ッテ居ルノデアリマシテ、若シ果シテ只今農林當局者ノ御說明ノ如ク、人ノ飼養ノ下ニ馴致シ且ツ蕃殖スルモノヲ謂フト云フコトデアリマスレバ、貴族院ニ於ケル御說明ノ如ク均シク人ノ飼養ノ下ニ馴致シ且ツ蕃殖スルモノデアリマシテモ、蜜蜂及蠶ハ除クト云フ御答辯デアッタ、左樣致シマスルト云フト、二十日鼠モ小鳥モ亦此家畜ノ中ニ入ルコトニナルノデアリマス、果シテ左樣ナ事ニナリマスレバ、是等ノ小鳥ヤ鼠ノ病氣モ亦此法案ニ依テ獸醫ヲ拘束シテ、卽チ二百圓以下或ハ三百圓以下ノ罰金ニ處セラレ、若クハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止シ、或ハ免許取消等ノ行政處分ヲ受クルノデアリマシテ、獸醫ニ取リマシテハ洵ニ重大ナル問題デアルノデアリマス、立法者トシテハ斯ル漠然タル定義ヲ以テ、此法律ヲ施行サレルト云フコトハ甚ダ深切ヲ缺イテ居リハシナイカト思フノデアリマス、故ニ家畜ノ範圍ヲ此法律又ハ之ヲ施行スル所ノ命令ニ列記セラレマシテ、ソレ以外ノ動物ハ自由ニセラレルト云フコトガ深切ナル所以デハナイカト考ヘルノデアリマスガ、此點ニ付テハドウ御考ニナッテ居ルノデアリマスカ、第二ハ獸醫師ノ教育ト產業政策トノ關係デアリマス、御承知ノ如ク產業振興ノ基礎ガ科學ノ應用ニ俟ツコトハ申スマデモナイコトデアリマス、而シテ獸醫學ハ家畜產業ノ基礎科學デアリマシテ、成ベク之ヲ廣ク應用シテ畜產ノ發達ヲ圖ルト云フコトガ、蓋シ賢明ナル爲政者ノ執ルベキ態度デアリマセウ、又現ニ獨逸ニ於テハ蜜蜂モ亦獸醫ノ範圍ニ算ヘ、伊太利ニ於テハ蠶モ亦獸醫ノ範圍ニ數ヘテ居ルト云フコトデアリマス、然ルニ我國今日ノ獸醫學ノ教育狀態ヲ見マスルト云フト、常ニ牛馬羊豚若クハ家禽ノ範圍ニ限ラレテ居ルヤウデアリマスガ、將來廣ク此獸醫教育ノ範圍ヲ擴張致シマシテ、產業的動物ノ全部ニ及ボシテ、之ヲ產業發展ニ資スルノ御考ガナイカドウカ、是ガ第二點デアリマス、第三ハ學位、稱號ニ關スルコトデアリマス、本法案ニハ「獸醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス」ト云フ規定ガアリマス、立案ノ趣旨ハ恐ラク廣告ニ因ル所ノ業務上ノ不正ノ競爭ヲ避ケルト云フコトデアリマセウガ、學位モ稱號モ亦經歷ノ一ツデアリマス、恐ラク是ハ醫師法ノ規定ヲ其儘御採用ニナッタト思フノデアリマスルケレドモ、今日此學位、稱號ノ廣告ニ付テハ、醫師會ニ於テハ既ニ其弊ニ堪ヘナイノデアリマス、社會モ亦同樣デアル、現ニ昨年來此議會ニハ本會議ニ於キマシテモ、醫學博士ナルモノヽ取締ニ付テ屢

意見ガ出テ居ルノデアリマス、然ルニ獸醫師法ヲ制定スルニ當リマシテ、漫然之ヲ御採用ニナッタト云フコトハ、如何ナル次第デアリマスルカ、元來稱號ト云フモノハ學校卒業者ノ一ツノ標デアル、醫師若クハ獸醫タル資格或ハ業務ニハ何等ノ關係ガ無イノデアリマス、又學位ハ大學院卒業程度ノ者ニ與ヘラルヽモノデアリマシテ、教授ノ指導ナクシテ謂ハヾ獨リ歩ミデ研究ノ出來ルト云フコトヲ認メラレタモノニ過ギナイノデアリマス、醫師獸醫ノ資格、醫術ノ巧拙又ハ業務ト何等ノ關係ガアリマセヌ、況ヤ學術上ノ研究功績ニ對シマシテハ、現ニ學士院賞ノ規定ガアルノデアリマシテ、何等ノ不都合ヲ感ジナイノデアリマス、普通選擧ヲ前ニ致シマシテ、高等專門ノ學校ニ這入リ得ル資格ノ子弟ノミノ爲ニ與ヘラレル所ノ稱號、若クハ何等職業上ノ資格、技能、業務ト關係無クシテ、而モ百弊有ッテ一利ノ無キ所ノ學位、是等ノ學位、稱號ハ文部當局ニ於テ斷然之ヲ廢止スル所ノ意思ガ無イカドウカ、此三ツノ點ニ付テ御說明ヲ願ヒタイノデアリマス

高田政府委員ノ應答

只今ノ御質問ノ第一點ニ御答シマス、定義ヲ決メテ置カナケレバ獸醫師法ニ於テ色々制裁ヲ設ケタカラ困ルデハナイカト云フ、斯ウ云フ御意見デゴザイマス、併ナガラ此獸醫師法ト云フ名前ハ今度付クノデゴザイマスケレドモ、明治二十三年ノ當時ヨリ法律トシテ獸醫師取締規則ガアルノデゴザイマス、故ニ數十年ノ間獸醫師ト云フモノハ社會ヨリ見マスト、ドウ云フ仕事ヲスルモノデアルカト云フコトハ、大體ニ於テ社會一般ニ於テ了解サレテ居ルモノト思フノデゴザイマス、但シ獸醫師ト云フ定義ヲ定ムルコトガ是ガ非常ニ容易ナ事デアレバ、定メルコトハ結構ト思ヒマスケレドモ、中々容易ナ事デナイノデゴザイマスカラ、政府ハ既ニ數十年來獸醫師ト云フモノガアリマシタノダカラ、而シテ法律ノ上ニ其言葉ガアッタノデアリマスカラ、是ガ社會一般ニ通用サレテ居リマシテ、却テ誤解ヲ受クルコトナクシテ、獸醫師ト云フモノヽ自然ニ定義ガ定マッテ居ルヤウニ思ヒマス、故ニ現在ノ狀態ヨリ致シマシテ、決シテ獸醫師ノ定義ヲ別ニ定メズトモ、何等獸醫師業者ガ其仕事ヲ行フニ付キマシテ憂慮ノ點ハナイヤウニ思ヒマスカラシテ、政府ハ原案ヲ以テ當然ト信ジテ居ル次第デアリマス

鈴置政府委員ノ應答

只今土屋君ヨリ獸醫教育ノ範圍ヲ擴張シテハ如何、擴張スルノ意思ナキヤト云フ御質問デアリマス、成程農林省デ申ス此獸醫ト、只今文部省ニ於テ教育シテ居リマスル範圍ハ、幾ラカ學校ノ方ガ狹クナッテ居リマス、例ヘバ大學等ニ於キマシテ、鷄、家鴨ト云フモノハ學科ノ中ニ這入ッテ居リマスガ、其以外ノ鷲鳥トカ若クハ七面鳥ト云フモノハ這入ッテ居リマセヌケレドモ、私ハ能ク經驗家デナイノデアリマスカラ存ジマセヌガ、鷄ヲ診察スル力ガアレバ、或ハ鷲鳥モ之ニ附隨シテ診察シ得ルモノカト思ヒマス、サリナガラ此獸醫師法ガ實行サレマスレバ、此猶豫期間、即チ八年間ニハ只今ノ中等學校ハ總テ專門學校ニ昇格スルデアラウト思ヒマスカラ、其昇格スル際ニ於テ、只今土屋君ノ御質問ノ如キ意味ヲ考慮致シマシテ、範圍ヲ十分擴張スルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ學位ヲ廢スル意思ナキヤト云フ御話デアリマシタガ、是ハ單リ獸醫學ノ事バカリデハアリマセヌ、全體ノ事デアラウト存ジマス、此問題ニ付キマシテハ特ニ醫學博士濫造トカ、若クハ醫學博士ガ一般ノ病人ヲ瞞著スルトヤウナ質問ガ、今期ノ議會ニモ出マシテ答辯ヲ致シテ置キマシタガ、今之ヲ廢スル意思ハアリマセヌ、世間一般ガ博士トカ若クハ學士トカ云フモノヽ見解ヲ誤ッテ居リマスヽ、是ハ學問ニ對スル敬稱デアリマシテ、決シテ學者ガ必シモ實際家ト云フ譯デハナイノデアリマシテ、經濟學ノ本ヲ讀了シテ居ッテモ、必ズ相場ニ勝ット云フ譯デハアリマセヌ、多ク負ケルコトニ決マッテ居リマスカラ、學者必シモ實際ト一致シナイモノデアリマセヌ、勿論此醫學博士ト云フ稱號ニ依テ開業シテ居ルモノデハアリマセヌ、他ノ資格ニ依テ開業シテ居ルノデアリマスカラ、此醫學博士ガ必シモ臨床上ニ特別ノ手腕家ト云フ意味デハアリマセヌ、隨分基礎醫學ニ於テ博士號ヲ得テ居ル人ガ多イノデアリマスカラ、斯ノ如キ誤解ガアリマス爲ニ、此博士號廢止ト云フヤウナ議論モ出テ參リマスガ、現ニ近頃ハ大分博士ニ對スル見解ガ能ク一般ニ分ッテ參リマシテ、或ル醫學博士ハ「博士ニ相成候共

診察料ハ從前ノ通リ」ト云フコトヲ言ッテ居ル位デアリマスカラ、自然此事ガ分ッテ參リマスレバ、博士號ハ學者ニ對スル敬稱デアル、診察料ハ禮デアル、只今ノ御質問モ其意ヲ宣傳スルコトニナリマスカラ、漸次其諒解ヲ得マシタナラバ、今日ノ如キ弊害ハ段々消滅スルコトニナルト思ヒマス、今此博士號ヲ廢止スルト云フヤウナ考ハ毫末モナイノデアリマス、左樣御承知ヲ願ヒタイ

他ニ通告者ナク、質疑ハ玆ニ終局ス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名（九名）ニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ卽日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ卽日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

獸醫師法案中左ノ通修正ス

第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第四條ヲ第五條ニ改メ以下第十一條迄順次繰下ク

第四條　獸醫師ニ非サレハ家畜ノ疾病ニ關スル診察又ハ治療ヲ業務ト爲スコトヲ得ス

前項ノ家畜ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條ヲ第十三條ニ、同條第一號ヲ左ノ如ク、第三號中「第四條又ハ第七條」ヲ「第五條又ハ第八條」ニ改ム

一　第四條ノ規定ニ違反シタル者

第十三條ヲ第十四條ニ、同條中「第五條又ハ第六　」ヲ「第六條又ハ第七條」ニ改ム

卽日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長服部英明君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

獸醫師法案ハ御承知ノ通リ貴族院ニ於テ二箇所修正セラレマシタ、其一ツハ第四條中「處方箋」ノ三字及「若ハ治療ヲ爲シ」ト云フ七字ヲ削ッテアルノデアリマス、次ニ附則第八項中ノ「八年」ヲ「十二年」ト改メラレタノデアリマス、此貴族院ノ修正セラレマシタル獸醫師法案ニ對シマシテ、私共委員會ハ愼重審議ヲ致シマシテ、熱心ナ質問ニ對シ、懇切ナル應答ガアリマシタノデアリマスルガ、其結果、委員土屋清三郎君ヨリ修正案ガ出タノデアリマス、只今ソレヲ朗讀致シマス、原案ノ第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ、第四條ヲ第五條ニ改メ以下順次繰下ゲルコトニナリマシタ、其第四條ハ卽チ「獸醫師ニ非サレハ家畜ノ疾病ニ關スル診察又ハ治療ヲ業務ト爲スコトヲ得ス前項ノ家畜ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フ此一條ヲ加ヘタノデアリマス、此一條ヲ加ヘマシタル結果、當然之ニ伴フ變更ヲ生ジタノデアリマス、卽チ第十三條第一號ヲ左ノ如ク改ムルコトニナリマシタ「第四條ノ規定ニ違反シタル者」ト云フコトニ改ムルコトニナリマシタ、次ニ第十三條第三號中「第四條又ハ第七條」ヲ「第五條又ハ第六條」ヲ「第六條又ハ第八條」ニ改ムルコトニ相成リマシタ、以上ノ修正案ガ土屋君カラ提案セラレマシテ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、卽チ本案ニ對スル所ノ委員會ノ結果ハ、左ノ如ク修正ヲ加ヘマシテ、滿場一致可決ヲ致シタノデアリマス、若シ夫レ詳シイ事ニ至リマシテハ委員會ノ記錄ヲ御覽ヲ願フコトニ致シタイノデアリマス、右委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ卽日貴族院ニ回付ス同院ハ三月二十五日本院ノ修正ニ同意奏上シ其ノ旨本院ニ通知ス四月七日法律第五十三號ヲ以テ公布セラル

六三　民事訴訟費用法中改正法律案

民事訴訟費用法中左ノ通改正ス

第一條中「訴訟費用ハ」ヲ「訴訟費用ハ權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナル限度ノ費用トシ」ニ改ム

第八條中「第百二十七條」ヲ「第百三十五條」ニ、「附添ヲ命シタルトキハ」ヲ「附添ヲ命シタルトキ又ハ同法第二百六十二條若クハ第三百十條第一項ノ規定ニ從ヒ囑託ヲ爲シタルトキハ」ニ改ム

第十一條乃至第十三條中「及ヒ通事」ヲ「、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル說明者」ニ改ム

第十七條　證人、鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル說明者ノ日當、旅費、止宿料其他ノ費用ハ請求ニ因リ裁判所之ヲ支拂フ民事訴訟法第二百六十二條及ヒ第三百十條第一項ノ規定ニ依ル囑託ヲ受ケタル者ニ對スル報酬亦同シ

第十八條　當事者ノ豫納ニ係ラサル費用ハ裁判ニ因リテ其費用ヲ負擔スヘキ者ヨリ裁判所之ヲ取立ツルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル費用ノ取立ハ第一審ノ受訴裁判所ノ決定ニ依リ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ民事訴訟法第百二十三條ノ規定ニ從ヒ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ相手方ヨリ裁判費用ノ取立ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　民事訴訟法第百二十一條及ヒ第百二十二條ノ規定ニ依ル費用ノ取立ノ決定ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

六四　民事訴訟用印紙法中改正法律案

（小字及――ハ貴族院修正）

民事訴訟用印紙法中左ノ通改正ス

第二條中「第三條乃至第六條」ヲ「第二十二條第一項及ヒ第二十三條」ニ改ム

第五條ノ二　民事訴訟法第七十一條又ハ第七十五條ノ規定ニ依ル參加ノ申出書ニハ第二條、第三條及ヒ前條ノ規定ニ準シ印紙ヲ貼用ス可シ

第六條中「支拂命令ノ申請」ヲ「支拂命令ノ申立」ニ改ム

第六條ノ二中「左ニ揭クル申立」ヲ「左ニ揭クル申立、申出」ニ改メ同條第一號乃至第十三號ヲ左

ノ如ク改ム

一　期日指定ノ申立
二　中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立
三　民事訴訟法第六十四條ノ參加ノ申出
四　除斥又ハ忌避ノ申立
五　和解ノ申立
六　費用額確定ノ申立
七　假執行ニ關スル申立
八　強制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立
九　配當要求
十　強制競賣又ハ強制管理ノ申立
十一　債權又ハ他ノ財產權差押ノ申請
十二　民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

第六條ノ三中「左ニ揭クル申立」ヲ「左ニ揭クル申立、申出」ニ、「證據調ノ申立」ヲ「證據ノ申出」ニ改ム

第七條　和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百五十六條第三項又ハ第四百四十二條ノ規定ニ依リ訴訟カ繫屬スルトキハ第二條及ヒ第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但第六條又ハ第十條ノ規定ニ依リ貼用シタル印紙ノ額ヲ通算ス

第九條　削除

第十條中「申立」ヲ「申立、申出」ニ改ム

第十一條中「第九十七條」ヲ「第百二十條」ニ改ム

第十二條乃至第十五條　削除

第十六條中「及ヒ第十二條」ヲ削ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

六五　商事非訟事件印紙法中改正法律案

商事非訟事件印紙法中左ノ通改正ス

第一條中「民事訴訟用」ヲ削ル

第二條第三號ヲ削ル

第六條中「協諧契約」ヲ「强制和議」ニ改ム

第八條中「第二章第五節」ヲ「第三章第一節」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

六六　非訟事件手續法中改正法律案

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

第四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

管轄裁判所ノ指定ハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條中「第六十四條」ヲ「第八十條」ニ改メ同條但書ヲ左ノ如ク改ム

但私文書ニ認證ヲ受クヘキ旨ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條　民事訴訟法第百五十條ノ規定ハ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第二十二條　當事者カ其責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ卽時抗告ノ期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ノ止ミタル後一週間內ニ限リ懈怠シタル行爲ノ追完ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　削除

第二十五條中「前五條ニ」ヲ「特ニ」ニ改ム

第二十九條中「第八十條第一項」ヲ「第九十三條」ニ改ム

第三十條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル

但獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十八條中「第七十二條第一項」ヲ「第八十九條」ニ改ム

第百二十六條中「、第百九十八條及ヒ商法施行法第九十五條第二項、第百二條第二項、第百十條第二項」ヲ「及ヒ第百九十八條」ニ改ム

第百三十四條中「、第四十八條及ヒ商法施行法第百二條第二項」ヲ「及ヒ第四十八條」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

六七　人事訴訟手續法中改正法律案

人事訴訟手續法中左ノ通改正ス

第十條中「第百十一條第二項、第三項及ヒ第三百三十五條乃至第三百四十一條」ヲ「第百三十九條、第百四十條第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條」ニ、「第二百二十九條」

ヲ「第二百三條」ニ改メ第三項ヲ削ル

第十一條第二項ヲ削リ同條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改ム

第四十六條中「第六節及ヒ第七節」ヲ「第三節第二款及ヒ第三款」ニ改ム

第七十九條中「第五十條」ヲ「第六十二條及ヒ第六十三條」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

六八　競賣法中改正法律案

競賣法中左ノ通改正ス

第二十五條第三項ヲ削ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

六九　民法中改正法律案

民法中左ノ通改正ス

第百五十條　支拂命令ハ債權者カ法定ノ期間内ニ假執行ノ申立ヲ爲ササルニ因リ其效力ヲ失フトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

七〇　破產法中改正法律案

破產法中左ノ通改正ス

第二百八十八條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第四項ヲ削ル

破產者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ債權調查ノ期日ニ出頭スルコト能ハサリシトキハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ一週間内ニ限リ異議ヲ追完スル爲破產裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

七一　明治三十二年法律第五十號中改正法律案

明治三十二年法律第五十號中左ノ通改正ス

第二條　削除

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

參照

外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律明治三十二年三月法律第五十號

第一條　法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル

捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

第二條　民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ求ムル外國人ハ日本ニ住所、居所ヲ有セサルトキハ其ノ住所又ハ居所アル外國ノ管轄官廳ノ證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ證明書ニハ日本ニ駐在スル其ノ外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所地又ハ居所地ノ市町村長ノ證明書ヲ以テ前項ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ證明カ不十分フルトキハ裁判所ハ日本ニ駐在スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出

セシムルコトヲ得

七二　刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第五百七十條但書ヲ削ル

第五百七十二條中「保證」ヲ「擔保」ニ、「請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決」ヲ「請求ノ拋棄」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右十案ハ、孰レモ大正十五年二月十九日貴族院ニ提出ス同院ハ三月九日（六三）案及（六五）乃至（七二）案ヲ可決、（六四）案ヲ修正議決シ即日本院ニ送付ス本院ハ三月二十四日十案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ本田政府委員ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

此十件ノ法律ノ改正ハ、主トシテ民事訴訟法改正ニ伴ヒマシタル所ノ結果デアリマス、民事訴訟費用法中ニ訴訟費用算定ノ原則ヲ明ニスル規定ヲ設ケマシタコト、又訴訟上ノ救助ヲ爲シタル場合ニ於ケル費用ノ取立テニ關スル規定ヲ新設致シマシタコトハ、改正ノ主眼ニナッテ居リマス、其他ノコトハ總テ民事訴訟等ノ改正ニ伴ヒマス所ノ整理的ノ改正デゴザイマスル、民事訴訟費用法中ニ貴族院ニ於テ一箇所修正ニナッテ居リマスガ、是ハ民事訴訟法ヲ修正サレタ結果デ、自

然修正ニナッタ次第デアリマスカラ、政府モ之ニ同意致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス

次ヲ委員ノ選擧ハ十案ヲ一括シテ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ即日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シ十案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長井坂豐光君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

該委員會ハ昨日本日ノ二日間ニ亙リマシテ、委員諸君ニ於カレマシテ愼重審議ノ結果、政府原案ヲ可決スルコトニ相成リマシタ、詳シクハ速記錄ニ於テ御覽ヲ願ヒマス、玆ニ御報告致シマス

院議異議ナク十案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決奏上シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

四月二十四日法律第六十三號(六三)案)、法律第六十四號(六四)案)、法律第六十五號(六五)案)法律第六十七號(六六)案)、法律第六十六號(六七)案)、法律第六十八號(六八)案)、法律第六十九號(六九)案)、法律第七十號(七〇)案)、法律第七十一號(七一)案)、法律第七十二號(七二)案)ヲ以テ公布セラル

大正九年法律第五十三號(關スル件)

大正九年法律第五十三號中左ノ通改正ス

第三條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「前項ノ設備ヲ爲ス者」ヲ「前項ノ設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者」ニ改ム

一ノ場所ニ於テ一年三萬五千噸以上ノ製銑能力及一年三萬五千噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ノ爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ朝鮮ニ輸入スルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第八條中「關稅法、」ノ下ニ「關稅定率法、」ヲ加フ

別表輸入稅表中「礦油(關稅定率法別表輸入稅表第一一二號二ノ乙ニ該當スルモノ)」ヲ「礦油(關稅定率法別表輸入稅表第一一二號二ノ甲ニ該當スルモノノ內〇・七三〇ヲ超エ〇・八七五ヲ超エサルモノ)」ニ、「木材(關稅定率法別表輸入稅表第六一二號一ノ己及癸ニ該當スルモノ)」ヲ「木材(關稅定率法別表輸入稅表第六一二號一ノ己ノ二ノイ及ロ竝癸ノイニ該當スルモノ)」ニ改メ「綿羊(生活力ヲ有スルモノ)無稅」ヲ削ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條ノ改正規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ大正十五年三月十一日本院ニ提出ス三月十八日本案ハ政府提出製鐵業奬勵法改正法律案(本項第一(七五))及製鐵所特別會計法案(本項第一(八〇))ノ兩案ト相關聯セル議案ナルニ依リ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ片岡商工大臣ハ提案ノ趣旨辯明ヲ爲シ次テ委員ノ選擧モ亦(七五)及(八〇)ノ兩案ト一括シテ議長指名(十八名)ノ委員ニ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シ本案ハ(七五)及(八〇)ノ兩案ト一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二、第三讀會ヲ開キ原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ三月二十九日法律第三十七號ヲ以テ公布セラル(委員會ノ經過ハ本項第一(七五)參看)

七四　大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコーツク」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案

第一條　大正十一年法律第三十九號第一條ノ規定ニ該當シタル帝國臣民ニシテ大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコーツク」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ニ對シテハ本法ニ依リ更ニ救恤金ヲ交付ス

第二條　前條救恤金ノ總額ハ百萬圓以內トス

第三條　救恤金ハ額面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ二十五圓未滿ノ金額ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第四條　政府ハ前條ノ規定ニ依ル交付ニ必要ナル額ヲ限度トシ國債證券ヲ發行スルコトヲ得

第五條　救恤金ノ交付ハ之ヲ受ケムトスル者ノ申請ニ依リ救恤審査會ノ審査ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

救恤審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　前條第一項ノ申請ハ大正十五年七月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ大正十五年三月十一日本院ニ提出ス三月十八日本案ノ第一讀會ヲ開キ矢吹政府委員ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

御承知ノ通リ大正九年ノ尼港事變ハ、本邦官民ガ多數虐殺サレマシタ未曾有ノ悲慘事デアリマス、尙ホ其後引續キマシテ「オコーツク」方面ニ於ケル本邦人ノ漁場モ亦燒拂ハレ、慘澹タル光景ヲ呈シタノデアリマス、本件ノ解決ニ付キマシテハ、露國政府トノ間ニ交涉ヲ致シマシテ、昨年一月北京ニ於テ協定セラレタモノガアルノデアリマス、併ナガラ其以上ニ右被害者ノ爲ニ賠償ヲ

得ルコトハ、列國トノ關係上、差當リ不可能ノ事ト認メタノデアリマス、然ル所是等被害者ハ、先ニ大正十一年法律第三十九號ニ依リ、既ニ一度政府ヨリ救恤ヲ受ケマシタガ、其窮狀ハ今尚ホ甚シイモノガアルノデアリマス、而シテ政府ニ對シテ何等カノ方法ニ依テ救濟ヲ得タキ旨ヲ請願シ來ル者ガ多數アル狀況デアリマス、他方本院ニ於キマシテモ、本件被害者ニ對シテハ、政府ニ於テ更ニ救濟ノ方法ヲ講ゼンコトノ希望ガ屢表明セラレタノデアリマス、仍テ政府ニ於キマシテハ、本件事變ノ特殊ノ性質ニ鑑ミ、今回限リ特例ト致シマシテ、本件被害者ニ對シテハ、大正十一年度ニ於ケル救恤ノ外ニ更ニ救恤ヲ爲シ、其窮狀ヲ幾分ナリトモ緩和救濟スルコトニ決シタ次第デアリマシテ、而シテ救恤金ノ總額ハ、財政上其他諸般ノ事情ニ依リ、百萬圓以內ト致シマシタ、救恤審査會ヲ設ケ、詳細嚴密ナル調査ヲ遂ゲ、各個ノ場合ニ付救恤スベキ程度ヲ定ムル筈デアリマス、以上ノ趣旨ニ依リ本法律案ヲ提出致シマシタニ付テハ、御審議ノ上、御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

中村嘉壽君、前田房之助君ハ質疑ヲ爲シ矢吹政府委員、片岡商工大臣之ニ應答ス

中村嘉壽君ノ質疑

只今政府ガ御提出ニナリマシタ大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコーツク」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案デゴザイマスルガ、便宜ノ爲メ私ハ先ヅ此「オコーツク」事件ニ關シマシテ政府ニ質問ヲ試ミタイト思フノデゴザイマス、此事件ハ大正十年ノ議會ニ於キマシテモ、政府ト議員トノ間ニ屢質問應答ガ重ネラレマシテ、「オコーツク」事變ハ正ニ我ガ日本ノ漁業家ノ失態ニアラズシテ、非ハ露國ニ在リト云フコトガ極メテ明瞭ニナッテ居ルノデゴザイマス、此事ハ既ニ政府當局者モ其當時ノ議會ニ於キマシテ言明サレタコトデゴザイマスルガ、其後政府ハ此二ツノ事件ヲ連ネテ西伯利ニ於ケル事變ノ爲ニト云フノデ、百五十萬圓ノ救恤金ヲ御

出シニナッテ居ルノデゴザイマスルケレドモ、其後民間ノ被害者ハ此金デ以テ滿足スルコトガ出來ズ致シマシテ、屢政府ニ陳情請願ヲ致シタヤウナ次第デゴザイマス、是ガ今日迄ニマダ不問ニ付セラレテ居リマシタコトハ、私共極メテ遺憾ニ存ジテ居ッタ次第デゴザイマスルガ、此際是ガ提案サレマシタコトハ、少クトモ國民ガ聊カ滿足ヲ表スル所デゴザイマスルガ、私共此問題ニ付テ尠カラザル關係ヲ持ッテ居リマスル者ハ、マダ之ニ滿足ヲスルコトガ出來ナイコトヲ先ヅ此所ニ申上ゲテ見タイト思フノデゴザイマス、只今政府委員ノ御說明ニ依リマスルト、之ヲ以テ恰モ御打切ニナルカノ如キ御口吻デゴザイマシタガ、果シテ之ヲ御打切ニナル積リデアルカト云フコトヲ、先ヅ御伺シテ置キタイノデゴザイマス、之ヲ以テ御打切ニナルト云フコトニナリマスルト、國民ハ尠カラズ失望ヲ致スノデゴザイマス、ソレカラ此事件ハ御承知ノ通リ大正九年七月五日ニ我ガ日本ノ軍艦疾風カラ報告ガゴザイマシテ、日露漁業會社ト云フノガ漁區十四區、之ニ對シテ約四百七十萬圓ノ損害ヲ受ケテ居リマス、ソレカラ其外ニ十名ノ個人漁業者ガ、十二箇所ノ漁區ヲ持ッテ居リマシテ、之ヲ燒拂ハレタガ爲ニ、約三百十五萬圓ノ損害ヲ受ケテ居ルノデアリマス、ソレニ對シマシテ政府ガ之ニ救恤ヲ與ヘタ所ノモノハ、尼港事件ト合セマシテ百五十萬圓ノ內ノ極メテ微々タル少額ニ過ギナイノデゴザイマス、其爲ニ之ニ關係シテ居リマシタ所ノ實業家十名ノ內、二人ノ既ニ失業致シマシテ人ノ雇人ニナリ、三名ハ全ク權利ヲ失ッテシマヒ、五名ハ辛ウジテ漁業ヲ繼續シテ居ルヤウナ次第デゴザイマスルガ、斯ウ云フヤウナ事ヲ今日マデ不問ニ致シテアッタノデゴザイマスルカラ、何卒十分ノ御研究ヲ御願ヒ致シタイト思フノデゴザイマス、此事件ニ對シマシテ其當時此浦潮日露共同査定委員會ニ於キマシテモ、浦潮ノ政府ハ甚ダ遺憾デアッタ意味ヲ表明シテ居リマシテ、我國ニ於キマシテハ之ニ對シテ七百萬圓ノ損害賠償ヲ要求シテ居ッタノデゴザイマスルガ、ソレニ對シマシテ露國ノ政府ハ二百萬圓マデハ損害ヲ受ケタノデアラウト云フコトヲ認メテ居ッタノデゴザイマスルガ、其事件ガ暫ク其儘ニ放任サレテ居ッタノデゴザイマス、ソレデ私ハ此事ニ關シマシテ、露國ノ政府ハ全ク是ハ內政ノ關係カラ起ッ

テ來タ所ノ問題デアルト云フコトヲ、我國ノ軍艦千早ニ報告ヲシテ居リマス、ソレカラ又九月二十六日、閣議ノ決定ニ基キマシテ、大正十年ノ春ニ露國ニ對シマシテ、只今申上ゲマシタ七百萬圓ヲ要求シテ、露國ハ之ヲ二百萬圓デアルト主張シテ居ッタ事實ガアリ、且又租借料ヲ免除スル期間ヲバ設ケルト云フコトヲ申出テ居ッタノデゴザイマスルガ、此事實ハ果シテアッタモノデアルカ、若シ是ガアッタモノデアルトスルナラバ、今日迄不問ニ付スルコトナクシテ、今少シ立派ナ交涉ガ出來タノデハナイカト云フコトヲ私ハ感ジテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ同時ニ此事件ニ關シマシテ、借區料約百六十萬圓ト云フ金ガ當時日本ノ政府ニ依テ特殊ノ銀行ニ供託ヲシテアッタノデゴザイマス、此百六十萬圓ノ金ハ是ガ損害ヲ被ッタ所ノ人達ニ補償スル意味ヲモ含ンデ供託シテアッタノニモ拘ラズ、大正十三年四月マダ日露ノ間ノ國交ガ開ケナイ以前ニ當リマシテ、政府ハ之ヲ無條件ニ返シタ事實ガアルノデゴザイマス、此事實ニ對シマシテ勘カラズ實業家ハ失望ヲシテ居ルノデゴザイマスルガ、之ヲ返シタ理由ハ果シテ那邊ニ在ルノカ、政府ノ御辯明ガ欲シイノデゴザイマスルガ、ソレカラ此事件ハ全ク「ポーツマウス」條約ノ利權關係ト別デアリ、又尼港事件トモ全ク別種ノ問題デアルト云フコトハ、內外ノ人共ニ之ヲ認メル所デアルニモ拘ラズ、相對的ニ對露關係ヲバ解決ヲスルト云フ爲ニ、此百六十萬圓ヲバ犧牲ニシタト云フコトハ、甚ダ遺憾ニ存ズルノデゴザイマスルガ、是ハ果シテ何ノ爲ニ斯ノ如ク漁業家ヲバ相對的ノ犧牲ニ爲シタノデアルカト云フコトヲ御伺シタイノデゴザイマス、當時此事變ニ依リマシテ百五十萬圓ノ金ヲバ交付シタノデゴザイマスルガ、先程申上ゲマシタヤウニ、漁業家ニ分配シタ所ノ金ガ極メテ不公平デアルヤウニ吾ミハ思ッテ居ルノデゴザイマス、又其當時某會社ニ對シマシテハ、朝鮮銀行ヲ經マシテ約千三百萬圓ノ融通ヲ致シマシタニモ拘ラズ、十人ノ漁業家デ、而モ某會社ト殆ド同額ノ損失ヲ受ケタ、是等憐レナル個人ニ對シマシテハ、殆ド比較ニナラナイ程度ノ融通シカ與ヘテ居ラナイ、僅ニ此百六十萬圓ノ金ヲバ見返リニ致シマシテ、日露漁業會社ヲ經テ十萬圓ノ融通ヲ計ッタニ過ギナイノデゴザイマス、斯ウ云フヤウナ不公平ガアッタト云フコトヲ吾ミハ考ヘテ居リマスルガ、果シテ斯ノ如キ不公平ハ何ガ爲ニ爲サレタノデアルカト云フコトヲ伺ヒタイト思フノデゴザイマス、ソレカラ前ニモ申上ゲマシタガ、尼港事件ト此「オコーツク」事件トハ、全然別途ノ性質ノモノデアルニモ拘ラズ、之ヲ一緒クタニシテアルト云フコトガ甚ダ吾ミハ惑ハザルヲ得ナイノデゴザイマスルガ、何ガ爲ニ一緒クタニ爲シタノデアルカト云フコトヲ御伺シタイ、更ニ此問題ニ付キマシテハ、政府ハ今後何等御交涉ヲ爲サル御考ハナイノカ、只今莫斯科ニ於キマシテ漁業條約ノ交涉中デゴザイマスルガ、此會議ニ於テハ何等ノ御交涉モナイノデゴザイマスカドウカト云フコトヲ御伺シタイ、是ダケガ此「オコーツク」問題ニ付テノ私ノ質問デゴザイマス、大正九年ノ七月三日ニ現外務大臣幣原氏ハ、當時華盛頓ニ於キマシテ各國ニ聲明シテ、斯ノ如キ不祥事件ガ起ッタコトハ、殆ド前後ニ例ヲ見ルコトガ出來ナイヤウナ事件デアル、極メテ殘虐ナル事件デアル、此爲ニ日本帝國ハ相當ナル力ヲ盡サナケレバナラズ、又此問題ノ解決ヲスル爲ニ、北薩哈連ヲ占領スルト云フコトヲ言ハレタノデアリマス、而シテ長イ間此北哈薩連ノ占領ヲシテ居ラレマシタガ、其後色ミナ交涉ガゴザイマシテ、遂ニ日露間ノ問題モ解決ガ出來ルコトニナリマシテ、陸軍ハ撤兵ヲシ、利權會議ガゴザイマシテ利權ノ獲得ヲシタノデゴザイマスルガ、其當時露國ハ日本ニ對シテ色ミナ難題ヲ持チ掛ケ、何等補償ノ途ヲ講ズベキ義務ガナイ、相互ノ戰爭行爲デアッタノデアルカラ、之ニ對シテ謝罪ヲスル必要モナイト云フヤウナ譯デアッタノデアリマスガ、此間ノ日露交涉ニ依リマシテ獲得シタ所ノ利權ト云フモノハ、是ハ果シテ日本ノ政府ハ賠償ノ意味デ獲得セラレタノデアルカ、ドウカト云フコトヲ御伺致シタイト思フノデゴザイマス、此事件ニ必ズ因果關係ガアッタモノト思ヒマスガ、此因果關係ガアルトスルナラバ、果シテ日本政府ガ得マシタ所ノ利權ハ之ヲ價格ニ見積リマシテ如何程ノモノデアルカ、此價格ノ大小ニ依リマシテ、其當時危害ヲ被ッタ所ノ我ガ日本帝國ノ臣民ニ對シテハ、今後尙ホ何等カノ慰安ヲ爲サルコトガアルカドウカト云フコトヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、當時加藤子爵ハ第四

十六議會ニ於キマシテ、北薩哈連ヲ占領シテ居ルコトハ甚ダ非デアルト云フヤウナ御說デゴザイマシタガ、此說ノ可否ハ別ト致シマシテ、加藤子爵デスラモ當時我日本ノ國民ガ斯ノ如キ危害ヲ受ケタニ付テハ、道義上補償竝ニ遺族ニ對スル精神的或ハ物質的ノ補償ヲ得ルト云フコトハ認メテ居ラレタカノ如ク思フノデゴザイマス、隨テ現內閣ノ諸氏ハ加藤子ノ政策ヲバ承繼イデ居ラレルノデゴザイマスカラ、之ニ補償ヲスルト云フ御考ハ十分ニ持ッテ居ラレルノデアラウト思フノデゴザイマス、然ルニ只今ノ此二ッノ案ニ依リマシテ——前ノ補償ト今度ノ補償ニ依リマシテモ、其一人當リノ分配ハ極メテ少イモノデアリマス、前ノ救恤法ニ依リマシテ、一人當リ僅ニ一千圓宛デアル、今度ノ金ハ尙ホソレヨリモ少ク、僅ニ百萬圓ヲ是ダケノ人間ニ分配スルノデゴザイマスカラ、卽チ被害者ガ七百二十人ゴザイマシテ、此中軍人三百七十人、ソレカラ在留民ガ三百七十名、行方不明七八十名、斯ウ云フヤウナ人達ニ對シテ、命チ一ッヲ捨テ、僅ニ千圓宛ノ補償デアル、今度合セテ五六百萬圓カ幾ラカノ救恤金シカ出來ナイヤウナ始末デゴザイマスガ、之ヲ以テ此澤山ノ遺族ヲ養フノニ、勿論何等ノ助ケニモナラナイヤウニ思ハレルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ僅カノ金ヲ以テ、其僅捨置カレルト云フコトハ、吾ミ國民ニ對シテ少カラザル失望ヲ感ゼシムルモノデゴザイマスカラ、是ハ其僅御打切ニナルノデアルカ、ドウカト云フコトヲ、私ハ玆ニ御伺ヲシテ、若シ御打切ニナラナイノデアルナラバ、ソレハ結構デゴザイマスガ、是ハ決シテ輕々ニ附セラレテハナラナイコトデアル、之ヲ輕々ニ附セラレルト云フコトニナルト、其累ノ及ブ所極メテ大ナルモノガアリハシナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、何レ又委員會ニ於キマシテ細カイ事ハ質問ヲ致ス機會ガゴザイマセウガ、十分ニ此點ヲ御辯明下サレンコトヲ御願ヒ致シマス、

矢吹政府委員ノ應答

中村君ノ御質問ノ第一點ノ「オコーツク」方面ノ被害地ニ對スル救恤モ、之ヲ以テ打切トスル考デアルカドウカト云フコトデアリマシタガ、實ハ今回提出致シテ居リマス救恤ノ百萬圓ト云フモノハ、全ク尼港事件竝ニ「オコーツク」ニ於ケル被害事件ノ特殊ナル事情ニ鑑ミマシテ、考慮シタノデアリマシテ、他ニ之ヲ例ト致スベキモノト思ハナイノデアリマス、全ク特殊ノ性質ノ事件ト是ハ見マシテ、更ニ今回今一度救恤ヲ致サウト云フ考ニナッタノデアリマス、隨テ斯ル事ヲ再三繰返ス考ハナイノデアリマシテ、之ヲ以テ打切ト致ス考デアリマス、次ニ御質問ノ第二點ノ過去ニ於テ露國ノ官憲ト日本ト間ニ「オコーツク」方面ニ於ケル被害約七百萬圓ノモノニ對シテ、露西亞ノ方デハ二百萬圓位ナラバ、ト云フヤウナコトヲ言ッタト思フガ、左樣ナコトガアッタカドウカ、ト云フ御質問デアリマシタ、此事ハ地方的ニハサウ話ガアッタカモ知レマセヌ、併シ露國ノ政府ト日本ノ政府トノ間ニ、斯ル交渉ヲ致スコトハ勿論ナイノデアリマシテ、昨年基本協約ヲ ル際ニモ、金錢上ノ賠償ノ如キハ雙方共後日ニ讓ルトシテ決定致シマセヌデアリマシタ、隨テ公式ノ會議等ニ於テ、斯ル事ヲ露國ノ ノ御耳ニ左樣ナ事ガ達シテ居ッタト云フヤウナコトハナイノデアリマス、ソレ故ニ假ニ中村君アルモノトハ思ヒマセヌ、ソレカラ御質問ノ第三點ト心得マスガ、自由出漁者ガ任意ニ漁區ノ使用料トシテ供託シタ金ヲ、其僅露西亞ニ納レテ、而シテ其際ニ於テハ「オコーツク」方面ノ被害者ニ對スルコトヲ、其百六十萬圓ノ內モ拘ラズ、政府ハソレヲ其僅露西亞ノ方ニ返シタノハ何故デアルカト云フ御質問デアリマシタガ、實ハ百六十萬圓ノ金ハ、任意ニ日本ノ漁業者ガ露西亞ノ漁場ニ參リマシテ、漁業ヲ致シマシタトキニ、後日露西亞ノ方ニ借區料、漁場ノ使用料ヲ拂ハナケレバナラヌ時ガ來ルト云フコトヲ豫想致シマシテ、其時ノ準備ノ爲ニ積立テテアッタノデアリマス、而シテ其後露西亞トノ間ノ交涉ニ於テ、漁場ヲ使用スルコトノ交涉ヲ致シマシタトキニ、此從來溜メテアリマシタ百六十萬圓ノ使用料ヲ拂ハナケレバ、其後出漁スルコトニ付テノ交涉ガ困難デアッタノデアリマス、ソレ故ニ其預カッテ保管シテ居リマシタ金ヲ、其僅自由出漁當時ノ漁區使用料トシテ露西亞ニ渡シタノデアリマシテ、全ク已ムヲ得ザルニ出デタノデアリマス、ソレカラ次ノ御質問ハ尼港事件ト此「オコ

ーック」方面ノ漁場ノ被害事件ト、イツモ一緒ニ見ラルヽノハ何故デアルカト云フ御質問デアリマシタガ、此兩者ハ時期モ似テ居リマス、殆ド同時デアリマス、又原因モ「パルチザン」ノ連中ガヤッタコトデアリマシテ、又其被害ノ悲慘ナコトカラ申シマシテモ、類似致シテ居ルノデアリマス、隨テ從來カラ此兩者ヲ同樣ニ見テ取扱ッテ參ッタノデアリマシテ、他ニ何等理由ガアル譯デハナイノデアリマス、ソレカラ次ノ御質問ハ、今度ノ日露漁業會議ニ於テ、斯ル被害民ノ損害等ヲ露西亞ニ交涉シテ解決スルノ機會ガアルカドウカト云フ御質問デアリマシタ、是ハ今度ノ日露漁業會議ハ、全ク漁業ニ關スル會議デアリマシテ、ソレ以外ノ事ヲ此會議ニ於テ議スル考ハ、露西亞ニ於テモナイノデアリマス、隨ヒマシテ此度ノ漁業會議ニ於テ此問題ヲ決スルコトハ豫想サレテ居ナイノデアリマス、ソレカラ石油或ハ石炭ノ利權ヲ樺太ニ於テ得タノデハナイカト云フ御質問デアリマシタ、是ハ全ク左樣デハナイノデアリマス、樺太ニ於テ石油或ハ石炭ノ利權ヲ得マシタコトハ、昨年結バレマシタ日露基本協約ノ第六條ト記憶致シマスガ、御覽ニナッタラ分リマス通リ、全ク日露ノ間ノ經濟的提携、親善ト云フヤウナ理想抱負カラ出タコトデアリマシテ、露西亞ニ於テハ、尼港事件アルガ爲ニ斯カル利權ヲ日本ニ與ヘタト云フ精神デハナイノデアリマス、而シテ尼港事件ニ對シテハ、當時遺憾ノ意ヲ表シタト云フコトハアッタノデアリマスガ、金錢上ノ問題ハ同條約ノ附屬ノ議定書ニ於キマシテ、將來兩國政府ノ間ノ交涉ニ依テ決スルト云フコトニ相成ッテ居リマス、隨ヒマシテ尼港事件ノ事柄ト、利權ヲ獲得ヲ致シマスコトヽハ、何等因果關係ガナイト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、次ニ此度百萬圓救恤スルコトニナルガ、ソレニシロ一人當リノ貰フ金ハ大變少イト云フ仰セデアリマシタ、是ハ中村サンニ於テ多少ノ誤解ガアルカト思フノデアリマスガ、此度ノ救恤ハ陸海軍ノ當時悲慘事ニ遭ヒ、虐殺サレマシタ人ニノ遺族ニ對スル部分ハ入ッテ居ラヌノデアリマス、全ク民間ノ人、先ヅ是ハ領事竝ニ領事ノ家族ト云フガ如キ、軍人以外ノ人ニ對スル分デアリマス、ソレ故ニ御考ヨリハ救恤ヲ受ケル人ノ數ガ少イノデアリマス、隨ヒマシテ豫想サレルヨリ一人當リノ金

額ハ餘計ニナルノデアリマス、併シ勿論十分トハ申セマイト思ヒマス、只今ノ所平均額カラ申シマスト千六百圓バカリニ相成ッテ居リマス、左樣御承知ヲ願ヒマス、大體左樣ノ御質問デアッタカト思ヒマスガ、尙ホ漏レテ居リマシタラ仰シャッテ戴キタウゴザイマス

中村嘉壽君ノ再質疑

此百萬圓ノ金ノ分配ノ方法ハ「オコーツク」事件ト、尼港事件トハ、ドウ云フヤウナ割合ニナッテ居ルノデゴザイマスカ、若シ只今定マッテ居リマセヌケレバ、審査機關ニ依ヲ御決定ニナル御積リデゴザイマスカ、其點ヲ一寸御伺致シタイ

矢吹政府委員ノ應答

割合ハ只今ノ所別ニ定マッテハ居リマセヌ、併ナガラ之ヲ決定致シマスノハ、救恤審査會ニ於テ決定致サレルノデアリマシテ、吾ヽ只今豫想ハ出來マセヌデスガ、大體先例ヲ追フコトニナリハセヌカト思ッテ居リマス、明言シテ幾ラト云フコトヲ只今申上ゲ兼ルノデゴザイマス

前田房之助君ノ質疑

私ノ質問ハ極メテ簡單デハアリマスガ、頗ル重要ナル意義ヲ含ンデ居ルモノト解シテ居ルノデアリマス、曩ニ日露兩國間ニ於テ協定サレマシタル所ノ利權協約ナルモノハ、只今外務ノ政務次官ハ、尼港事變ノ賠償ノ意味ハ毫モ包含サレナイト云フ御答デアッタノデアリマス、併ナガラ當時莫斯科ニ於キマスル所ノ利權會議ノ內容ヲ知ル者ハ、只今ノ政務次官ノ御答辯ハ詭辯デアラウト思フノデアリマス、當時我ガ代表ガ飽迄モ尼港事件ノ賠償デアルト云フコトヲ主張致シタニ對シテ、露國ノ代表ハ答ヘテ曰ク「ヨッフェ」ガ東京ヘ行ッタトキニ、日本ノ政府ハ樺太ヲ二億圓デ賣ッテ呉レナイカト云フコトヲ言ウタヂヤナイカ、二億圓デ買ハウト云フ意思ヲ表明シタデハ

ナイカ、既ニ日本ノ政府ガ樺太ヲ買フト云フ意思ヲ表明シタ以上ハ、賠償ノ意味ハ毫モ包含サレテ居ラナイ、斯ウ云フ詰問ニ會ッタ結果、非常ニ我ガ代表ノ立場ハ不利益ニナッテ、已ムナク賠償ト云フ意味ヲバ撤回シタト云フコトヲ私ハ確ニ聞イテ居ルノデアリマス、此意味カラ致シマシテ、此日露協定ニハ賠償ノ意味ハ包含サレテ居ラヌガ、性質上カラ申シテ、我ガ日本ノ立場カラ申シマスト云フト、確ニ賠償ノ意味ガ含マレテ居ルモノト私ハ解釋シテ宜カラウト思フノデアリマス、其問題ハ別ト致シマスルモ、兎モ角モ日露兩國ガ、國家間ノ條約ニテ取極メラレタル此利權ノ處置ニ對シマシテハ、吾ニ國民ハ深キ注意ヲ以テ刮目ヲ致シテ居ルダラウト思ヒマス、然ルニ其利權ノ大部分デアリマス所ノ石油會社ノ創立ニ關シマシテ、其内容ヲ仄聞致シマスルノニ、甚ダ不可思議ノ點ガアラウト思フノデアリマス、第一ニ此北樺太石油會社ノ創立ニ關シマシテハ今申上ゲマシタ如ク國家間ノ關係ガアルニ拘ラズ、政府ハ毫モ出資ヲナサラヌト云フ御意思ノヤウニ承ッテ居ルノデアリマス、其出資ヲナサラヌト云フ理由ヲ聞キマスノニ、日露協定ノ第何條デアリマシタカ忘レマシタガ、當業者間ニ請負ハシムルト云フ箇條ガアル、其箇條ニ依テ政府ハ躊躇ナサッテ居ルデヤナイカト云フ說ガアリマス、併ナガラ法人ニ政府ガ出資ヲスルト云フコトモ毫モ差支ガナイ、此莫斯科ニ於ケル利權會議ノ途中ニ於テ、中里代表ノ質問ニ對シテ、「ヨッフェ」ハ答ヘテ曰ク、當業者ニ引受ケシムルヨリハ、日本政府ガ引受ケテ呉レル方ガ、露國ノ政府トシテハソレ以上ノ安心ハナイカラ、一ツ政府ガ引受ケテヤッテ貰ヒタイ、斯様ナ事ヲ申述ベタト云フコトヲ、私ハ中里代表ヨリ直接ニ聞イテ居ルノデアリマス、然ラバ日露協定ニ、當業者ニ引受ケシムルト云フ箇條ガアリマシテモ、政府ガ此法人ニ出資ヲナサルト云フコトハ、何等相反シテ居ラヌト思フノデアリマス、私ハ此點ニ付テ先ヅ以テ何ガ故ニ此北樺太ニ於ケル石油會社ニ對シテ出資ヲナサラヌノデアルカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、第二ハ承ル所ニ依リマスルト、總株二十萬株ノ中デ、十萬株ハ北辰會ガ引受ケ、五萬株ハ發起人ガ引受ケ、他ノ五萬株ヲ一般ニ公募スル、斯様ニ聞イテ居ルノデアリマス、果シテソレガ事實デアルトスルナラバ、此國家ニ關係ヲ持ッ所ノ利權會社ニ對シ、悉ク民間カラ出資ヲ致シテ、而モ一部ノ資本家ガ過半數ノ株ヲ持ット云フコトニ依テ會社ノ將來ノ經營ニ非常ニ弊害ガ起ルト云フヤウナ御心配ガナイカドウカ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス

フコトハ、結局ハ非常ナ横暴ヲ極メ、或ハ極端ニ營利ニ趨リマシテ、石油ノ國策ニ反スルヤウナ結果ヲ招來スルノデハナカラウカト云フコトヲ憂フルモノデアリマス、是ガ質問ノ第二點デアリマス、第三點ハ本年ノ三月ノ五日ニ勅令第九號ヲ以テ此利權會社ニ關スル所ノ規定ガ制定サレタノデアリマスガ、其中デ第十一條ニ「每營業年度ニ於テ配當シ得ヘキ利益金額ガ拂込資金額ニ對シ一年百分ノ十五ノ割合ヲ超過スルトキハ會社ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ」斯様ナ箇條ト、第七條ニ於キマシテ「會社ノ採取シタル石油ニ付テハ政府ハ時價ヲ標準トシテ優先シテ之ヲ購入スルコトヲ得」斯様ナ規定ガアルノデアリマス、斯様ナ規定カラ判斷致シマスト、此石油會社ハ已ムヲ得ズ極端ナ營利政策ヲ執ルニ至ルデアラウト思フノデアリマス、斯様ナ勅令ノ精神ハ、石油ノ國策ニ反スルモノト私ハ思フノデアリマス、斯ル石油國策ニ反スル所ノ勅令ヲ制定ナスッタト云フ意味ハ、私ハ政府ガ御出資ヲナサラヌカラ、何トカシテ國民ニ對スル手前上、政府ガ利益ヲ得テ置ク必要ガアルト云フ意味デ、斯様ナ勅令ヲ御制定ナサッタモノト思フノデアリマスガ、其結果ト致シマシテ、海軍ガ年來御主張ニナッテ居ル石油ノ國策ニ非常ニ反シタ結果ヲ招クト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテハ海軍政務次官カラ、此勅令第九號ガ石油ノ國策ニ反スルヤウナ結果ヲ招來スルヤ否ヤト云フコトニ付テ、明確ニ御答ヲ得タイノデアリマス、此問題ハ實ニ我ガ同胞ノ血ト肉トニ依テ得タ所ノ代償デアリマスカラ、願クバ此議場ニ於キマシテ、此石油會社ノ創立竝ニ今後ノ方針ニ付テ、詳細ニ御報告アランコトヲ希望スル者デアリマス

片岡商工大臣ノ應答

今回日露條約ノ出來マシタル其結果トシテ拵ヘマスル石油會社ニ、政府ガ何故ニ出資シナイカ、是ガ第一問デアッタト思ヒマス、是ハ御承知ノ通リ條約ノ結果デアリマス、此日露條約、卽チ北京

條約ニ於テ石油石炭等ニ關スル利權ハ民間當事者ニ讓ル、斯ウ云フコトニナッテ居テ日本ノ政府ニ讓ルト云フコトニ約束ハナッテ居ラヌノデアル、是ニ於テ其條約ニ基ク最高ノ契約ヲ致シマス際ニ、日本政府ハ民間當業者ヨリ代表スベキ人間ヲ選ビマシテ、サウシテ此條約ニ當ラシメ、其結果トシテ當業者ト露國トノ間ニ於テ利權ノ條約ガ調フテ居ルノデマリマス、斯ノ如キ次第政府ガ利權ヲ引受ケテ、サウシテ會社ヲ造ルモノト成立ノ根本ガ違フノデアリマス、斯樣ナ次第デアリマスカラ、政府ガ之ニ出資ヲスルコトハ許サナイノデアリマス、ソレカラ第二ノ御質問ハ、二十萬株ノ內十萬株ハ一方ニ引受ケシメ、尙ホ其殘ノ十萬株ノ中五萬株ハ發企人ガ引受ケ、五萬株ヲ公募スル事ニナッテ居ルヤウデアルガ、ソレニ相違ナイカト云フ御尋デアリマス、是ハマダ確定致シテ居ルノデハゴザリマセヌガ、此石油ノ權利ヲ今度出來マスル會社ガ買得致スノデアリマス、此買得致ス爲ニ十萬株ノ內五萬株ヲ、代表者ト今度ナッテ約束ヲ結ビマシタ者ガ得タイト云フ希望ヲ持ッテ居ルノデアリマスルガ、是ハ如何ニ尼港事件ニ直接ノ關係ハ無イニ致シマシテモ、彼ノ事件ガアルガ爲ニ此約束ガ出來ルヤウニナッタ關係ハアルト思ヒマス、ソレ故ニ此株式募集ニ對シマシテハ、成ベク公募株ヲ多カラシメント力メテ居ルノデアリマシテ此十萬株ヲ與ヘルト云フコトデアリマスルガ、サリナガラ十萬株ハ曩ニ石油ニ關係ヲシテ居リマシタ者カラ買取ラナケレバナリマセヌ、其代金ニ對シテ此十萬株ヲ與ヘルト云フコトデアリマセヌ、ソレノ代金ヲ遣ラナケレバナリマセヌ、其代金ニ對レバ、今回條約ヲ取結ンダ其代表トナッタ者ノ得ルモノガ無クナル、斯ウ云フ事ニナリマスカラ、彼等ノ要求ガ甚ダ不當デハナイト思ヒマスガ、成ベク此內ノ部分ヲ割イテ公募株ヲ多カラシムルト云フ考ヲ持ッテ居リマス、少クモ六萬五千株位ハ民間ヨリ募集スル結果ニ相成ラウカト考ベテ居リマス、ソレカラ第三ノ質問ハ、國策ニ對スル海軍省ニ向ッテノ御求メデアッタト思ヒマスカラ、是ハ私ヨリ御答スルコトハ差控エマス

前田房之助君ノ再質疑

只今ノ答辯ハ私ハ滿足ガ出來ヌノデアリマスガ、法人ニ對シテ政府ガ出資スルト云フコトハ、何等日露條約ノ規定ニハ反シナイト思フノデアリマス、次ニ北辰會ニ從來ノ權利料トシテ約二百八十萬圓程會社カラ出スト云フ事ニナッテ居リマスガ、此權利ヲ買フト云フ事柄ト株ヲ持タスト云フ事柄ハ、全然別個ノモノト思フノデアリマス、隨テ先刻申シタ如ク、一ツノ系統ノ團體ニ過半ノ株ヲ持タシムルト云フコトハ、餘程今後經營上困難ナ事ガ起ラウト思ヒマスカラ、政府ニ於テモ然ルベク考慮セラレンコトヲ希望致シマシテ、其他ノ質問ハ他ノ機會ニ讓リマシテ、私ノ質問ハ是デ打切リマス

次ヲ委員ノ選擧ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末希望條件ヲ附シ原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書ニ添附セルモノ)

希望條件

政府ハ露國政變及西比利亞事變ノ爲被リタル帝國臣民ノ損害ニ付其ノ救恤ノ手段ヲ講スルノ外速ニ適當ナル方法ニ依リ之カ賠償ノ途ヲ講セラレムコトヲ望ム

三月二十日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長一柳仲次郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

御付託ニナリマシタ大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコーツク」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救

恤ニ關スル法律案、是ハ昨日ト本日ト二日ニ渉リマシテ委員會ヲ開會致シマシタ、委員ノ諸氏ヨリ質問應答ヲ重ネラレマシテ、本日成案ヲ得タノデアリマス、其經過ト結果ノ御報告ヲ致シマス、御承知ノ如ク尼港事變及「オコーツク」事變ハ、稀ニ見ル慘害事件デアリマシテ、委員諸氏ノ最モ御同情アル立場ニ於テ質問應答ヲ重ネラレタノデゴザイマス、色々御希望モアリマシテ、政府モソレニ付テ御答ガアリマシタガ、詳細ナ事ハ時間經濟ヲ尊重致シマシテ、速記錄ニ就テ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、茲ニ一ツ希望條件ヲ附シマシテ本案ヲ決定致シタ次第デアリマス、其希望條件ハ「政府ハ露國政變及西比利亞事變ノ爲被リタル帝國臣民ノ損害ニ付其ノ救恤ノ手段ヲ講スルノ外速ニ適當ナル方法ニ依リ之カ賠償ノ途ヲ講セラレムコトヲ望ム」此希望ヲ附シマシテ、全委員一致決定シタ次第デゴザイマス、此段御報告ヲ致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ三月三十一日法律第四十四號ヲ以テ公布セラル

七五　製鐵業奬勵法改正法律案

製鐵業奬勵法

第一條　一ノ場所ニ於テ一年三萬五千瓲以上ノ製銑能力及一年三萬五千瓲以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第二條　主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間內ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　第一條ノ規定ニ該當セサル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間ニ第一條ノ規定ニ該當スルニ至ルヘキ設備ヲ增設シタルトキハ其ノ增設シタル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者作業上必要ナル場合ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ其ノ場所ニ於テ製銑又ハ製鋼ノ設備ヲ增設シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條　主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十瓲以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル鍛鋼品又ハ鑄鋼品製造事業者ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス」

主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百瓲以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル低燐銑鐵製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ

付亦前項ニ同シ

第五條　第一條乃至前條ニ規定スル製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實アル者ハ前事業者カ本法ニ依ル營業稅、營業收益稅及所得稅免除期間內ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ繼承ス

第七條　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ主務官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　製鐵事業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製鐵事業者ニ對シ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

一　第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ムトキ

二　主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ第一條ニ規定スル設備ヲ完成スルニ至ルヘキトキ

三　二以上ノ製鐵事業者ノ事業ニシテ主務官廳ニ於テ其ノ作業ノ狀況ニ依リ第一條ニ規定スル製鐵事業ニ準スヘキモノト認メタルトキ

第九條　帝國內ニ於テ製造シタル鋼材カ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條　詐欺ノ行爲ヲ以テ前二條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ償還セシム

第八條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者本法、本法ニ基キテ發スル命令又ハ交付ノ條件ニ違反シタルトキハ其ノ金額ヲ償還セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十一條　第一條ニ規定スル製鐵事業ノ爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ主務官廳ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十二條　本法ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ土地收用法ノ適用ヲ受ケ又ハ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニシテ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ本法施行後五年間仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ從前ノ規定ニ於テ開業ノ年又ハ能力增加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間トアルハ之ヲ開業ノ年又ハ能力增加ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間トシ營業稅トアルハ營業稅及營業收益稅トス

右ハ大正十五年三月十一日本院ニ提出ス三月十八日本案ハ政府提出製鐵所特別會計法案(本項第一(八〇))、政府提出大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(本項第一(七三))ノ兩案ト相關聯セル議案ナルニ依リ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ片岡商工大臣、黑金政府委員ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

片岡商工大臣ノ趣旨辯明

只今議題ト相成リマシタ製鐵業奬勵法案提出ノ理由ノ大要ヲ說明致シタイト存ジマス、製鐵業ハ造船機械其他各種ノ重要產業ノ基礎工業デアリマシテ、是ガ盛衰ハ一國產業ノ消長ニ及ボス所大ナルモノガアリマスルカラ、政府ハ大正六年製鐵業奬勵法ヲ制定致シマシテ、本邦製鐵業ノ發達ニ資スル所少クナカッタノデゴザイマスルガ、歐洲大戰後世界ノ經濟事情ガ變化致シマシテ各國競ウテ廉價ナル製品ノ供給ヲ爲シツヽアル時ニ當リマシテハ、本邦製鐵業モ亦之ニ對應スルノ基礎ヲ確立シナケレバナラヌノデアリマス、仍テ將來製鐵業奬勵法ノ適用ヲ受得ルモノハ、其規模ノ相當ニ大ニシテ、且ツ銑鐵ノ製造ヨリ鋼材ニ至ル一貫的作業設備ヲ有シ、最モ經濟的ニ其作業ヲ爲シ得ルモノヲ以テ其基礎ト爲スト共ニ、斯ノ如キ製鐵事業ニ對シマシテハ、相當ノ奬勵金ヲ交付シテ其保護ヲ十分ニシ、以テ本邦製鐵業ノ健實ナル發達ヲ期セントスルノデゴザイマス、是レ本改正案ヲ提出致シマスル主ナル理由デゴザイマスガ、其他現行奬勵法ノ適用ヲ受ケツヽアルモノニ對シマシテモ、其現狀ニ鑑ミマシテ、土地收用法ノ適用竝ニ營業稅、所得稅及輸入稅ノ免除等ノ現行奬勵法上附與セラレ居ル特點ハ、現行法ヨリモ更ニ五年間延長スルコト、致シタノデゴザイマス、尙ホ巨細ノ點ニ至リマシテハ、委員會ニ於テ說明ヲ致スコト、致シマスカラ、何卒御審議ノ上、速ニ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス、引續イテ製鐵所特別會計法案ノ大要ヲ說明致シマス、玆ニ議題トナリマシタ製鐵所特別會計法案ニ付キマシテ、其提案ノ大體ヲ申上ゲルノデアリマスルガ、製鐵所ノ事業ヲ最モ適切ニ經營致シマスルニハ、常ニ斯業ノ情勢ニ順應シテ、必要ニ應ジテ其擴張又ハ改良ヲ行ハナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ現在ノヤウナ作業會計ノ組織デゴザイマシテハ、資本ノ擴張改良ハ一般會計ノ負擔ニ於テ行フコト、ナッテ居リマスカラ、一般財政計畫ノ影響ヲ蒙リマシテ、其施設ガ斯業ノ發達ニ順應シナイ憾ガアルノデアリマス、又其設備ノ擴張及改良ノ資源ハ、製鐵所特別會計自身ノ負擔ニ於テ行フコト、致シマシテ、卽チ原則トシテハ擴張改良ノ資源ハ、其益金ヲ以テソレニ充當スルコト、致シマシタ、サウシテ是ガ目的ヲ達成致シマスニハ、製鐵所ノ經理ヲ獨立會計ノ組織ト爲スコトガ最モ妥當デアルト認メタノデゴザイマス、製鐵所ノ事業ハ他ノ作業會計ニ於ケル政府ノ作業ト趣ヲ異ニ致シマシテ、民間當業者ト全ク同一地位ニ立ッテ、市場ニ其製品ヲ供給スルモノデゴザイマスルカラ、其會計方式ノ如キモ、民間事業會社ニ成ベク近似セシムルコト、致シマシテ、固定財產ニ付テハ明確ニ原價償却ヲ行ヒ、過去及將來借入資金ニ對シマシテハ、是ガ元利ノ償還ヲ負擔ヲ致シマスルコト等ノ方法ニ依リマシテ、損益計算ヲ的確明瞭ニ致シマシタナラバ、事業者ヲシテ其精勵ノ效果ヲ自覺セシムルノ效果ガアルト存ジマス、延イテ其經理狀態ヲ良好ナラシムルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、而シテ其益金ヲ以テ更ニ優良ナル設備ノ擴張改良ヲ遂行スルコトガ出來、又其事業成績ヲ彼此比較考慮ヲシヤウトスル民間當業者ノ要望ニモ應ズルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、併ナガラ一擧ニ民間會社ト全然同一ノ方式ニ依リ、純然タル獨立會計ノ制ヲ設クルコトハ、多少支障ガアルノデゴザイマスルカラ、成ルベク其理想ニ近イ制度ト

致シマシテ、大正十六年度ヨリ之ヲ實施致シタキ考ヲ以チマシテ本案ヲ提出致シタノデゴザイマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

黒金政府委員ノ趣旨辯明

大正九年法律第五十三號中改正法律案ノ大要ヲ簡單ニ申上ゲマス、此大正九年法律第五十三號ハ、申上ゲル迄モナク關税定率法及製鐵奬勵法ヲ朝鮮ニ實施致シマスルニ付テノ特別規定ヲ設ケタル法律デゴザイマスルニ付テ、改正ノ結果之ニ伴ウテ朝鮮ノ事情ニ適合スベク改正ヲ求メルノデアリマス、隨テ其第一ハ關税定率法ニ於ケル所ノ品目表示ノ方法及關税定率法ノ施行ニ關スル所ノ特例ヲ規定致シタノデアリマス、又第二ニ於キマシテハ、製鐵奬勵法ノ改正ニ關聯致シマシテ、關税ノ方面ヨリ製鐵奬勵ニ關スル規定ヲ設ケタノデアリマス、ドウゾ御協賛ヲ願ヒマス

森恪君、前田房之助君、猪野毛利榮君、古林喜代太君ハ質疑ヲ爲シ片岡商工大臣、黒金政府委員及濱口大藏大臣之ニ應答ス

森恪君ノ質疑

本案ハ關税定率法中改正法律案ノ委員會ニ於テ、商工大臣ヨリ内示セラレマシタル所ノモノガ、具體化致シタモノデアルト考ヘマスガ、委員會ニ於キマシテ我ガ政友會ハ固ヨリ、與黨タル憲政會竝ニ政友本黨ノ委員諸君ニ依リマシテ、隨分熱心ニ御論議ニ相成ッタノデアリマス、其討議ノ内容ハ尠カラズ政府ノ參考ニ相成ッタモノト私ハ信ズルノデアリマス、即チ我黨ノ委員山本条太郎君ニ依テ述ベラレマシタル論旨ノ如キハ、本案ノ第九條ニ、即チ内地ニ於テ製造セラレタル鋼材ガ船舶ノ修理或ハ建造ノ目的ノ爲ニ使用セラレタル場合ニハ、之ニモ補助、助成ノ交付金ヲ交付スルト云フコトヲ明示セラレタト云フガ如キハ其一端デアリマシテ、斯ル政府ノ態度ニ對シマシテハ、私ハ敬意ヲ表スル者デアリマス、併ナガラ靜ニ此案ノ内容ヲ調ベテ見マスルト云フト、如何ニモ信念ガ籠ッテ居ラナイ、不徹底ナル點ガ甚ダ多イ、是デハ此案ヲ支持シナケレバナラナイ立場ニ在ラル、恐ラクハ憲政會ノ諸君モ御滿足ハ出來ナイデアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、詳細ナル質問ハ委員會ニ讓ルト致シマシテモ、審議ニ當ッテ必要ナリト考ヘテ居リマスル骨子ニ付テ、四五ノ質問ヲ致シタイト考ヘマス、第一、製鐵事業ノ如キ奬勵ヲ政府ガ企テマシタルコトハ、今回ガ初メテヾハナイノデアリマス、即チ大正六年ニ制定セラレマシタ製鐵業奬勵法ノ如キハ、此目的ノ爲ニ出來タノデアリマスガ、現行奬勵法モ今日議題トナリマシタル本案モ、等シク銑鐵ト鋼ヲ一貫作業ト致シタル點ニ其基調ヲ置イテ居ルノデアリマス、關税ノ委員會ニ於キマシテ、商工大臣モ亦輓近歐米ニ於ケル製鐵事業ハ、鐵鋼一貫主義ニ其理想ヲ置イテ居ル、吾吾モ亦此一貫主義ヲ目標ト致シテ本案ヲ組立テル考ヘデアルト云フ意味ノ御説明ガアッタノデアリマス、併ナガラ一事業ノ奬勵ヲ爲スト云フガ如キ場合ニハ、歐米其他ノ例ハ兎ニ角ト致シテ、國情ノ實際ト云フコトヲ考察致シタ上デ立案致スベキデアル、即チ國情ニ依テ緩急輕重ヲ圖リ、何故ニ失敗致シタカ、原因ハ種々ナルガ、原因ハ種々ナル點ニ在ルデアリマセウガ、吾ゝヲ以テ之ヲ考ヘマシタナラバ、此國情ヲ考察スルコトナク、漫然鐵鋼一貫主義ニ其基調ヲ置イタ結果ナリト私共ハ信ズル者デアリマス、今ヤ現行法ノ失敗ノ後ニ、現政府ガ再ビ奬勵法ヲ御考究ニナルニ當ッテ、現行法ノ失敗ヲ玆ニ又復繰返サレルト云フガ如キ傾向ノアル點ニ至リマシテハ、吾ゝハ其意ノ在ル所ヲ了解スルニ苦ムノデアリマス、是ニ於テ私ハ政府ニ御尋致シタイノデアリマス、政府ハ現行法ガ何故ニ失敗致シタカ、其原因何レニ在リヤト御考デアリマセウカ、又其原因ニ對シマシテ、如何ナル工夫、如何ナル用意ヲ以テ本案ヲ御組立ニ相成ッタノデアルカ、本案ノ長所トスル所ヲ具サニ御説明相成リタイノデアリマス、第二ニ製鐵事業ガ振ハナイト云フコトソレ自體ニ於テ種々ナル

原因ガアリマス、併ナガラ各種ノ原因ノ中デ、最モ吾ヽヲシテ重大ナリト考ヘシムル所ノ本質的缺陷ハ、何レニ在ルヤト申シマシタナラバ、ソレハ原料ノ不足ト云フコトニ歸著致スモノト吾ヽハ信ズルノデアル、然ルニ此本案ノ内容ヲ見マスルト云フト、本質的缺點デアリマスル原料ノ不足ト云フ點ニハ、何等ノ意ガ注ガレテ居ラナイト云フコトヲ發見スルノデアリマス、我國ノ製鐵事業ニ關係ヲ致シテ居リマスル人ヾノ爲ス所ヲ見マスルト云フト、何故カ此原料ト云フ一點ニ向ッテ極メテ無頓著デアリ、暢氣デアルト云フコトヲ考ヘシムルノデアリマス、我國ノ數多カラザル製鐵所ノ中デ、比較的兎ニモ角ニモ形式上此原料ト云フコトニ筋途ノ立ッテ居リマスル所ノ製鐵所ハ、僅ニ八幡ノ製鐵所、釜石ノ製鐵所アルノミデアリマスル、三菱ノ同族ノ計畫ニ成ル兼二浦ノ製鐵所ノ如キモ、八千萬圓ト云フ巨額ノ資本ヲ投ジテ計畫致シタニ拘ラズ、此原料ト云フ點ニ意ヲ用キナカッタ爲ニ、今日ハ全ク立枯レノ狀態ニナッテ居ルト云フ有樣デアルノデアリマス、又農商務省ガ吾ヽニ發表致シテ居リマスル數字ニ依テ見マスルト云フト、我ガ日本內地鐵鑛石ノ可採量ハ僅ニ二千五百噸ニ過ギナイノデアリマス、朝鮮滿洲ニハ豐カラザル所ノ鐵鑛石ガアルノデアリマスルガ、殆ド總テガ所謂貧鑛デアル、其品質ガ極メテ惡イ「ジヨホール」デアルトカ、或ハ南洋ノ地方ニ參リマシタナラバ、相當品質ノ良イ所ノ鑛石ガアルノデアリマスケレドモ、是ハ御承知ノ如ク二千五百浬、或ハ二千浬ト云フ遠隔ノ地ニ在リマスルガ故ニ、若シ運賃ガ上ボルト云フガ如キ場合ガアッタト致シマシタナラバ、到底此地方ノ供給ヲ以テ、日本ノ原料ト致スコトハ出來ナイノデアル、斯ク觀ジ來リマスルト云フト、我國製鐵事業ノ原料ヲ基礎的ニ依賴シ得ルモノハ、獨リ對岸ノ揚子江沿岸ノ鑛石アルノミデアルノデアリマス、而シテ此揚子江一帶ヲ支配致シテ居リマスル支那政府ガ、此鐵鑛石ニ向ッテ如何ナル態度ヲ執ッテ居ルカト申シマスルト、彼等ハ所謂鐵國有主義ナルモノヲ樹立致シマシテ、殊ニ我ガ日本ニ對シマシテハ、鐵鑛ノ輸出ヲ殆ド禁止的態度ヲ以テ臨ンデ居ルノデアリマス、實例ヲ申シテ見マシタナラバ、鐵鑛暫行辦法ト云フガ如キ禁止的法律ヲ制定致シマシテ、鑛石ヲ輸出致シマスル場合ニハ、一噸當リ輸出稅ダケデモ一圓以上ノ重稅ヲ課シテ、鑛石ノ實買ニ當リマシテハ數量ノ如何ヲ問ハズ、中央政府竝ニ地方官憲ノ其都度許可ヲ得ナケレバナラナイト云フ嚴密ナル拘束ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ狀態ニ在リマスルガ故ニ、吾ヽガ基礎的ニ依賴セネバナラヌ所ノ揚子江一帶ノ鑛石ト云フモノハ、我國ニ輸入サレル狀態ハ甚ダ不安ナル狀態ニ置カレテ居ルノデアル、而モ此不安ナル狀態ガ何ガ故ニ我ガ政府ノ神經ヲ尖ラスコトガ出來ナイノデアルカ、我ガ政府殊ニ外務省ガ此誤ッタ支那政府ノ爲シテ居ル事柄ヲ、何ガ故ニ傍觀ヲ致シテ居ルノデアルカト云フコトハ、吾ヽハ常ニ不可解ト致シテ居ル所デアルノデアリマス、又曾ニ鐵鑛石ノミデハアリマセヌ、他ノ重大ナル原料デアリマスル所ノ滿俺鑛石ノ如キニ至リマシテハ、果シテ何レノ地ニ此滿俺鑛石ノ供給ヲ我ガ日本ノ製鐵所ハ得ルノデアルカト云フコトニ對シマシテハ、全ク據ルベキ所ガ無イノデアル、滿俺鑛石ノ如キハ其日暮シデアッテ、貯鑛ヲスラ持タナイノデアル、作業上全ク不安ナル狀態ニ置カレテ居ルト云フ實際デアルノデアリマス、是ニ於テ私ハ政府ニ御尋致シタイ、政府ハ鐵事業ノ基本的缺陷デアリマスル此原料ノ供給ニ對シテ、如何ナル方針ヲ樹立致シテ居ラレルノデアルカ、殊ニ此奬勵法ヲ制定セラレントスル時ニ當ッテ、如何ナル御注意ヲ此一點ニ集メラレタカト云フコトヲ御說明ヲ仰ギタイノデアリマス、第三ハ本案ニ於ケル保護助成ノ內容如何ト云フ一點デアリマス、卽チ保護ノ骨子ト致シテ居リマスル所ハ鑛石デアルカ銑鐵デアルカ、何レデアルカト云フコトヲ御聞キ致シタイノデアリマス、一噸ニ對シテ幾許ノ金ヲ如何ナル手續方法ニ依テ保護スルト云フコトガ本案ノ內容デアルカ、此內容ガ示サレタル所ノ案文ニ依テハ捕捉スルコトガ出來ナイノデアル、吾ハ之ヲ明確ニ知ル必要ガアルノデアリマス、政府ハ或ハ此點ハ勅令ニ依テ明示致スト云フ御考デアルヤニ承知致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ此重要ナル數字、此重要ナル點ガ勅令ニ俟タザレバ之ヲ知ルコトガ出來ナイト云フガ如キ事柄ハ、本案ノ性質上斷ジテ吾ヽニハ滿足スルコトハ出來ナイノデアリマス、殊ニ上來指摘致シタル如キ數字ハ、製鐵事業ノ生產費ノ如何ト云フコトヨリ胚胎ヲ致スノデアリマス、我國ノ製鐵事業ニ於テ生產費ヲ少クスルト云フコトハ、極テ困難ナル狀態ニ在ルノデアリマス、政府ガ數十年ノ間一億四五千萬圓ノ巨額ノ資金ヲ投ジテ

居リマスル若松ノ製鐵所デスラ、此大ナル資本ニ對スル元利ヲモ計算ニ入レズ、又一切ノ稅金ヲモ負擔スルコトナク、而モ其營業ノ成績ヲ見マスルト云フト、僅カ收支ガ相償フト云フ程度デアリマシテ、利益ヲ上ゲルコトハ殆ド出來ナイト云フ現狀ニ在ルノデアリマス、又數日前ニ我ガ鐵道省ガ三菱ノ手ヲ經由致シマシテ、亞米利加カラ「レール」ヲ輸入致シタノデアリマスルガ、其「レール」ノ値段ハ、八十五圓程度デアッタノニ拘ラズ、若松製鐵所ガ同樣ノ品物ニ對シテ出シテ居リマスル値段ハ、百十圓ト云フガ如キ大ナル差ヲ持ッテ居ルノデアリマス、此一事、卽チ我ガ製鐵事業ニ於テ生產費算出ガ極メテ困難デアリ、其生產費ナルモノガ幾多ノ斧鉞ヲ加ヘル餘地ヲ持ッテ居ルモノデアルト云フコトヲ示シテ居ルノデアリマス、是ニ於テ吾ミガ製鐵事業ノ發達奬勵ヲナスニ當ッテ如何ナル點ヲ基調トシテ、目標ト致サネバナラヌカト云ヒマシタナラバ、我ガ日本ニ於ケル製鐵事業ノ生產費ト、外國ニ於ケル製鐵事業ノ生產費ト、其差額ガ、吾ミガ奬勵シ助長スベキ所ノ目標デナケレバナラナイノデアル、故ニ私ハ本案ヲ審議スルニ當ッテ、政府ガ此生產費ノ差額ニ對シテ、數理的ニ具體案ヲ吾ミ議員ニ御示シニナルコトハ、當然ノ責任デアルト考ヘルノデアリマス、私ハ之ヲ此場合明瞭ニ御示シアランコトヲ御願致スノデアリマス、第四ニ歐米ノ製鐵國ハ、何レモ關稅政策ノ成功ニ依テ其目的ヲ達シテ居ルノデアリマス、或ハ奬勵助成金ノ交付ト云フガ如キ政策ヲ執リマシタ國ハ、何レモ消費者ニ大ナル不便ヲ與ヘ、國民ニ迷惑ヲ與ヘテ失敗ノ跡ヲ貽シテ居ルノデアリマス、然ルニ何ガ故ニ現政府ハ此外國ノ失敗ヲ致シタル、經驗ヲ持ッテ居ル奬勵助成金交付ナル政策ヲ執ッテ外國ガ成功致シマシタル所ノ關稅政策ヲ執ラナカッタカト云フコトヲ私ハ疑フ者デアルト云フト、當初商工大臣ハ吾ミト等シク關稅ノ引上ニ依ヲ此目的ヲ達セラレル御考デアッタニ相違ナイノデアリマス、然ルニ偶印度ニ於ケル我ガ綿絲布貿易ノ關係カラ、若シ銑鐵ノ關稅ヲ引上ゲル時ニ於テハ、印度ニ於テモ我ガ綿絲布ニ對スル關稅ヲ引上ゲラレ、或ハ玆ニ忌ムベキ關稅戰爭ト云フガ如キ問題ヲ誘發スル虞ガアリハシナイカト云フ外務省ノ杞憂ニ基イテ、商工大臣ハ其素志ヲ飜サレ玆ニ關稅引上ニ代ハル所ノ奬勵金助成金ノ交付ナル本案ヲ組立テラレタモノト吾ミハ承知致シテ居ルノデアリマス、果シテ然リト致シマシタナラバ、是ハ重大ナル誤アルト私共ハ確信ヲ致ス者デアリマス、印度ニ於ケル綿絲布需要ノ大勢ヲ考ヘテ見マスト云フト、其總額ハ約十六億「ルピー」デアリマス、此中八億「ルピー」ハ印度內地ニ於テ生產セラレ、他ノ八億「ルピー」ハ是ハ輸入ニ俟ッテ居ルノデアリマス、而シテ我國ヨリ印度ニ輸入致シテ居リマス所ノ綿絲布ノ高ハ僅カ八千萬「ルピー」ニ過ギナイノデアリマス、語ヲ換ヘテ申シマシタナラバ、印度人ノ需要額ハ僅カ二十分ノ一ニ相當致スノデアリマス、又爛ッテ印度ヨリ我國ニ輸入致シテ居リマスル銑鐵ハ、幾許程度デアルカト申シマシタナラバ、之ヲ金額ニ直シテ見マスルト云フト、僅ニ七百萬圓ヲ過ギナイノデアリマス、是ニ於テ吾ミハ一ツノ觀察ヲ爲ス必要ガアル、若シ英吉利ガ其國ノ基本的工業デアリマスル紡績業ヲ、國ノ力ヲ以テ國策トシテ、之ヲ關稅政策ニ依テ擁護スルト云フ必要ニ遭遇致シマシタト假定ヲ致シタナラバ、此英吉利ノ國策樹立ノ前ニハ、我國ノ區々タル七百萬圓ノ銑鐵ノ輸入ニ關シテ關稅ヲ引上ゲルトカ、引上ゲナイトカ云フ小サナ問題ハ斷ジテ英吉利人ノ國策ヲ左右スル原因ニハナラナイノデアリマス、又本案ハ先程申シマス通リ、關稅ヲ引上ゲル代リニ爲サレタル所ノ奬勵案ナリト云フコトヲ事實ト致シマシタナラバ、關稅引上ニ依テ英吉利人ノ感情ヲ害シ、固ヨリ是等ノ內情ニ付キマシテハ、委員會ニ於テハ祕密會ヲ要求セラレタノデアルガ、委員長ハ現ニ此壇上ニ於テ其一端ヲ漏サレテ居ルノデアル、ノミナラズ當時ノ日本ノ新聞ハ悉ク此內容ヲ書イテ居リマス、英字新聞ハ之ヲ譯載致シテ居ル、英吉利人デ我國ニ居リマスル人ノ手ヲ通シテ、是ガ英吉利本國、或ハ印度地方ニ通信セラレテ居ルト云フコトハ、容易ニ想像スルコトガ出來ルノデアル、若シ斯ノ如キ姑息ナル手段デ英吉利人ヲ胡麻化シ得ントスルガ如キ考ヲ持ツモノナラバ、幼稚極マレルモノデアルト私ハ考ヘル者デアリマス、卽チ此一點ヨリ考ヘ、更ニ又英吉利ノ關稅ノ關稅率ノ現狀ヲ見マスルト云フト——印度ノ關稅率ノ現狀ヲ見マスルト云フト、印度ニ於キマシテハ、銑鐵ニ對シテ從價一割ノ輸入稅ヲ課シテ居ルノデアリマス、又鋼ニ致シマシテモ三十「ルピー」、三十五「ルピー」、或ハ四十「ルピー」ノ

重税ヲ課シテ居ル、我國ノ三十三四圓ニモナリマセウカ、斯様ナル重税ヲ 課シテ居ル、隨テ我國ガ少クモ此程度ニマデ我國ノ銑鐵ノ關税ヲ引上ゲマシテモ、彼等英國人ハ之ニ向ヲ異議ヲ挟ムノ餘地ハ一證ナイ筈デアルノデアリマス、殊ニ世界ニ於ケル此製鐵事業ニ對スル奬勵、振作ト云フコトニ向ッテハ、何レノ國モ極メテ徹底致シタル所ノ關税政策ヲ用キテ居ルノデアリマス、英國ノ如キデスラ、千八百二十三年マデハ輸入ヲ全然禁止致シテ居リマシタ、亞米利加ニ致シマシテモ、千八百八十四年マデハ七割五分ト云フ禁止税ヲ課シテ居ル現狀デアルノデアリマス、斯様ナル點ヲ一々擧ゲマシテ考ヘテ見マスルト云フト、我國ガ製鐵事業ヲ國是ト致シテ奬勵シ、其發達ヲ期待致シマスル場合ニ當ッテ關税政策ヲ取ラズ、姑息ナル奬勵助成金ノ交付ヲ爲シテ其目的ヲ達セントスルガ如キハ、一大錯誤ナリト私ハ信ズルノデアリマス、私ハ此見地ニ立チマシテ、現政府ハ吾々ノ所見ヲ容レテ、近キ將來ニ於テ鐵ノ關税ヲ引上ゲ、所謂關税政策ニ依テ奬勵ノ目的ヲ達スルト云フ御意思ガナイノデアラウカ、此點ヲ豫メ承知致シテ置キタイノデアリマス、第五ニ製鐵事業ニ對スル奬勵助成金ノ交付ト云フコトハ、成程其初年ニ於キマシテハ其金額ハ極メテ少イノデアリマス、併ナガラ外國ノ實例ヲ見マスルト云フト、此助成金ハ遂次增加ヲ致シテ、遂ニハ其結果消費者ヲ煩ハシ、或ハ國民全體ニ大ナル迷惑ヲ掛ケテ、而モ其結果ハ失敗ニ終ッテ居ルノデアル、政府ガ吾々ニ示シタル計算ニ依テ見マシテモ、近ク我國ハ鐵ノ需要、之ヲ銑鐵ニ直シマシタナラバ四百萬噸ト云フコトデアルノデアリマス、吾々モ此數字ガ早ク實現致スコトヲ望ム一人デアリマスルガ、假ニ此四百萬噸ト云フ數字ヲ舉ゲテ、此四百萬噸ニ對シ一噸ニ付五圓ノ奬勵金ヲ交付致スト致シマシタナラバ、其金額ハ二千萬圓ト云フ數字ニ對シテ、如何ナル財源ヲ準備セラレテ居ルカト云フコトガ吾々ノ問題デアリマス、即チ此點ニ對シマスル政府ノ用意ノ在ル所、ソレヲ詳細ニ玆ニ御説明ニナランコトヲ希望致スノデアリマス、之ヲ要スルニ本案ハ極メテ不徹底デアル、其内容ハ目的トスル所ニ副ハナイノデアル、前申シマスル通リ、斯ノ如キ不徹底ナル案ハ與黨タル憲政會ノ諸君モ到底御滿足ニナラナイト信ズルノデアリマス、所謂現内閣得意ノ羊頭狗肉ノ案デアルト私ハ考ヘルノデアル、斯様ナル考ヲ以チマシテ、大體以上五點ニ付テ先ヅ政府ノ意ノ在ル所ヲ御説明アランコトヲ希望致ス者デアリマス

片岡商工大臣ノ應答

森君ハ鐵ノ事業ニ對シテ御經驗ヲ有セラルヽ、方デアリマシテ、御質問モ洵ニ適切デアルト存ジマス、第一ノ御質問ハ、現行ノ奬勵法ノ失敗ヲ致シタ所ノ原因ヲ政府ハ何ト見テ居ルカト云フコトガ、御尋ノ要點デアッタト存ジマス、如何ニモ現奬勵法ナルモノガ完全無缺ノモノトハ言得ナイト存ジマスルガ、サリナガラ失敗トハ認メテ居リマセヌ、其證據ハ是レアリシガ爲ニ兎ニ角今日ノ鐵ノ出來高ヲ見ルノデアル、唯當業者ソレ自身ガ戰爭ノ後ニ於テ如何ナル變化ヲ生ズルカト云フ用意ガ足ラズシテ、唯製鐵所ヲ拵ヘルコトニ急ニシテ、其設備ニ不完全ナル所ノモノガ多ク、爲ニ失敗ニ相成ッテ居ルト見ルコトガ相當デアラウト存ジマス、若シ此奬勵法ヲ作リマシタ當時ニ於テ、今回改正ヲ企ツル如キコトヲモ用意シテ居リマシタナラバ、尚更宜カッタデアラウトハ言得ルノデアリマセウ、第二ノ御質問ハ原料ニ對スル問題デアリマス、是モ御述ニナリマシタ通リ、何事ヲ爲スニシテモ其原料ヲ無視シテ仕事ニ取掛ルト云フガ如キコトハ輕率ヲ免レナイ、單リ製鐵ノミニハ限ラヌト存ジマス、併ナガラ戰爭ノ爲ニ總テノ貿易ガ杜絶シテ、內地ニ必要ナル モノヲ滿サナケレバナラヌト云フコトニ迫ラレテ、事業計畫ヲ進メタト云フモノハ、製鐵事業ノミデハナイト思ヒマス、而シテ現在各製鐵所ノ原料其モノガ豐富デナイト云フコトハ御述ベノ通リデアリマス、サリナガラ此是ハ少々當ヲ得テ居ラヌト私ハ考ヘル、是ハ別ノ方法ニ依ルベキモノト思ヒマス、固ヨリ何品ニ拘ラズ、需要ト供給ノ關係ニ於テ價格ニ變動ヲ生ズルモノデアル、ソレ故ニ原料ノ必要トスルコトニ於キマシテハ、別ノ手段方法ヲ以テ、我國ノ原料ニ缺乏ノ來サナイヤウニスルコトヲ努メル コトハ當然デゴザリマス、卽チ當業者等ヲ集メ、鐵ノ事業ニ關シテ、從來ノ如ク目前ノ事ノミニ拘泥セズニ、協同一致シテ、以テ無益ノ競爭ヲ避ケ、生產費ヲ安クセシムル方法ヲ執ラナケレバ

ナラヌ、是ガ爲ニハ、原料買入ノ如キモノニ於テモ、各自手ヲ出シテ、以テ其原價ヲ高カラシムルト云フガ如キ拙策ヲ避ケテ、協同ノ下ニ於テ、之ヲ求ムルノ手段ヲ講ズルコトニシナケレバナラヌト云フ見地ノ下ニ於テ、相當研究ヲ重ネ、當業者モ亦此意見ニ一致致シテ居ル所デゴザリマス、卽チ御話ノ如キ原料豐富ナル方面ニ於テ、相當ノ契約ヲ爲スト云フガ如キコトモ是ヨリ進ミ得ルト存ジマス、又內ニ於キマシテモ、彼ノ砂鐵ノ如キモノヲシテ、製鐵ノ用ニ爲サシムル爲ニハ、モウ少シ研究ヲ要スルノデアリマシテ、豫算ノ上ニ於テ、相當ノ研究費ヲ御協贊ヲ下サレテ居ルノデアリマス、其廢レテ居ルモノヲ蒐集シテ、以テ原料ニ供スルト云フガ如キコトモ、是モ進メテ行カナケレバナラヌノデアリマス、又今日マデ既ニ此鐵山ノモノハ役ニ立タヌト考ヘテ居ッタモノニシテ、或ハ研究ノ結果トシテ、確ニ有用ナルモノデアリマス、卽チ原料ニ供スルニ足ラズトシタモノガ、寧ロ有用ナル品物ナリト認メラルル途ヲ攻究スルコトヲ怠ラズ、外ニ於テモ亦豐富ナル所ニ於テ相當ノ契約ヲ致シテ、此我國ノ鐵ノ國策ニ向ッテ、故障ヲ生ジナイヤウニ致シタイト云フコトハ考ヘテ居ルノデアリマス、唯其事柄ヲ、此奬勵法ノ條章ノ中ニ含メルト云フコトヲ致サナイマデノコトデアリマス、第三ノ保護ノ內容、卽チ奬勵金ヲ受ケルモノガ鐵材ノミニシテ、鋼ハ入ッテ居ナイカドウカ、是ガ御尋ノ要點デアッタト存ジマスルガ、今回ノ奬勵法ハ銑鐵ヨリ起ッテ、鋼材マデ一貫シテ仕事ヲ進メルモノニ向ッテ奬勵ヲスルノデアリマスルカラ、卽チ銑鐵ヲ用キテ、鋼若クハ他ノ鐵材ヲ造ルト云フモノハ、此點ヲ御述ニナル時ニ、鐵道省ニ於テ亞米利加ヨリ得タ「レール」ハ八十四圓デアッテ、製鐵所ガ納メルノハ百十一圓デアッテ、其差甚シキ狀態ニ在ルト云フコトモ亦穩當ナリトハ言ヘマイト思ヒマス、非常ナ引下ヲ行ッテ來ルト云フコトニ付テハ相當ノ理由ガアリマセウカラ、其理由ノ本ヲ尋ネテ、不當ナルモノニ對シテハ、所謂不當廉賣法ニ依テ當業者ヲ保護シテ行クト云フ手段ヲ執ルノ外ハナイノデアル、斯ノ如キ手段ヲ執ッテモ尙ホ不十分ナリト云フガ如キコトガゴザリマスレバ、是ハ常設調査委員會ノ手ニ於テ十分ノ調査ヲシテ、更ニ次ノ議會ニ於テ御協贊ヲ求メルト言シテ置キマスコトハ、我國ノ關稅其モノハ、近來コソ始メテ國定稅率ニ相成ッタノデアリマスルガ、一ツノ英國ニ對スル條約ガゴザリマシテ多イノデアリマス、之ヲ今日正當ノモノニ引直スト云フ時ニ當ッテハ、非常ニ高ク世間ニ映ルト云フコトガゴザリマス、又此英國トノ條約ノ改正ニ際シマシテモ、一躍自己ノ都合バカリヲ圖ルモノデナイト云フガ如キコトヲ證明致シマシタコトハ少クナイト思フノデアリマス、故ニ我國ノ關稅ヲシテ眞ニ適當ニ、十分ナル所ニマデ落著ケマスルニハ、サウ掌ヲ反スヤウニハ參ラヌト思フノデアリマス、次ノ御質問ノ第四、歐米諸國ハ總テ關稅ヲ以テ事業其モノヲ保護致シテ居ルト、ソレガ又當然デアル、何故ニ歐米諸國ニ於テ失敗ノ事實ノアル事ヲ日本ニ取ッテ之ヲ執リ行フカ、此攻擊的御質問ニ對シマシテハ、他國ニ於テ失敗ノアッタモノガ日本ニ於テ必ズ失敗ヲスルト定マッタモノデハナイノデアリマス、他國ノ失敗ノ仕方ヲ見テ以テ日本ハ失敗ニ陷ラヌヤウニスレバ宜シイノデアル、サウ人ガ負ケタカラ此方モ負ケナケレバナラヌト云フガ如キモノデアリマセヌ、我國今日ノ製鐵業其モノ、狀態ハ、第一ノ御質問ニ對シテ申上ゲマシタ如ク、戰爭ノ爲ニ輸入品ノ杜絕ノ時期ニ於テ、早ク物ヲ拵ヘタイト云フ所ニアセッテ、設備ガ甚ダ不十分デアリマス、其不十分ナルガ爲ニ、今日ニ於テハ非常ニ不經濟ナモノガアル、此不經濟ナルモノヲ經濟的ニスルニハ、今回奬勵法ノ如ク銑鐵ヨリ始マッテ繼續的ニ鋼材ニマデ續ケテ行クト云フコトハ、是ハ熱ノ經濟ノ上カラ申シマシテモ利益、ソレカラ工程ヲ別々ニ立テルトキニ考ヘマヲ致シマシタ通リ、相當ノ據リ所ヲ以テ現在ノ關稅ト云フモノハ算出ヲ致シタノデアリマス、併ナガラ貿易ノ狀態ハ時々ニ變化スル、其變化ト云フコトモ亦穩當ナリトハ言ヘマイト思ヒマス、非常ナ引下ヲ行ッテ來ルト云フコトニ付テハ相當ノ理由ガアリマセウカラ、其理由ノ本ヲ尋ネテ、不當ナルモノニ對シテハ、所謂不當廉賣法ニ依テ當業者ヲ保護シテ行クト云フ手段ヲ執ルノ外ハナイノデアル、斯ノ如キ手段ヲ執ッテモ尙ホ不十分ナリト云フガ如キコトガゴザリマスレバ、是ハ常設調査委員會ノ手ニ於テ十分ノ調査ヲシテ、更ニ次ノ議會ニ於テ御協贊ヲ求メルト言シテ置キマスコトハ、我國ノ關稅其モノハ、近來コソ始メテ國定稅率ニ相成ッタノデアリマスルガ、一ツノ英國ニ對スル條約ガゴザリマシテ多イノデアリマス、之ヲ今日正當ノモノニ引直スト云フ時ニ當ッテハ、非常ニ高ク世間ニ映ルト云フコトガゴザリマス、又此英國トノ條約ノ改正ニ際シマシテモ、一躍自己ノ都合バカリヲ圖ルモノデナイト云フガ如キコトヲ證明致シマシタコトハ少クナイト思フノデアリマス、故ニ我國ノ關稅ヲシテ眞ニ適當ニ、十分ナル所ニマデ落著ケマスルニハ、サウ掌ヲ反スヤウニハ參ラヌト思フノデアリマス、次ノ御質問ノ第四、歐米諸國ハ總テ關稅ヲ以テ事業其モノヲ保護致シテ居ルト、ソレガ又當然デアル、何故ニ歐米諸國ニ於テ失敗ノ事實ノアル事ヲ日本ニ取ッテ之ヲ執リ行フカ、此攻擊的御質問ニ對シマシテハ、他國ニ於テ失敗ノアッタモノガ日本ニ於テ必ズ失敗ヲスルト定マッタモノデハナイノデアリマス、他國ノ失敗ノ仕方ヲ見テ以テ日本ハ失敗ニ陷ラヌヤウニスレバ宜シイノデアル、サウ人ガ負ケタカラ此方モ負ケナケレバナラヌト云フガ如キモノデアリマセヌ、我國今日ノ製鐵業其モノ、狀態ハ、第一ノ御質問ニ對シテ申上ゲマシタ如ク、戰爭ノ爲ニ輸入品ノ杜絕ノ時期ニ於テ、早ク物ヲ拵ヘタイト云フ所ニアセッテ、設備ガ甚ダ不十分デアリマス、其不十分ナルガ爲ニ、今日ニ於テハ非常ニ不經濟ナモノガアル、此不經濟ナルモノヲ經濟的ニスルニハ、今回奬勵法ノ如ク銑鐵ヨリ始マッテ繼續的ニ鋼材ニマデ續ケテ行クト云フコトハ、是ハ熱ノ經濟ノ上カラ申シマシテモ利益、ソレカラ工程ヲ別々ニ立テルトキニ考ヘマ

スレバ、勞銀ノ上ニ於テモ、雜費ノ上ニ於テモ、確ニ節約ノ出來ル筈デアリマス、卽チ現在ノ製鐵業者ヲシテ、斯ノ如ク經濟的ニ導イテ行クト云フコトニハ、是ハ奬勵法ヲ以テ之ヲ導イテ行クコトガ適當ナリト思フノデアリマス、又御尋ノ中ニ印度ニ關スル事例ヲ御引ニナッテ、大分質問ノ御趣旨ヲ御述ニ相成リマシタガ、私ハ此場合ニ於テ印度關係ノ事ヲ申上ゲルコトヲ欲シナイノデアリマス、此關係ガ起リマシタ爲ニ、之ニ代ハルニ奬勵法ヲ布イタナラバ、甚シキ失敗デアラウト云フ仰セデアリマシタ、固ヨリ關稅ヲ引上ゲルコトヲ以テ製鐵ノ根本策ヲ樹テルコトモ一ツノ意見ニ相違ナイト思ヒマス、サリナガラ日本ノ今日ノ製鐵業者ノ狀態ニ對シマシテハ、寧ロ奬勵法ヲ行ッテ、銑鐵ヨリ始マッテ鋼材マデ繼續的ニ爲サシムルヤウニ之ヲ導キ、今マダ其設備ノ不十分ナル點ノモノニ對シテハ、之ヲ設備スルト云フ條件ノ下ニ奬勵ヲ加ヘテ行キサヘスレバ、結局其目的ヲ達スルニ至ルデアラウ、斯ウ云フ所信ヲ以テ奬勵法ヲ御協贊ヲ求ムルコトニ致シタノデアリマス、關稅ガ出來ナイカラヤラナクシテ、別ノ法ヲ取ッタト云フ意味デハナイノデアリマス、第五ノ御質問ハ、日本ノ需要額ハ約四百萬噸ト云フコトデアルガ、斯ノ如キ域ニ達スレバ二千萬圓ノ金ヲ要スル、如何ニモ御尋ノ通リ、最初ハ少クシテ段々量ガ增スニ從ッテ奬勵金ノ多額ニナルト云フコトハ、是ハ避クベカラザルコトデアリマス、サリナガラ我國ノ現在ノ鐵ハ、官營ノ製鐵所ガ拂ヘマスルモノガ半分以上デアリマス、又一足飛ニ御懸念ノ如キ金ヲ、直ニ十六年度ニ要スルト云フガ如キコトニ發達ヲスルトハ、出來得ナイコトハ、森君ト雖モ御承知ノ筈デアリマス、是ハ漸次其所ニ到ルベキモノデアル、漸次其所ニ到ッテ鐵ノ自給自足ガ出來ルコトニナレバ、製鐵ノ國策其モノハ目的ヲ達スルコト、トシテ喜ンデ宜シイコトデアラウト思ッテ居リマス

森恪君ノ再質疑

只今商工大臣ヨリ詳シキ御答辯ガアッタノデアリマスルガ、私ハ其御答辯ノ內容ヲ拜聽致シテ居リマシタガ、要スルニ顧ミテ他ヲ申サレタノデアリマス、本員ノ質サント致シテ居リマシタ所ヲ御答ニ相成ッタノデハアリマセヌ、若シ時間ガ許スナラバ、私ハ此所ニ其一々ヲ捉ヘテ辯駁ヲ試ミタイノデアリマスルガ、會期ノ切迫致シテ居リマスル今日私ハ之ヲ愼ミマス、大要ハ委員會ニ於テ更ニ要點ヲ御質シヲ致シタイ積リデアリマスルガ、唯一點此所ニ關稅問題ニ對スル商工大臣ノ御答辯ハ、實ニ吾ミヲシテ片岡國務大臣デモ斯樣ナ御答辯ヲ爲サルカト云ッヤウナ感ジヲ致シタノデアリマス、全ク是レ自己ノ良心ニ反シタル所ノ御答辯デアルノデアリマス、併ナガラ此點モ亦此席上ニ於テ御答辯相成ルコトヲ好マザルヤノ御樣子デアリマスルガ故ニ、私ハ追究ヲ致シマセヌ、唯一貫主義——銑鋼一貫主義ト云フ御話デアリマシタ、固ヨリ其通リデアリマス、吾ミモ銑鋼一貫主義ハ、熱ノ經濟其他ニ於テドウシテモ必要デアルト最モ理想トスル所デアリ、我國モ其點ニ到達セネバナラヌト云フコトヲ私ハ考ヘルノデアル、併ナガラ我國ノ製鐵事業ハ、政府自ラ奬勵案ヲ考ヘネバナラヌ程ノ幼稚ナル狀態ニ在ルノデアッテ、銑鋼一貫主義ガ未ダ實行サレテ居ラナイノデアリマス、若シ之ヲ實行セント致シマスルトキニ、嚴密ニ之ヲ申シマシタナラバ、我國現存ノ製鐵所ノ中デ、此一貫主義ヲ實行致シテ居ル製鐵所ハ、果シテ幾ツアルカト云フ質問ヲ致シタノデアッテ、理想ヲ捉ヘテ現實ヲ捉フルコトヲ忘レタ此一點ハ、矛盾デアルト私ハ指摘致シタノデアリマス、併ナガラ時間經濟ノ爲ニ、私ハ玆ニ遺憾ナガラ質疑ヲ此程度デ打切リマス

前田房之助君ノ質疑

私ハ數箇ノ質問ヲ致シタイノデアリマスルガ、既ニ質問セントスル大部分ハ森君ニ依テ質問サレマシタカラ、成ベク重複ヲ致サナイヤウニ質問致シマス、唯併シ森君ノ質問ニ對シマシテ、片岡商工大臣ハ顧ミテ他ヲ言ハレタ點モ尠クナイノデアリマスルカラ、此點ダケハ重複ヲ厭ハズ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、第一、政府ハ國力ノ充實ヲ圖リ、我ガ國家ノ健全ナル發達ヲ期スルガ爲ニ、我國產業ノ中デ特ニ工業ノ發展ニ力ヲ盡サレテ、製鐵業ノミナラズ、有ユル工業ニ對スル國策ヲ樹テ、工業ヲ以テ我ガ產業ノ基調ト致シテ、所謂工業立國ノ實ヲ擧グルト云

フ御考ナキヤ、其點ヲ第一ニ御伺致シタイノデアリマス、此產業政策ノ根本方針ガ確定致シテ居リマセヌガ爲ニ、曩ノ關稅定率改正法ニ對シマシテモ、又本案ニ對シマシテモ、頗ル不徹底ナ嫌ガ起ッテ居ルノデアラウト思フノデアリマス、又近時我ガ朝野識者ノ輿論デアリマスル所ノ東洋國策ナルモノモ、全ク之ニ由ッテ我國ノ工業立國ナルモノヲ助成ヲ致シテ、サウシテ我國ノ生存權ヲバ永久ニ確保スルト云フ所ノ點カラ出發シテ居ルノデアラウト思フノデアリマス、併ナガラ固ヨリ農業、商業、工業、其他有ユル產業ノ隆盛ナランコトヲ熱望シ、又出來得ル限リソレガ實現ニ努力スル者デアリマスケレドモ、國家ノ財政ニハ自ラ限度ガアルノデアリマス、又我國ノ產業狀態、經濟事情、國防關係、人口、土地、生產原料、其他內外諸般ノ國情ヲ考ヘマス時ニ於テ、私ハ工業ヲ以テ國ノ基礎トシテ、サウシテ產業ノ基調ト致スト云フコトガ最モ必要デアラウト思フノデアリマス、近時產業立國ノ聲モ盛デアリマスルガ、併ナガラソレニ付キマシテ何等具體的ノ立案ヲ今日マデ聞カナイト云フコトハ、私共ノ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、又農村ノ振興救濟ノ如キモ、固ヨリ必要デアリマス、私共ハ出來得ル限リノ努力ヲ致サナケレバナラヌト思フノデアリマスケレドモ、併ナガラ此農村ノ振興救濟ト申スコトハ、全國人口ノ五割七歩ヲ占メテ居ル所ノ農村ノ收入ガ少イ、而モ年々農村ノ負擔ガ增加致スニ伴レテ農村ガ疲弊困憊ニ陷ッテ居ル、斯ル意味ニ於テ詰リ社會政策的見地カラシテ、此救濟振興ヲ圖ッテ、サウシテ農村ヲ改善致シマスト共ニ、食糧問題ノ一部ノ解決ニ資スルト云フコトガ本義デアリマシテ、今日國家ノ大局カラ見マシテ、我國ノ農業ノ現在竝ニ將來ヲ達觀致シテ農業ヲ以テ我國產業ノ基礎トスルト云フコトハ、恐ラクハ何人モ肯定シ得ナイ事實デアラウト思フノデアリマス、又海外ノ例ヲ見マスルニ、獨逸ヲ見マシテモ、此工業ニ特ニ力ヲ入レタル國家ハ榮エテ、然ラザル國家ハ衰亡ノ傾ガアルト云フコトハ、近代經濟史ノ明ニ證明致シテ居ル所デアルト思フノデアリマス、私ハ此點ニ付キマシテ、政府ガ率直ニ而モ大膽ニ、其所信ヲ披瀝サレンコトヲ希望スル者デアリマス、或ハ政府當局ト致シマシテ、各種ノ產業ハ密切ナル關係ガアル、隨テ時勢ニ應ジテ公正ニ各產業ノ發展ヲ圖ラナケレバナラヌト云フヤウナ御答ガアルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ屬僚政治家ノ口ニスル所デアッテ、苟モ國家ノ大所高所ヨリ見テ、我國ノ產業ノ振興ヲ圖ルニハ此產業ノ政策ノ根本方針ヲ御定メニナッテ、サウシテ根本方針ノ實現ヲ期セラレルト云フコトガ、是ハ政黨政治家、立憲政治家ノ責務デアラウト思ヒマスカラ、何卒赤裸々ニ其所信ヲ此席上ニ於テ述ベラレンコトヲ希望スル者デアリマス、第二ニ御尋申上ゲマスルコトハ、本案ニ依ル所ノ保護奬勵ニ依リマシテ、果シテ製鐵事業ノ確立ヲ期シ得ルト云フ點デアリマス、又果シテ斯ル御自信アリヤ否ヤト云フ點デアリマス、何ヲ根據ト致シテ斯樣ナ御自信ヲ抱カレタカト云フコトヲ御尋申上ゲタイト思フノデアリマス、只今片岡商工大臣ハ森君ノ質問ニ對セラレテ、現行法ハ相當ニ效果アルモノデアルト、斯樣ニ申サレタノデアリマスガ、併ナガラ現行法ノ實施以來、今日ニ至ルマデノ製鐵事業ノ現狀ハ、明ニ此現行法ノ失敗シテ居ルコトヲ物語ッテ居ルモノデアリマス、試ニ其例ヲ申上ゲマスト云フト、大正六年現行法實施以來、全國ニ於テ約八十ノ製鐵所ガ出來タノデアリマス、然ルニ今日マデニ既ニ七十五ノ工場ハ其作業ヲ中止致シテ居ル、或ハ全然廢業ヲ致シテ居ル、僅ニ殘ッテ居ルモノハ五ツシカナイノデアリマス、サウシテ殘ッテ居リマス所ノ釜石ノ製鐵所、輪西ノ製鐵所、兼二浦ノ製鐵所、是等悉クガ相當ノ缺損ヲ致シテ居リマス、此事實ハ明ニ私ハ現行法ガ適當ナル制度デナカッタト云フコトヲ如實ニ語ッテ居ルモノデアルト思ヒマス、無論大正九年ノ財界ノ急轉直下ノ不況ニ依リマシテ、非常ナ打擊ヲ受ケタコトハ事實デアリマス、併ナガラ若シ現行法ナルモノガ相當效果ガアリマシタナラバ、私ハ八十ノ中七十五マデ廢業スルヤウナ結果ニ陷ッテ居ラヌト思ヒマス、此點ハ明ニ現行法ノ失敗ヲ物語ッテ居ル何ヨリノ證據デアルト思ヒマス、其他海外ノ例ヲ森君ガ述ベラレタニ對シテ、外國ハ外國デアル、我ガ日本ノ國ハ外國ニ見習フ必要ハナイト云フ御答デアッタノデアリマスガ、併ナガラ我國ガ英、米、獨、佛ニ比シテ、其原鑛ノ數量ヨリ致シマシテモ、遙ニ劣ッテ居ル、其劣ッテ居ル國家ガ海外ヨリ、ヨリ勘イ所ノ保護奬勵ニ依テ、果シテ製鐵事業ノ確立ノ目的ガ達セラレルト云フ御考ヲ持ッテ居ラレマスカドウデアリマスカ、私ハ少シク例ヲ擧ゲテ申上ゲマス、米

國ニ於テハ御承知ノ如ク千八百十五年ニハ銑鐵一噸ニ付テ一弗ノ保護デアリマシタガ、千八百七十年ニ於キマシテハ、一噸ニ付テ七弗ノ高率ヲ課シタノデアリマス、サウシテ千八百九十年ニ於キマシテ、彼ノ有名ナル「マッキンレー」ノ保護政策ニ依テ、初メテ米國ノ製鐵事業ヲ完成致シタノデアリマス、又獨逸ノ如キモ千八百四十四年ニ於キマシテハ、銑鐵一噸ニ付テ二十馬克ノ關稅ヲ掛ケテ、サウシテ漸ク製鐵事業ハ確立シタノデアリマス、其後——製鐵事業ノ基礎ガ確立致シマシタニ付テ、千九百十年ニハ十馬克ニ引下ゲタノデアリマス、ケレドモ兎ニ角保護關稅ヲ設ケタトキニハ二十馬克ヲ課シタノデアリマス、又英國ノ例ヲ取ッテ見マシテモ、英國ハ御承知ノ如ク十八世紀ノ末葉ニ於テ關稅政策ヲ行ッタノデアリマスガ、其當初ハ銑鐵一噸ニ付テ二磅十志十片ヲ課シテ居ッタノデアリマス、其後峻烈ナル保護政策ヲ實行致シマシテ、千八百十九年ニ於テハ銑鐵一噸ニ付テ六磅十志ト云フ、殆ド輸入禁止稅ニ均シキ稅金ヲ課シテ居ッタノデアリマス、當時英國ニ於ケル銑鐵ノ原價ハ、一噸ニ付テ十磅十志十片二分ノ一ト云フコトデアッタノデアリマスカラ、丁度原價ノ六割ニ當ル程ノ高率ノ輸入稅ヲ課シタノデアリマス、其結果漸クニシテ英國ノ製鐵事業ト云フモノハ確立シタノデアリマス、蓋シ石炭多ク鑛量多キ所ノ英吉利、獨逸、亞米利加ニシテ、尙且ツ斯ノ如キ高イ稅金ヲ課シテ、サウシテ幾多ノ變遷ヲ經、長イ間ノ經驗ヲ積ミ、漸クノ事業ハ確立シタノデアリマス、又森君ノ申サレタ如ク、保護奬勵ヲ行ッタ國家ハ少シモ成功ヲ見テ居リマセヌ、其實例ハ時間ヲ省略スル爲ニ私ハ申シマセヌガ、加奈陀ニ致シマシテモ、濠洲ニ致シマシテモ、奬勵金ヲ交付スル制度ヲ取ッタ國ハ悉ク失敗ヲ致シテ居ル、斯樣ナ事實ニ徵シマシテモ、私ハ一噸ニ付テ僅ニ六圓以內ノ奬勵金ヲ交付ナサレルコトニ依テ我ガ製鐵事業ガ確定スルモノトハ、ドウシテモ思ハレヌノデアリマス、此點ニ付キマシテハ今一度具體的ニ御自信ノ程ヲバ承リタイト思フノデアリマス、然ラバ何ヲ根據トシテ片岡商工大臣ハ此計畫ガ此方法ニ依テ確立スルト云フ御自信ヲ以テ御出シニナッタノデアリマスカ、或ハ鋼鐵ノ關稅ヲ一割五分カラ一割八分ニ引上ゲタ、サウシテ五圓程ノ引上ヲヤッタ カラ、銑鐵ニ對シテモ五圓程ノ奬勵金ヲ交付スルト云フ御意見デアルノデアリマスカ、或ハ我國ノ價格ト外國ノ價格ガ五六圓開キガアルカラ、ソレダケノモノヲバ交付スルノデアルト云フ御考カラ出タノデアリマスカドウカ、其根據ヲ一ッ數字的ニ御示シヲ願ヒタイト思フノデアリマス、ソレカラ第三ト致シマシテハ、私ハ暫ク片岡國務大臣ノ御聲明ヲ信賴スルモノトシテ、本法案ニ依テ製鐵事業ガ確立スルモノト看做シマシテ、然ラバ果シテ幾年ノ期間、今後幾年ノ期間ニ於テ我ガ製鐵事業ガ確立スルト云フ御考デアルノカドウカ、此二ッノ事柄ハ我ガ國家ノ財政上、又國民ノ負擔ノ上ニ重大ナル影響ヲ持ッモノデアリマスカラ、恐ラクハ政府ト雖モ何等ノ據ル所ナク、漫然ト此御計畫ヲ立テラレタモノトハ思ハヌノデアリマス、必ズ此計畫ヲ立テラレタニ付テハ、何カ據ルベキ根據ガアッタデアラウト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテ詳細ナル御說明ヲ仰ギタイト思ヒマス、其次ハ現在ノ當業者ハ御承知ノ如ク、大正六年ノ現行法ニ依リマシテ特別ノ保護ヲ受ケテ、其結果ト致シマシテ經營ガ頗ル放漫ニ流レ、サウシテ其結果經營困難ノ狀態ニ陷ッタノデアリマス、隨テ本法ヲ適用ナサル前ニ當リマシテハ、現當業者ノ事業ノ內容ヲ根本的ニ刷新ヲサレ、經營方針ヲ改メ、サウシテ生產費ヲ安カラシムルコトヲバ鋭意御努力ヲナサッテ、其上ニ本法ヲ適用ナサルト云フコトガ穩當デアラウト思フノデアリマス、單ニ表面上ノ條件ノミガ一致ヲ致シタカラ、直ニ本法ヲ適用ナサルト云フヤウデハ、何等ノ效果ガナカラウト思フ、恐ラクハ奬勵法デナクシテ、現當業者ノ懇願ニ依ル所ノ一ノ義損金ニナルデハナカラウカト思フノデアリマス、隨テ私ハ本法ヲ適用ナサル前ニ、現當業者ノ財政狀態ヲ能ク御調ベニナッテ、其整理ヲ政府自ラ爲サレルト云フ位ノ決心ヲ以テ斷行サレンコトヲ希望スル者デアリマス、之ニ對スル政府當局ノ御方針ハ如何デアリマスカ、之ヲ御尋申上ゲタイノデアリマス、更ニ假令現行法ヲ適用ナサリマシテモ、今後當業者ノ經營方針ニ付キマシテハ、嚴重ナル監督監視ガ必要デアラウト思フ、此當業者ノ嚴重ナル監督監視ヲバ政府ハ如何ナル方策ヲ以テ御遣リニナル御考デアリマスカ、此點ヲ御尋申上ゲタイト思フノデアリマス、次ハ共同販賣ノコトデアリマス、是ハマダ確定致シテ居ラヌヤウデ

アリマスガ、最近工業當業者ガ御集リニナッテ此生産ノ調和ヲ圖ル、調節ヲ圖ルト云フコトヲ御相談ニナッテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ誠ニ結構ノ事ト思フノデアリマス、併ナガラ共同販賣ヲ爲サルコトニ依テ市價ヲ釣上ゲテ、外國品ヨリモ高價デアッテ而モ劣等ナル製品デ、我ガ内地需要者ハ甘ンジナケレバナラヌト云フ結果ニ陷ルノデナカラウカト云フコトヲ私ハ憂フル者デアリマス、此點ニ付キマシテ政府ハ如何樣ナル御考ガアルノデアルカ、承ッテ見タイノデアリマス、其次ハ滿蒙ニ於ケル製鐵業者ニ對スル保護奬勵デアリマス、我國ノ製鐵事業ノ基礎ヲ確立致シマスルノニ、内地當業者ニ對スル保護奬勵以上ニ、滿蒙ノ當業者ニ對シマシテ保護奬勵ヲ與ヘル必要ガアルト思フノデアリマスガ、政府ハ果シテ保護奬勵ヲ爲サル御意思ガアルカ、アルナラバ如何ナル方法ヲ以テ、又如何ナル金額ヲ御交付ニナル御考デアリマスカ、此點ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、以上ハ議案第一ニ依テノ質問デアリマス、御承知ノ如ク朝鮮ニ於キマシテハ、現在我ガ内地カラ朝鮮ニ移入致シマスル所ノ「アルコール」類竝ニ織物ニ對シテ移入稅ヲ課シテ居ルノデアリマス、其金額ハ昨年度ニ於キマシテ二百八十二萬五千九百七圓、斯樣ナコトニナッテ居ルノデアリマスガ、朝鮮ヲ合併ナサッタ時ニ、朝鮮合併後十年ノ後ニ於テハ、我ガ内地トノ關稅ヲバ撤廢スルト云フ御聲明ヲ爲サッテ居ルノデアリマス、然ルニ今日尙且ッ斯樣ナ移入稅ノ制度ヲ設ケラルヽト云フコトハ、朝鮮合併當時ノ聲明ヲ裏切ルモノト私ハ思フノデアリマス、政府ハ今日我國内地ノ產業竝ニ朝鮮ノ產業ノ實際ニ顧ミマシテ、此移入稅ヲ撤廢ナサル御意思ガアルカドウカト云フコトヲ御伺致シタイノデアリマスガ、先般關稅定率法改正ニ依リマシテ、粟ニ對シテ百石二十一圓二十五錢ノ輸入稅ヲ課セラレタノデアリマス、然ルニ粟ハ御承知ノ如ク主トシテ朝鮮ノ細民ガ食糧ニ供シテ居ルノデアッテ、内地ノ需要ニ供セラレルノハ極ク少イノデアリマス、然ルニ朝鮮ノ細民ノ唯一ノ食糧デアリマスル物ニ對シテ、斯樣ナル稅率ヲ課セラレルト云フコトハ、朝鮮ニ於ケル社會政策ノ見地ニ反スルモノト思フノデアリマスガ、政府ハ此粟ニ對スル輸入稅ヲバ朝鮮ニ限ッテ除外例ヲ設ケラルヽ、御考ガナイカ否ヤヲ御尋申上ゲタイノデアリマス、以上數點ニ亙リマシテ國務大臣ノ御答ヲ得タイノデアリマスガ、殊ニ第一點、工業立國ニ關スル問題ハ我國將來ノ進運ニ重大ナル影響ガアリマス爲ニ、内閣總理大臣ノ御答辯ヲ煩ハスベク本日御出席ヲ要求致シタノデアリマスガ、御出席ガアリマセヌカラ、片岡商工大臣ガ御代リニナッテ、ソレニ對スル率直ナル御答ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

片岡商工大臣ノ應答

第一ハ工業立國ノ意思ナキヤ否ヤ、此點ニハ極メテ熱心ニ其必要ヲ加味セラレ御質疑ニ相成ッタノデアリマス、極メテ率直ニ御答ヲシヨウト云フ御要求デゴザイマスルガ、我國ノ產業、所謂原始的產業、農業的產業、此兩方面ニ向ッテ力ヲ致スコトガ適當ナリト信ジテ居リマスレバ農村振興ノ如キ、或ハ甚ダ重キヲ御置キニナラヌヤウニ伺ヒマシタガ、我國ノ國民多數ハ農業者デアリマス、其農業者ノ疲弊困憊ヲ無視スルコトノ出來得ナイノハ、是ハ當然ノ事デアリマス、所謂農村振興ノ聲ノ喧シキコトモ一通リ道理アルコト、存ジマス、故ニ之ヲ無視スベカラズト云フコトニ於キマシテハ、政府ハ常ニ相當ノ考慮ヲ拂ッテ居リ、又相當ノ施設ヲ爲シツヽアルコトモ御承知ノ通リデアリマス、併ナガラ工業ヲ是ヨリ發展セシムル所ノ效果、農業ノ改良、所謂振興ト云フ所ノ效果ノ數量ヲ考ヘマスレバ、ソレハ工業ノ上ニ力ヲ致サナケレバナラヌト云フコトヽ、其效果ノ多イ事トハ御質問ノ通リデアルト思フ、此點ニ於キマシテハ、前田君ノ御考モ私ノ考モ甚シキ差ハナイノデアリマス、唯前田君ハ工業立國ト云フコトニ全力ヲ盡シテ、他ノ方ノ事ヲ無視スル御意味デハナカッタト存ジマスガ、稍輕視シタ御考ノヤウニ伺ヒマス、是ハ輕視スルコトハ農民多數ヲ占メテ居ル我ガ國情トシテ許サナイコトデアルト存ジマス、工業ノ上カラ申シマスレバ、今日ノ製鐵事業ニ對シテ奬勵法ノ協贊ヲ求メマスルコトモ、又染料工業ニ對シテ重キヲ置イテ居リマスルコトモ、是皆化學工業ノ上ニ力ヲ致サナケレバナラヌト云フ考ノアルコトヲ證據立テルコト、思ッテ居ルノデアリマス、其他工業試驗所ニ於テ窒素ノ研究ノ如キ、今中間試驗ニ移ッテ居ルノデアリマスガ、是等モドウシテモ自給自足ニ致サナケレバナラ

ズ、其自給自足ニ至ル曉ハ、農民モ亦之ニ依テ多クノ肥料ヲ得テ、而モ經濟的ニ得テ以テ利益スルト云フコトニモ相成ルノデアリマス、其他曹達灰ノ如キモノニ至リマシテハ、最早成功スルコトハ間違ヒガナイマデニ試驗ハ濟ンデ居ルノデアリマスガ、詰リ是等ニ要スル所ノ鹽其モノガ、我國ニ於ケル需給ノ關係ガ稍平衡ヲ得テ居ルノデアリマス、是等工業ニ要スル所ノ鹽ニ致シテハ、別段ノ考慮ヲ致サナケレバナラヌ、唯考慮スルノミデハ事足ラヌコトデ、是ハ方針ヲ確定シナケレバ相成ラヌコトニナッテ居ルノデアリマス、是等ノ點ニ於キマシテモ、速ニ其方針ヲ確定スルコトニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、卽チ工業立國ノ御趣旨ハ、商工省トシテ懷イテ居リマス所ト差別ハナイ、斯ウ御承知下スッテ宜イノデアリマス、次ニ現在ノ奬勵法ノ下ニ、製鐵事業ヲシテ愈自給自足ノ域マデ確立セシムルコトガ出來ルカ否ヤ、此御質問デアルノデアリマスガ、現在此製鐵事業ヲシテ一日モ速ニ成功セシムルニハ、關稅ヲ十分ニ引上ゲルト云フコトガ一番仕易イ事デアリマス、一番又效果ガ有ルモノデアリマセウ、サリナガラ我國ニ出來ル所ノ鐵ノ約半分ハ、今輸入ニ仰イデ居ルノデアリマス、此關稅ヲ一時ニ引上ゲタ爲ニ、其國民ノ多數ガ非常ニ高キ鐵ヲ使用シナケレバナラヌト云フコトニ陷ルノデアリマス、製鐵業者ダケカラ申セバ關稅ヲ引上ゲルコトヲ欲スルノデアリマス、消費者ノ側カラ云ヘバ關稅ヲ成タケ安クシテ貰ハナケレバナラヌト云フコトヲ主張スルノデアリマス、是ハ利害相反スル事柄デアリマス、ソレ故ニ製鐵事業ヲシテ眞ニ自給自足ノ域ニ達セシムル爲ニハ、成ベク國民ヲシテ苦痛ヲ甚シカラシメザル程度ニ於テ之ヲ力メナケレバナラヌト思フノデアリマス、其點カラ申シマスルト、銑鐵ヨリ始マッテ鋼材マデニ一貫シテ行クト云フ此設備ノ整ヒマシタ曉ハ、生產費ニ於テ、約七萬圓餘ヲ減ズルト思フノデアリマス、ソレカラ今日奬勵金ヲ與ヘルコトヲ先ヅ別ニ致シマシテ、現在ノ奬勵法其モノニ依リマシテ之ヲ玆ニ延期ヲ致ス最早期限ガ來テ居ルノデアリマス、之ヲ期限ヲ延ベマスル爲ニ、奬勵法ノ下ニ受クル奬勵金ノ外ニ、所謂所得稅トカ營業稅トカ云フモノ、免稅ヨリ致シテ、鋼材一噸ニ對シテ約一圓八十二錢ノ補助ヲ加ヘラレタト同ジ結果ニナッテ居リマス、サウスルト設備ノ改善ニ依テ生產費ガ七萬圓餘

安クナリ、所得稅、營業稅ノ免除ニ依テ一圓八十二錢安クナリ、奬勵法ニ依テ受クル所ノ金ヲ合セテ相當ノ金額ニナルト思フノデアリマス、而シテ何ニ依テ此奬勵法ノ根本ヲ定メタカト云フ御話デアリマス、是ハ詳細ニ亙リマスルト委員會デ申上ゲル外ハアリマセヌガ、大體ニ於テ今日輸入シテ來ルモノニ對スル日本ノ製品トヲ比較シタモノデアルノデアリマス、而シテ果シテ確立スルヤ否ヤト云フ此根本ノ御尋ニ對シテ、當業者ト一致協力ノ結果確ニ成功スルト存ジマスルガ、當業者ガ今申シタ通リ利益ヲ得ルヤウニ力メルコトハ、當業者ニ於テ爲サネバナラヌ、是等ガ果シテ爲スカ否ヤト云フコトハ、政府者ニアラズシテ當業者デアル、其當業者ト政府者トガ相兼ネテ居ルト云フコトヲ申上ゲルノデアリマスガ、現ニ枝光製鐵所ノ如キハ是デ十分ニ行クノデアリマス、故ニ官營ノ方カラ申シマスレバ、無論行クノデアリマスガ、此點カラ申シマスレバ、資本ニ對スル利子ヲ拂ッテ居ラヌト云フガ如キ御論モ起リマセウガ、其利子ヲ控除致シマシテモ、算盤ハ出ルコトニナッテ居リマス、サウシテ見ルト、此奬勵法ニ依テ當業者ガ玆ニ奮勵努力シテ以テ國策樹立ニ副フ、此所マデ努メルト云フコトニ依テ效果ノ完成スルモノト申サナケレバ、此ニ何年ヲ期シテト云フガ如キコトハ責任ヲ以テ御答ハ出來ル事柄デナイト思フノデアリマス、ソレカラ外國ヨリ少キ補助云云ノコトモゴザイマシタガ、是ハ前段ニ御說明ヲ申上ゲタコトニ依テ、大略ヲ御承知下サッタト思フノデアリマス、ソレカラ外國ノ奬勵法ハ失敗デアッタ、之ヲ森君ノ述ベラレタ點ニ對シテ重ネテ御述ニナリマシタガ、是ハ其國ノ事情ニモ依リマセウ、凡ソ物ノ補助ト云フモノハ、補助金ガアルガ爲ニ補助金ヲ以テ改良シナイト、斯ウ云フコトニ流レ易イノデアリマス、今回ノ奬勵法ハ、現在ノ設備ヲ斯樣ニ改良シテ此奬勵法ニ副フヤウニ致スト云フ方法ヲ先ヅ立テサセ、之ヲ何時マデノ間ニ實行スルト云フコトニ依テ、ソレヲ信ジテ助成金ヲ遣ルノデアリマス、若シ其決メタ事柄ヲ實行致サナカッタナラバ、奬勵金ハ取上ゲルト云フコトニナッテ居リマス、サウ云フ風ニ定ムル積リデアリマス、ソレ故ニ唯製品ノ分量ニ應ジテ遣ルト云フモノデナイ以上ハ、相當ノ效果ハアルト信ジテ居リマス、此答ニ依テ、當業者ノ財政ヲ調ベテ云々ト云フ

コトノ御質問ハ、御了解ガ出來タカト存ジマス、ソレカラ監督ノ方法ヲ如何ニスルカト云フコトデアリマス、是ハ素人デハ監督ハ出來ナイ、ソレ故ニ既ニ製鐵所技監野田氏ヲ商工省ノ兼務ヲ命ジマシテ、サウシテ是ガ監督ニ當ラシメルヤウニシテアルノデアリマス、何レ其監督ノ方法其他詳細ノ事ニ至リマシテハ、委員會ニ於テ野田政府委員ヨリ詳細ニ御答ガ出來ルト存ジマス、ソレカラ共同販賣ノ設備ノ結果、惡イ品物ヲ高ク賣ルヤウニナリハセヌカト、斯ウ云フコトデアリマスガ、惡イ品物ヲ高ク賣ルヤウトハ存ジマセヌ、左樣ナコトハ致サセマセヌガ、ソコマデ來レバ大變結構デアリマス、其弊ガ出來テ、之ヲ矯正スルコトニ相成ルマデニ、此共同販賣ノ實績ガ擧ガルヤウニナレバ、洵ニ結構デアリマス、若シソコマデ來マシタナラバ、其弊害ヲ見出セバ是ガ矯正ニ努メルト云フコトハ、當然ノコトデアッテ、此矯正ヲ致スコトハ、何モ困難ハナイト思ヒマス、次ハ滿蒙ニ對スル御尋デゴザイマシテ、至極御尤デアリマス、併ナガラ滿蒙ハ我國ノ領土デハナイ、此奬勵法ヲ滿蒙ニ適用スルト云フコトハ出來得ナイノデアリマス、併ナガラ我國ノ勢力ニ於テ、滿蒙ノ仕事ガ今日進ンデ居リマスル以上、之ヲ無視シテ置クト云フコトハ出來得ナイ、是ハ分リ切ッテ居ル、ソレ故ニ此滿蒙方面ニ對シテハ、此奬勵法ヲ御協賛ヲ得ルト同時ニ相當ノ考慮ヲ致シテ、彼等ノ苦痛ノ無イヤウニ致サウト云フ事ヲ決メテ居ル次第デアリマス

前田房之助君ノ再質疑

只今片岡國務大臣ハ私ノ質問ニ對セラレマシテ、私ガ農村振興ヲバ輕視シタ嫌ガアルト云フ言葉ヲ用キタト仰シャッタノデアリマスガ、私ハ斷ジテ斯樣ナ言葉ハ用キナカッタノデアリマス、今日我ガ國ノ農村ノ振興救濟ヲ圖ルト云フ所ノ根柢ハ、社會政策上ノ見地カラ出タト云フコトガ第一デアルト云フコトヲ申上ゲタニ過ギナイノデアリマスカラ、左樣ニ御諒解ヲ願ヒタイト存ジマス

黒金政府委員ノ應答

只今前田君ノ御質問デ、朝鮮ニ於ケル酒精竝ニ綿織物ノ輸入稅ヲ撤廢スル意思ガナイカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ內地ノ制ノ改正ニ伴ヒマシテ、各植民地ノ稅制モ其趣意ニ順應シテ改正ヲシタイト云フ積リデアリマシタケレドモ、各植民地何レモ異ナル事情ヲ持ッテ居リマシテ、至リマセヌ、隨テ十六年度マデニ於テハ、ソレ〳〵調査ヲ遂ゲテ、內地ノ方針ニ順應シテ進ムト云フコトニナッテ居ルノデゴザイマス、又朝鮮ノ朝鮮人ニ最モ必要ナル粟ニ對シテ、此輸入稅ヲ除外スルノ考ハナイカト云フ御尋デゴザイマシタガ、是ハ御承知ノ通リ今日ニ於キマシテハ、粟ニ對シテ一石五十錢カノ輸入稅ヲ掛ケ居リマスガ、若シ凶作其他必要ノ場合ニ於テハ、朝鮮總督府ニ於テ臨時是ガ方法ヲ講ジテ、此稅金ヲ免除スルト云フ規則ニ今日ナッテ居ルノデアリマス、隨テ其必要アレバ、是ハ其必要ニ應ジテ朝鮮總督府ガ免除スルト云フコトニ今日ナッテ居リマスガ故ニ、此點ニ付テハ其手段ニ依テ進ムト云フ考デ居ルノデゴザイマス、以上御質問ノ要點ダケヲ申上ゲマス

猪野毛利榮君ノ質疑

極ク簡單ニ一、二點御尋致シタイト思フノデアリマス、日本ノ鐵國策ト云フモノハ非常ニ重大ナル問題デアルト私ハ思フノニ、取扱方ガ如何ニモドウモ早足デ、而モ冷淡ノヤウニ考ヘラレルノデアリマス、一體日本ハ鐵ノ自給自足ニ達シ得ラルヽ見込ガ確然ト有ルカ無イカト云フコトヲ先ヅ聞キタイ、眞先キニコイツヲ聞カナクチャ駄目ナンデス、何故ナラバデスネ、一體此案ガ出テ來タ歷史ヲ吾〳〵ガ考ヘテ見ルト、腑ニ落チヌ點ガ多イノデス、高橋是清君ガ農商務大臣ノ時デアッタ、卽チ三派內閣ノ時ハ日本ニ於ケル所ノ三菱其他東洋製鐵ノ如キ、五六ノ製鐵會社ガ此大切ナル鐵事業ヲヤッテ居ルノデアルケレドモ、ドウシテモ立行カヌカラ之ヲ救濟セナクテハナラヌト云フ議論ヲシテ、サウシテ枝光ノ製鐵所ヲ玆ニ拂下ゲテ、サウシテ官民合同デヤルトカ何トカ云フ卽チ會社ノ救濟策ノヤウニ當時ノ輿論ハナッテ居ッタヤウニ思フ、高橋君ハサウ云フ事ヲ此處デ明言セヌケレドモ、輿論ハ之ヲ認メテ居ッタノデアル、ソレガ今日ニ至ッテハソレヲヤラズ

シテ、詰リ鐵國策ト變更シテ來タノデアル、鐵會社救濟策ガ鐵國策ト變更シテ來タヤウニ吾ミハ考ヘラレル、斯ウ云フ薄弱ナル根據理由ノ下ニ鐵國策ガ現レテ來タヤウナコトデハイカヌ、先程ノ片岡サンノ御話ニ依レバ、最初此鐵ニ付テハ關稅主義ヲ執ッテ來タヤウデアルケレドモ、此關稅政策ヲ執ルコトハ出來ナイト云フコトニ付テハ、ハッキリ明言シ得ナイ、是ハ重大ナル事デアル、關稅主義デヤルカ、又保護金ヲ給付シテヤルカト云フコトハ重大ナル事デアル、日本デハ餘リ原礦石ハ澤山ナイト云フコトハ皆分ッテ居ル、ソレヲ原礦石ノ澤山アル外國デモ失敗シテ居ル此事柄ヲ、何等原礦石ノ無イ日本ガ斯ウ云フ大膽ノコトヲ急イデヤル、實ニ私共ハ腑ニ落チナイデスネ、實ハ鐵ニ付テハ私共ハ素人デアルケレドモ、素人ガ聞クコトハ中ミ眞理ヲ鑿ツコトガアル、玄人バカリデハイカヌ、片岡君ナドモ鐵ニ付テハ素人デアルカラ、隨テ玄人以上ノ名案ガ出テ來ルト思ッテ特ニ興味ヲ持ッテ居ル、偖製鐵事業ニ保護金ヲ充行フテ、事業ヲ奬勵シテ行クノハ宜イケレドモ、今日本デハ民間デモ製鐵事業ヲヤッテ居ル、政府デモ枝光製鐵所ヲ持ッテ居ル、兎ニ角民間ニ補助ヲシテ旨ク段々ヤッテ行ケルヤウニシテ、ソレカラ後ニ官營ニシテシマフ積リデアルカ、之ヲ政府ガ買收シテ官營デヤラスル方ガ色ミノ都合上統一ガ取レテ宜イト云フノデアルカ、又今鐵ノ保護ヲ各會社ニヤッテ、後デハ枝光製鐵所ナドヲ民間ニ拂下ゲルト云フヤウナ方針デアルカ、此點モシッカリ聞イテ置カナケレバイカヌノデアル、枝光製鐵所ノ如キハモウ七八年モ經チマセウガ、非常ナル大疑獄ヲ起シテ、當時ノ押川長官ナドハ其爲ニ自殺ヲスル、其以後ニ於テモ世人ハ九州ノアノ一角ニハ多大ナル疑惑ヲ持ッテ居ル、今日デモ實ニアノ製鐵所ノ內部ハ紊亂ヲシテ居ルト云フコトヲ、時ミ私等ハ聞イテ居ルノデアリマスガ故ニ、斯ウ云フ點ニ付テモハッキリシタコトヲ片岡サンガ仰シャラナクテハ、吾ミガ通リ一遍ニ議會ヲ通シテモイカヌ、成程トシッカリ腑ニ落チナケレバイカヌ、國民モ此點ニ付テ疑惑ヲ持ッテ居ルト私ハ考ヘテ居ル、ソレカラ第二番目ニハ、內地ニ一體ドレ位ノ鐵ノ原鑛石ガアルカト云フコトヲ聞キタイ、私共ハ國防上コンナ事ヲ申シテハ差支アルカモ知レヌケレドモ、日本ノ鐵ノ原鑛石ハ貧弱ナルモノデアルト云フコトハ、世界ノ定論ニナッテ居ルト思フ、一體一年ニドレ位ノ鐵鑛石ヲ掘ッテドレ位拵

ヘテ、何年間此原鑛ヲ始末シテ行ケルカト云フコトノ大凡ノ見込ガ立タナケレバナラヌト思フノデス、又此鐵ヲ製造スルニ付テハ石炭ガ要ル、日本ノヤウナ質ノ惡イ石炭デハ、本當ノ良イ鐵ガ出來ルカドウカト云フコトモ疑問デアル、諸威ニ於テハ非常ニ良イ石炭ガ良イト云フ說ヲ爲シテ居ル者モアル、其火力即チ石炭ガ良イデアラウ、技藝モ宜イデアラウガ、其火力即チ石炭ガ良イト云フ說ヲ爲シテ居ル者モアル、斯ウ云フコトニ付テモ吾ミハ知ッテ置ク必要ガアルト思フ、又內地ニ澤山ノ原鑛石ガ無イナラバ、之ヲ濫ニ今日掘盡シテ使ヒ切ルト云フコトハ、國防ノ上カラ考ヘテ見テモイザト云ノ時ニ非常ニ後カラ迷惑ガ來ハセヌカ、現ニ獨逸ノ如キハ自分ノ國ニハ相當ノ鐵鑛石ガアルケレドモ、アノ「ブルガン」ニ於テ製鐵所ヲヤッテ居リマスガ、此處へ來ル所ノ原鑛石ナドハ皆諸威ノ方カラ持ッテ來テ居ル、サウシテ石炭ハ英國カラ持ッテ來ルト云フヤウニシテ、成ベク自分ノ國ノモノハ使ハヌヤウニヤッテ居ル、日本ノ如ク貧弱ナルモノガ濫ニ之ヲ奬勵シテ、內地ノモノヲ掘盡シテシマフト將來ハ實ニ困リハセヌカト思フ、現ニ石炭ノ如キモノデモ、モウ五十年ダケシカ日本ノ石炭ノ壽命ハナイト云フコトヲ片岡商工大臣ガ知ッテ居ラナケレバナラヌト思フ、モウ一ツ私ハ聞イテ置キタイ、日本ガ一體鐵國策ヲ確立スルト上ニ於テハ、支那ヲ措イテ日本ダケデ鐵國策ヲ確立スルコトハ出來ヌ、何トシテモ日本ハ日支合辦トカ何トカ云フ途ニ依ラナクテハ出來ヌ、ソレニ斯ウ云フ點ニ付テハ一向說明ガナイノデスガ、今滿洲ノ鐵ノ話モアリマシタガ、滿洲バカリデハナイ、一體支那ト特別ノ何等カノ條約ヲ結ンデヤルカ、或ハ支那ノ原鑛石ガ日本デ自由ニ取ルコトガ出來ル狀態ニナッテ居ルカ、又石炭モ日本ノ內地デハ足ラヌカラ滿洲カラ之ヲ持ッテ來ルト、持ッテ來ルニ付テハ萬一太平洋ノ浪ガ荒レテ日米間題ガ起ッテモ、斯ウ云フ點ニ於テ差支ナイカドウカ、斯ウ云フ所マデ私ハ考ヘナクチャイカヌト思フ、モウ一ツ序ニ聞イテ置キタイ事ハ、世間デハ此鐵奬勵保護案ナルモノハ五ツ六ツノ大會社ヲ徒ニ富マスノミデアッテ、弱小會社ガ普遍的ニ此恩惠ニ浴スルコトガ出來ヌト云フ聲ガ大分アルガ、果シテ斯ウ云フ結果ニナルカナラヌカ、此點モ承リタイト思フノデアリマス

片岡商工大臣ノ應答

商工大臣ハ鐵ノ自給自足ヲ確立セシムルノ確信アリヤ否ヤ、サウシテ御言葉中ニハ片岡モ素人デアリ、自分モ素人デアルト斯ウ仰セラレタノデアリマスケレドモ、如何ニモ私ハ其道ニハサウ明ルイ者デハアリマセヌ、併シ猪野毛君ヨリモウ少シ研究ハシタカト思ヒマス、併ナガラ私ノ所信ニ依テ申上ゲルノデハナイ、之ニ對シテハ製鐵事業ノ將來ニ關スル調査委員會ナルモノヲ組織シマシテ、是ハ高橋農商務大臣時代デアリマスケレドモ、其道ニ詳シイ人ヲ集メテ、十三回ニ至ル長キ時間ノ研究ヲ致シ、ソレニハ我國ノ事ハ固ヨリ他國ニ於ケル製鐵ノ狀況、生產費、運賃、金利、色々ノ調査ヲ致シ、是ト相比較シテ日本ノ製鐵事業ハ自給自足ガ出來得ル、斯ウ云フ論結ニ相成ッテ居ルノデアリマス、ソレデ私ガ確信スルノミナラズ、斯道ニ明ルキ者ガ確信ヲ致シテ居ルノデアリマス、サウシテ其時分ノ決議ハ民間當業者ヲ救濟スル爲ガ主デアッタト云フ御話デアリマスガ、サウデハアリマセヌ、唯其論結ガ民間當業者ト八幡製鐵所ト資本ヲ合同致ス方ガ宜イ、半官半民ニスルガ宜イト云フコトガ決議ノ意見ニハナッテ居リマス、此意見ニ對シテ私ハ反對ヲ致ス者デハナイ、サリナガラ今日ノ場合ニ於テ枝光製鐵所ノ資本ガ假ニ一億圓デアルトシタ所ガ、其一億圓ト云フモノヽ、正體ガ世ノ中ニ分ッテ居ルカト云フト、分ッテ居リマスマイ、ソレカラ戰後ニ於テ急造セラレタ製鐵所ガ投ジテ居ル資本ガ、果シテ今日ヨリ見テ適當ノ資本ト云ヘルヤ否ヤ、是等ノモノヲ打ッテ一團トスルガ如キコトハ、早計ノ甚シキモノト思ッテ居リマス、ソレ故ニ先ヅ八幡製鐵所ノ會計法ヲ變ヘ、民間ノ會社ニ於ケルガ如キ決算ヲ明ニスルヤウニ致シ、サウシテ此奬勵法ノ下ニ、民間ノ製鐵業者ニ向ッテモ相當ノ監督ヲ進メテ行クノデアリマス、其結果ニ於テハ或ハ資本ノ合同、半官半民若クハ國有、斯ウ云フガ如キコトマデモ起ルカモ知レマセヌ、只今ノ所デハサウ云フコトニ到著スル場合ニ於テモ、何等差支ノナイヤウニ進メテ行クト云フコトガ適當ナリト信ジテ居ルノデアリマス、ソレカラ八幡ノ製鐵所ハ内部ガ非常ニ紊レテ居ル、私ハ先日四日間バカリ朝カラ晩マデ通シテ調ベマシタガ、併ナガラ四日間バカリデ果シテ正確ナルモノデハゴザイマセヌガ、能ク整頓致シテ居ル、既ニ今日マデ長イ間損失モ可ナリ續ケテ來マシタ、併ナガラ

昨今ハ確ニ利益ヲ擧ゲラレ、自ラ自營自給ガ出來ルト云フコトヲ信ジマシタカラ獨立會計法ニ近カラシムルモノヲ拵ヘテ今日協贊ヲ求メテ居ルノデアリマス、今日マデ損ヲシタコトデゴザイマセヌガ、好景氣ノ時代ニ於テハ、今日ノ資本金額ヨリハズット餘計ノモノヲ儲ケテ大藏省ヘ納メテアル、枝光製鐵所ヲ若シ從來ノ金利ノ計算ヲセズニ見タ時ニハ、アレハ只ニナッテ、更ニ千四五百萬ノ金ヲ持ッテ居ルト云ッテモ宜イ、其所マデニハナッテ居リマスカラ、其點ハ御安心下サッテ宜イト存ジマス

古林喜代太君ノ質疑

第一法案ニ付キマシテハ、先輩ノ諸君ヨリ私ノ問ハントスル所ハ殆ド總テ御質問ニナリマシテ、之ニ對スル當局者ノ御答辯モ承リマシタノデアリマスカラ、私ハ先輩諸君ノ御言及ニナラナカッタ第二ノ法案ニ付キマシテ、濱口大藏大臣ニ唯一點御伺致シタイノデアリマス、濱口大藏大臣ハ前内閣、卽チ加藤内閣時代ニ於キマシテ行政、財政ノ整理ヲ爲サル際ニ、御聲明ヲ爲サレタノデアリマスガ、其御聲明ハ此特別會計ナルモノヲ成ベク之ヲ少ク致シタイノデアル、斯ウ仰セラレテ居ルノデアリマス、尙又前議會ニ於キマシテ濱口大藏大臣ハ、二、三ノ特別會計法ヲ廢止サレル所ノ法案ヲ御提出ニナリマシタ、其際モ將來トモ成ベク特別會計ハ少クスル方針デアルト云フコトヲ御述ニナッタコトヲ記憶致シテ居リマス、然ルニモ拘ハリマセズ、今回突如トシテ此製鐵所特別會計法案ト云フモノヲ御提出ニナリマシタノハ、濱口大藏大臣ハ以前ノ御聲明ニ對シテ恥デル所ナキヤ否ヤ、片岡商工大臣ノ御提案ノ理由ニハ、濱口大藏大臣ハ全然贊成デアルカ否ヤト云フコトヲ私ハ伺ヒタイノデアリマス、殊ニ此特別會計法ハ一般會計トハ全然關聯ノ無イ所ノ特別會計デアリマス、鐵道省ノ特別會計ト同樣ノモノデアリマスガ、鐵道省ノ特別會計ニ付キマシテハ、世間色々ノ風評ヲ耳ニ致スノデアリマス、現鐵相仙石サンハ諸君御承知ノ通リ顏ル清廉ナ方デアリマスカラ、現内閣時代ニハ餘リ多クノ風聞ヲ耳ニ致シマセヌケレドモ、以前ニハ隨分色々ナ風評ヲ耳ニ致シマシタ、八幡ノ製鐵所ハ

先刻猪野毛君ノ御言葉モアリマシタガ、先年世人ノ耳目ヲ驚カスヤウナ大疑獄事件ガ起リマシタ、私共ハ同縣ノコトデアリマスカラ、當時ノ事ハ他ノ人ニ較ベマスルト多少深ク記憶シテ居ルト思ヒマス、只今ハ片岡商工大臣ノ御言葉モアリマシタカラ、假ニ伏魔殿デハナイカトモ思ヒマスケレドモ、一般會計ト全然關聯ノ無イ所ノ特別會計ヲ設クルト云フコトハ、世人ヲシテ隨分疑ヲ挾マシムル所ノ懸念ガアルト思ヒマス、少クトモ先年ノ大疑獄事件ニ類シタヤウナコトガ幾分起リ易カラウト云フ懸念ヲ致スノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ濱口大藏大臣ハ、十分ノ御確信ヲ持ッテ御提案ニナリマシタノデアリマスカ、明快ナル御答辯ヲ御願シタイノデアリマス

濱口大藏大臣ノ應答

御答ヲ致シマスガ、製鐵所ノ會計ハ御承知ノ通リ今日ニ於テモ特別會計デアルノデアリマス、此特別會計ノ爲ニ、現在ハ作業會計法ト云フモノガアリマシテ、其會計法ノ内ニ於テ數個ノ特別會計ヲ認メテ居ルノデアリマス、而シテ豫算ノ表ニ於キマシテハ、御承知ノ通リ立派ナル所ノ特別會計デアリマス、此度ノ法律案ニ依リマシテ政府ガ設定セントスル所ノ製鐵所ノ特別會計ハ、從來ノ特別會計ニ對シマシテ、其内容ヲ改善シタニ過ギマセヌノデ、特別會計ノ數ニ於テハ少シモ增減スル所ハ無イノデアリマス、第二ニ此度ノ特別會計ノ法案ニ依リマスレバ、大體其模範ヲ現在ノ鐵道ノ特別會計ニ取ッテ居ルノデアリマス、唯鐵道特別會計ノ如クニ純然タル獨立ノ會計ニハナリマセヌケレドモ、稍獨立會計ニ近イ所ノ特別會計デアリマス、隨テ御說ノ通リ、一般會計トノ聯鎖ハ從前ノ如クデハアリマセヌケレドモ、一般會計ト整理ガ或ハ紊亂スルトカ、或ハ整頓スルトカ云フ如キ區別ノアルモノデハナイト考ヘマス、其會計ガ能ク整理セラルヽカ、若クハ紊亂ヲスルカト云フコトハ、一ニソレヲ扱ッテ居ル所ノ其人ニ存スルノデアリマス、隨テ此度ノ會計ノ組織ノ改正ニ依リマシテ、是ガ爲ニ製鐵所ノ經營上、惡イ所ノ結果ヲ生ズルト云フコトハ、毛頭考ヘテ居リマセヌノミナラズ、却テ此獨立會計ノ設定ニ依リマシテ、製鐵所ノ事業ヲシテ愈合理的ナラシメ、經濟的ナラシムルコトノ利益ガアルモノト確信ヲ致シテ居リマス

次テ委員ノ選擧ハ（七三）及（八〇）ノ兩案ト一括シテ議長指名（十八名）ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末希望條件ヲ附シ原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書ニ添附セルモノ）

希望條項

一　滿洲ニ於ケル製鐵事業ニ重要ナル關係アルヲ以テ政府ハ本法律案提出ノ主旨ニ鑑ミ是等ノ製鐵事業ニ對シ速ニ適當ノ助成方法ヲ實行スルコト

二　第八條ニ依リ交付スル奬勵金ハ銑鋼一貫作業ノ場合ハ毎一噸金六圓其ノ他ノ場合ハ毎一噸金五圓ト爲スコト

右希望ス

卽日議事日程ヲ變更シテ本案ハ政府提出製鐵所特別會計法案（本項第一（八〇））及政府提出大正九年法律第五十三號中改正法律案（關稅法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件）（本項第一（七三））ノ兩案ト一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長加藤政之助君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

此委員會ハ前後三回開キマシテ、今日午前ニ於テ終了ヲ告ゲマシタノデアリマス、政府ガ本案ヲ提出サレタ趣旨ハ、製鐵事業ハ基礎工業デアル、國家ノ存立ニ關係ノアル問題デアル、故ニ是ハ自給自足ヲ圖ラネバナラヌガ、歐羅巴ノ戰爭當時ニ於テハ、此事業ハ稍發達ノ緒ニ就イタケレドモ、爾來列國競爭ノ爲ニ我國ノ發達シカケタ製鐵事業ガ、將ニ衰運ニ向ハントシテ居ル、故ニ之ヲ何等カノ方法ヲ以テ奬勵振作シテ、鐵ノ自給自足ヲ圖ルノ必要ガアル、併シ此奬勵ニハ列國ノ歷史ニ鑑ミレバ、或ハ關稅ヲ以テ此事業ヲ奬勵シ、若クハ助成法ヲ以テ奬勵シタト云フ先例ガアルガ、併シ我ガ日本現時ノ狀況ニ於テハ、關稅ヲ以テ奬勵スルト云フコトハ適當ト考ヘナイ、寧ロ今回政府ガ提議セラレタガ如キ奬勵ヲ以テ、此事業ヲ發達セシメテ、鐵ノ自給自足ヲ圖ルノガ宜シイコトデアル、斯ウ云フ趣旨ヲ以テ本案ガ當議會ニ政府ヨリ提出セラレマシタ次第デアリマス、ソコデ其保護ノ內容ハ如何ナルモノデアルカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ本案提出ノ趣意ハ「ズク」カラ「スチール」、卽チ銑鐵カラ鋼鐵マデ繼續的ニ此事業ヲ經營スルト云フ工場ノ生產物ニ對シテハ、一噸ニ付テ六圓ヲ補給スル、ソレカラ銑鐵ダケヲ造ッテ、サウシテ之ヲ鋼材ニ提供スルト云フモノニ對シテハ五圓ヲ補助スルト云フ內容ノ答辯デアッタノデアリマス、ソコデ委員間ニ於テハ、第一ニ此事業ヲ奬勵スルニ付テ心配シナケレバナラヌノハ鐵ノ原料デアル、我國ハ鐵ノ原料ガ極メテ乏シイ、之ニ對シテ政府ハ現在如何ナル見込ヲ持ッテ居ルカト云フコトデアリマシタ、此質問ニ對シテハ、內地ニ現在出ル所ノ鐵鑛石ハ極メテ少イ、併ナガラ朝鮮、支那、揚子江沿岸滿洲其他ニ於テ鐵鑛石ガ供給サレツヽアル、殊ニ朝鮮及內地ニハマダ未發掘ノ鐵山モアルノデアル、殊ニ砂鐵ガ今問題トナッテ居ッテ、之ヲ十分研究シテ其效ヲ奏スルナラバ、我國ニ於テモ鐵ノ原料ニ乏シクナイト云フコトヲ考ヘル、「コークス」ニ付テモ、先ヅサノミ心配ニナラヌト考ヘル、斯ウ云フ答辯デアッタノデアリマス、次ハ滿洲ニ於テ本溪湖、鞍山站、是ハ我國ノ勢力範圍デ、日本人ガ製鐵ノ業ヲ營ンデ居ル、之ニ對シテハ、如何ナル處置ヲ政府ハ執ル積デアルカ、斯ウ云フ質問ガアッタノデアリマス、此質問ニ對シテハ、政府ハ相當ノ考慮ヲ加ヘテ此事業ヲ奬勵振作スル積リデアルト云フ答デアリマシタ、次ニ質問ノアリマシタノハ此法案ニ依レバ三萬五千噸以上、一日ニ付テ百噸、此設備ノアル工場ニ付テ政府ハ補助シヤウト云フノデアルガ、ソレダケニ達シナイ一萬噸以上ノ設備ノアル工場デ、今日現ニ休ンデ居ルモノガアル、之ニ對シテハ政府ハ此三萬五千噸以上ト云フ制限ヲ解イテ、同樣ニ補給スル考ハナイカト云フ質問デアリマシタガ、之ニ對シテ政府ノ當局者ハ、是ハ所謂大量生產デナケレバ經濟デ引合ハナイノデアル、副產物モ十分ニ取レナイノデアル、燃料モ餘計ニ要ルノデアル、故ニ左樣ナ小工場ハ經濟的ニ行カナイ、殊ニ銑鐵カラ鋼鐵マデ繼續的ニ之ヲ製造スルト云フ目的ニ副フコトハ出來ナイカラ、此三萬五千噸以上ト云フ制限ヲ解ク譯ニハ行カナイ、左樣ナ小工場ニハ同樣ノ補助ヲ與ヘルト云フコトハ出來ナイト云フ、斯ウ云フノガ政府ノ答辯デアッタノデアリマス、ソコデ結局今日午前ニ於テ採決ヲ致シタル所、此製鐵事業奬勵案及特別會計法、之ニ對シテハ不滿ノ點ガ隨分アル、併ナガラ時日切迫シテ居ル今日、之ヲ完全ニ修正スルノ遑ガナイカラ、不十分デアルガ第二善、第三善ノ策ヲ取ッテ之ヲ贊成スルト云フコトガ委員全會一致ノ意見デアリマシテ、此三案共全會一致ヲ以テ可決セラレタノデアリマス、ソレデ其所ニ修正デハアリマセヌガ、希望ガ二ツ附イテ居ルノデアルカト申シマストウ云フト、只今讀上ゲマスル二件デアリマス、第一ハ「滿洲ニ於ケル製鐵事業ハ我ガ製鐵事業ニ重要ナル關係アルヲ以テ政府ハ本法律案提出ノ主旨ニ鑑ミ是等ノ製鐵事業ニ對シ速ニ適當ノ助成方法ヲ實行スルコト」ニ、「第八條ニ依リ交付スル奬勵金ハ銑鋼一貫作業ノ場合ハ每一噸金六圓其ノ他ノ場合ハ每一噸五圓ト爲スコト、右希望ス」斯ウ云フ希望條件デアリマシタ、此希望條件ニ對スル政府ノ答辯ハ、政府トシテハ滿洲ニ於ケル製鐵事業ハ、我ガ製鐵事業ニ重要ナル關係ヲ有スルコトデアリマスカラ、十分考慮シマシテ御希望ニ副フヤウ努力致シマセウ、斯ウ云フノガ第一ニ對スル答デアリマス、第二ニ對シマシテハ、政府勅令ノ內容ハ曩ニ申上ゲタガ如ク六圓、五圓、三圓ヲ廢シテ五圓ニスルト云フコトハ、遺憾ナガラ考慮ノ餘地ハアリマセヌ、併シ本問題ハ申ス迄モナク、關稅ニ重大ノ關係ヲ有スルコ

トデアリマスカラ、關稅常設委員ガ設ケラレマシタ曉ハ、緩急ヲ圖リ、適當ノ處置ヲ講ズルノ機會ガアルト存ジマス、故ニ其時ハ十分考慮致シマス、斯ウ云フコトデアリマシタ、斯樣ナ答辯デアッテ、委員會ハ矢張全會一致ヲ以テ此二ツノ希望ヲ可決シタノデアリマス、以上ガ本問題ニ付テノ委員會ノ經過及結果デアリマス、此段御報告ニ及ビマス

武藤山治君ハ反對、岩切重雄君ハ贊成ノ演說ヲ爲ス

武藤山治君ノ反對演說

私ハ只今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ製鐵業奬勵改正法律案及其特別會計法案ニ對シマシテ、反對ノ意見ヲ述ベル者デアリマス、第一ニ私ガ玆ニ皆樣ノ御考慮ヲ仰ガントスルノハ、此法律案ノ中ニ於キマシテ、從來ノ特別會計法律案ガ實ニ重大ナル意義ヲ含ンデ居ルト云フ點デアリマス、此法律案ガ先般議場ニ提案セラレタ時ニ、濱口藏相ハ此特別會計ト獨立會計ノ其相違ニ付キマシテ、無雜作ニ御答ニナッタノデアリマス、併ナガラ特別會計ヲ獨立會計ニ移スト云フコトハ、憲法ノ精神ニ違反スルノミナラズ、會計組織ノ根本義ニ反對スルモノデアリマス、元來濱口藏相ハ會計組織ナルモノ、其一アッテ二ナキモノタルコトヲ、御認メニナッテ居ラヌヤウデアリマス、之ヲ民間ノ銀行會社ニ於ケル場合ニ付テ御說明ヲ申上ゲマスレバ、民間ノ銀行會社ニ於キマシテ、如何ナル計算デモ總勘定元帳ニ關聯シナイモノハ、一ツモナイノデアリマス、若シ民間ニ於ケル銀行會社ノ重役ガ、總勘定元帳ニ關聯シナイ獨立ノ帳簿ヲ以チマシテ、之ニ依テ勝手ニ出納ヲ致シマスルナラバ、是ハ商法ニ依リマシテ株主ヨリ訴ヘラレタル時ハ、直ニ背任罪ニ問ハルルノデアリマス、然ルニ今回政府ヨリ御提出ニナリマシタ、此製鐵所ノ特別會計法ヲ獨立會計ニ移サレルト云フコトハ、民間ニ於テハ商法ニ依テ背任罪ニ問ハレルコトヲ、政府自ラ爲サルノデアリマス、故ニ此問題ハ實ニ我ガ憲法ノ上ニ於テ、會計組織ノ上ニ於テ重大ナル意義ヲ含ンデ居ルモノデアリマス、我國ノ會計組織ニ於テ、特別會計ノ數ハ非常ニ多イト云フコトニ付テ私ハ敢テ之ヲ非難スル者デアリマセヌ、併ナガラ特別會計ナルモノヲ更ニ獨立會計ニ移シテ、一般會計、卽チ民間ノ銀行會社又ハ商店ノ總勘定元帳ト全ク關聯ヲシナイ、獨立セル所ノ會計組織ヲ執ラレルコトハ、私ハ濱口藏相ガ從來吾々ガ敬意ヲ表シテ居ッタ所ヲ將ニ失ハレントスルモノデアリマス、我國ニ於ケル特別會計ノ中ニ於テ、從來獨立會計ニ移サレタモノハ唯一ツアリマス、ソレハ卽チ鐵道ノ會計デアリマス、鐵道ノ會計ヲ獨立會計ニ移サレタ爲ニ鐵道會計ナルモノハ紊亂シ、是ガ黨勢擴張ノ具ニ供セラレ、近クハ是ガ爲ニ鐵道大臣ガ苦メラレル迄ニ至ッタノハ、此鐵道會計ナルモノヲ特別會計ヨリ獨立會計ニ移シ、民間ナラバ背任罪ニ問ハレルヤウナ會計組織ヲ執ラレタガ爲デアリマス、然ルニ現內閣ニ於テ行政財政ヲ整理ヲスル、綱紀ヲ肅正スルト唱ヘテ居リナガラ、此鐵道會計ヲ、獨立會計ニ引直スコトスラモ敢テセズシテ、更ニ製鐵所ノ特別會計ヲ又獨立會計ニ之ヲ移サルヽガ如キ態度ヲ執レルニ至テハ、吾々ガ現內閣ニ向ッテ拂フ尊敬ヲ失ハザルヲ得マセヌ、本日濱口藏相ガ御出席ニナラナイノハ御病氣ノ爲デアリマスガ、私ハ藏相ノ御意見ヲ伺ヘヌコトヲ遺憾ニ存ズル者デアリマス、實ニ此特別會計ヲ廢シテ、一般會計ト全ク關聯シナイ所ノ獨立會計ヲ設ケラレルト云フコトハ、是ヨリ會計ノ紊亂ガ始マルモノデアルノミナラズ、會計ノ一アッテ二ナキ根本義ノ紊ルモノデ、實ニ重要ナル、私ハ由々シイ大問題ト思フノデアリマス、先程濱口藏相ノ御答ニナッタ所ニ依リマスト云フト、一般會計トノ連鎖ハ從前ノ如クナラヌヤウニスルケレドモ、元來會計ノ整理トカ、或ハ紊亂ト云フコトハ、決シテ其會計ガ獨立會計デアルト云フ故デハナイ、一ニ之ヲ扱フ所ノ人ニ存スルト云フコトハ、濱口藏相ノ說明サレタノデアリマス、實ニ財政ノ局ニ當ラレル所ノ、大藏大臣ノ、斯ノ如キ御辯明ハ甚ダ驚カザルヲ得マセヌ、世ノ中ニ於テ、何事モ人ニアルト云フコトハ申スマデモアリマセヌ、併ナガラ如何ニ善良ナル人ガ其局ニ當ッテモ、其會計組織ガ其根本義ヲ誤マルトキハ極メテ危險ナルモノガアリマス、且ツ秩序アル會計組織ノ極メテ重大ナル所以ハ、何人ガ其局ニ當ッテモ必要デアリマス、會計組織ハ如何ナルモノデモ構ハヌ、一般會計ニ關聯セヌ、獨立會計ヲ拵ヘテモ其人サヘ宜シケレバ宜イト云フヤウナ答辯ヲ與ヘラレルト云

フコトハ、實ニ奇怪千萬ナル御答辯デアルト思フノデアリマス、故ニ私ハ諸君ニ十分ニ此特別會計ヲ獨立會計ニ移スコトノ許スベキモノデナイコトヲ御考慮ヲ仰ギタイノデアリマス、若シ諸君ガ輕ミシク斯ノ如キ法案ヲ御通過ニナリマスルナラバ、最早民間ニ於ケル銀行會社デ、商法ニ依テ政府ノ一般會計ト均シイ總勘定元帳ニ關係ノ無イヤウナ獨立ノ帳簿ヲ重役ガ拵ヘテモ、之ヲ罪ニ問フト云フコトハ出來ヌト云フコトニナリマス、民間ニ於ヲ罪ニ問ハルヽコトヲ、政治ノ局ニ當ッテ居ル者ハ之ヲ爲シテ宜イト云フ理由ハナイノデアリマス、此點ハ吾ゝ立法ノ府ニ在ル者ハ最モ注意シナケレバナラヌ點デアリマス、故ニ私ハドウカ皆樣ガ此特別會計法案ヲ獨立會計ニ移サレルト云フ新ナル政府提案ノ製鐵所ノ特別會計法案ハ、其名ハ特別ト云フ字ガ使ッテアリマスケレドモ、是ハ卽チ特別會計デナクシテ、全ク一般會計ニ關聯シナイ、民間デ申サバ總勘定元帳ニ全ク關係ノ無イ、下世話デ申セバ女房ガ臍繰勘定ヲ持ット云フノト同ジ事デアリマス、一家デ主人ガ家計簿ニ載セナイ臍繰勘定ヲスルコトヲ女房ニ許スト同一ノ法律案デアリマス、之ヲ私ガ反對スルノハ此製鐵業奬勵改正法律案デアリマス、次ニ云フコトヲ敢テ皆樣ニ申上ゲタイノデアリマス、一體日本ノ製鐵業ヲ保護スル其理由トシテ、政府ノ常ニ唱ヘラレル所ハ、製鐵業ノ基本工業デアル、斯ウ云フ點ニ在リマス、基本工業トハ云フノハ一體ドウ云フコトデアリマスカ、基本工業ト云フコトハ、日本ノ國ニ於テ奬勵スレバ十分有利ニ發達シ得ルモノニシテ初メテ基本工業デアルト云ウテ、食糧品デアルカラト云ッテ、岩ノ上ニ耕シテ米ヲ作ラウト云フヤウナ業ニ奬勵金ヲ與ヘルト云フコトハ、國家經濟ノ上ニ是ヨリ不利ハナイコトハ申スマデモアリマセヌ、日本ノ製鐵業ハ恰モ米ヲ岩ノ上ニ耕シテ作ラウト云フ仕事デアッテ、日本ノヤウナ國ニ有利ニ製鐵業ナルモノガ發達シ得ルモノデハナイノデアリマス、故ニ斯ノ如キ不經濟ナル此製鐵業ヲ基本工業デアルト云ウテ、漫ニ之ヲ保護奬勵セラレルト云フコトハ、過チ是ヨリ甚シキハナイト思フノデアリマス、殊ニ私ガ諸君ニ申上ゲタイノハ商工大臣ノ御說明ニ依リマスト、日本ノ今日ノ製鐵業ハ保護スル必要ハナイト云フコトヲ仰シャッテ居ルト同一ト思フノデス、先頃當議場デ片岡商工大臣ガ御答ニ

ナリマシタ中ニ、枝光製鐵所ト云フモノハ非常ニ儲カッテ居ル、大變儲カッテ今日マデノ金利ノ計算ヲシナイナラバ、既ニ資本金ダケ全部儲ケテシマッテ只ニナッテ居ル、尙ホ其上千四五百萬圓ノ金ヲ持ッテ居ル、斯ウ云フコトヲ仰シャッタノデアリマス、然ラバ何ガ故ニ製鐵業ヲ保護シナケレバナラヌカ、是ハ卽チ民間ニ於ケル所ノ製鐵業者ガ戰爭ノ好景氣ノ時ニ、濫ニ製鐵業ヲ起シテ今日困難ヲシテ居ルガ爲ニ、之ヲ奬勵シヤウト云フノデアリマス、如何ナル事業デモ困難シナイ事業ハアリマセヌ、困難シテ居ルカラ國家ガ助ケネバナラヌ、斯ウ云フ事デアリマシタナラバ、國家ハ到底其費用ニ堪ヘヌノデアリマス、今日ノ製鐵業ナルモノハ、私ハ到底日本デハ有利ニハ發達シ得ヌト考ヘマスケレドモ、現ニ商工大臣ノ仰シャル通リ、枝光製鐵所ト云フモノハ戰時中ニ非常ニ儲ケテ、資本金ハ只ニナッテ、尙ホ千四五百萬圓モ金ガ餘ッテ居ルトスレバ、民間ノ製鐵業者モ今日困難シテ居ルガ、十分ニ整理ヲシ、經營ニ努メテ居ッタナラバ、今後十數年ノ間ニハ枝光製鐵所ト同ジヤウニ、或ハ資本金ガ只ニナラヌマデモ、相當ノ利益ヲ擧得ル時ガ來ルト思フノデス、現ニ大阪ニ於ケル一製鐵會社ハ、十分其整理ヲ遂ゲ、資本金ヲ切下ゲ、今日一割ノ配當ヲシテ居ル、唯今日ノ大製鐵業者バカリガ濫ニ政府ノ保護救濟ヲ望ンデ、今日マデソレノミニ力ヲ入レテ、サウシテ資本金ヲ切下ゲナイ、少シモ整理ニ努メナイ、經營ニ努力シナイ、而シテ基本工業デアルト云フヤウナ理由ナキ主張ノ下ニ、吾ゝ國民ノ懷ヨリ納メル所ノ租稅ノ中ヨリ奬勵金ヲ受ケヤウトスルヤウナ、サウ云フ人ゝノ手ニ依テ假ニ此製鐵業ガ有利ニ發達シ得ルモノトシテモ、此事業ノ發達ヲ望ムコトハ出來ヌト思フノデアリマス、故ニ今日吾ゝガ是等ノ製鐵業者ニ與ヘル所ノ敎訓ハ、彼等ヲシテ極度ニ苦シマシメヨ、彼等ヲシテ自ラ整理セシメヨ、而シテ初メテ此事業ト云フモノハ完成スルモノデアル、如何ナル事業ト雖モ困難セズシテ成功シタ事業ハ、世界ノ經濟史ニ於テ一ツモナイノデアリマス、然ルニ今日ノ日本ノ製鐵業者ノ主張ヲ聞キマスト、自ラ整理セズシテ國家ノ保護救濟ヲ求メテ居ルノデアリマス、而シテ是等ノ製鐵業ニ關係セル一部ノ大資本家ノ戰時好景氣ノ時ニ製鐵業ヲ起シタ、製鐵會社ヲ起シタ時ノ言ヒ分ハドウデアッタカ、吾ゝハ國家ノ爲メ眼前ニ利益ノ無イ仕事モヤラナケレバナラナイ、所謂奉公ノ精神ヲ以テ此製鐵業ヲ起スト

公言シ、斯ル事業ナルガ故ニ政府ニ奬勵保護ヲ求メテ現行法ガ行ハレ、ソレ〴〵保護奬勵ヲ受ケタ故ニ、今日アルハ固ヨリ覺悟デナケレバナラヌ、然ルニ資本金ヲ切下ゲモセズ、一ツモ整理ヲ爲サズシテ、基本工業デアルト云フヤウナ名ニ縋ッテ、サウシテ此國家ノ救濟ヲ仰ガフ、保護奬勵ヲ受ケヤウトスルト云フヤウナ心デハ、到底私ハ斯ウ云フ心得ノ人ニニ依テ製鐵業ガ發達スルモノデナイト思フノデアリマス、唯一ツノ問題ハ日本國內ニ製鐵業ノ發達ガ必要デアルトシテ、常ニ政治家ガ迷フノハ、詰リ是ハ軍事ニ關係シテ居ル、鐵ガナケレバ戰時ノトキ困ルデハナイカト云フヤウナ考カラデアリマス、併ナガラ私ハ此處ニ明細ナル統計ヲ持ッテ居リマセヌケレドモ、今日マデ此製鐵業ヲ吾〻ガ奬勵シタ所ノ多クノ金額、今後此奬勵法ニ依テ與フル所ノ金額ダケ、外國ヨリ毎年陸海軍省ガ鐵ヲ買ッテ、公園ノ中ニ唯轉ガシテ置ク方ガ國家經濟ノ上ニ利益ダト思フ、サウシテ置ク方ガ國家經濟ノ上カラ云ヘバ、他ノ工業ノ上ニ妨害ヲ及ボサヌ利益ガアリマス、此製鐵業者ヲ保護スル爲ニ、或ル一部ノ製鐵業ガ希望スルヤウニ關稅ヲ引上ゲタリ色〻ナ事ヲスレバ鐵ガ高クナル、高イ鐵デ拵ヘル所ノ機械ハ高クナル、高イ機械ヲ使フ所ノ一般工業ナルモノハ、海外ニ向ッテ競爭力ヲ弱メラレルコトハ經濟學者ヲ待タズシテ明カナ事デアリマス、故ニ私ハ今日多クノ製鐵業者ガ、戰時好景氣ノ際ニ中ニハ權利株デ儲ケヤウトシテ、而シテ色〻ナ會社ヲ拵ヘ、其後困ルト云ウテ今日ノ財政困難ノ中カラ、更ニ奬勵金ダケ鐵ヲ買ッテ、公園ニ轉ガシテ置ク方ガナ、サウ云フ製鐵業者ニ奬勵金ヲ與ヘルヨリモ、奬勵金ヲ受ケヤウトシテ、而シテ色〻軍事上ニモ差支ナク、一般工業ノ發達ヲ妨ゲズシテ、寧ロ國家ノ爲ニナルト思フノデアリマス、是等申上ゲマシタ理由ニ依リマシテ、私ハ此二法案ニ向ッテ反對ノ意ヲ表スル者デアリマス

岩切重雄君ノ贊成演說

只今委員長ヨリ報告ニナリマシタ製鐵所特別會計法律案竝ニ製鐵業奬勵法及其他ノ一件ニ對シマシテ、私ハ贊成ノ意思ヲ簡單ニ表示スル者デアリマス、只今武藤山治氏ヨリ製鐵所特別會計法案竝ニ製鐵業奬勵法案ニ對シマシテ反對ノ御意思ガ表明サレタノデアリマスガ、私ハ本案ヲ贊成致シマスル立場ヨリ致シマシテ、簡單ニ只今御反對ノ點ニ對シテ贊成ノ意味ヲ表明シテ見タイト考ヘマス、先ヅ吾〻ガ一括致シマシテ製鐵業ニ關係ノアル此法案ヲ贊成スルニ至リマシタ理由ノ根據ハ、元々吾〻ノ意見ト致シマシテハ、關稅法ト連絡ノアル是等ノ法律案ヲ極メテ完全ナルモノデアルトハ考ヘテ居ナイノデアリマス、吾〻ノ根本ノ意見ハ自ラ他ニ在ルノデアリマス、只今武藤君ノ御演說ノ趣旨トハ更ニ異ッタル意見デハアリマスガ、寧ロ完全ナル關稅法ニ依テ之ヲ行ッテ行クコトガ、ヨリ以上適切ナル問題デアルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマスケレドモ、偶印度トノ間ニ特殊ナル外交關係ヲ惹起シタ爲ニ、政府トシテハ次善ノ策トシテ是等ノ案ヲ提出サレテ居ルノデアル、其意見ヲ吾〻モ此際妥當ナリト思ヒマシテ、將來ニ於テハ更ニ徹底セル所ノ製鐵國策ヲ考ヘルト云フコトヲ吾〻ノ條件ノ心持ト致シマシテ、是等ノ策ニ贊成ヲ致シテ居ルノデアリマス、只今製鐵所法案ノ特別會計法ガ獨立會計トシテ從來ノ制度ヨリ改メラレルト云フコトハ、之ヲ民間ノ會社ニ譬ヘレバ、總勘定ノ元帳カラ全然獨立スルモノデアッテ、卽チ民間デスレバ背任罪ニ等シキ行爲モ起ッテ來ルト云フヤウナ御意見モアッタノデアリマス、吾〻ハ他ノ豫算ノ項目ト異ナリマシテ、鐵ノ如キ民間ノ事業トシテ經營サルベキ所ノ性質ノモノガ、國家財政ノ豫算ノ中ヘ編込マレテアルト云フコトガ、卽チ是等ノ不自然ナ問題ヲ惹起シテ來ル基デアッテ、或ハ之ヲ一擲シテ民間ノ事業ニ移スト云フヤウナ方法ヲ執ルナラバ、只今ノ武藤君ノヤウナ御心配モ無イノデハナイカト思ヒマスガ、併ナガラ少クトモ現在ノ狀況トシテハ、政府ノ特別會計法トシテ此製鐵事業ト云フモノヲ維持シナケレバナラナイ以上ハ、他ノ法理論ハ別トシテ、已ムヲ得ザル是ガ道行キデハナイカト思フノデアリマス、寧ロ私共ハ一般會計ノ連鎖ガアリマシテ、其爲ニ一般會計ヨリ製鐵所ニ多額ノ金ガ繰入レラレルト云フコトガ寧ロ宜シクナイノデアッテ、願クバ製鐵所ガ獨立ノ會計ヲ維持シ得ル程度ニ發達シテ、一面ニハ民間ヲ指導致シテ、獨立ニヤッテ行ケルヤウナ時期ノ來ランコトヲ希望シ、又サウ云フ時期ニ達スレバ態テ民間ニモ之ヲ移サルベキ所ノ道程ニモナルト云フコトヲ豫テ考ヘテ居ルノデアリマス、卽チ製鐵所ハ從來損失ガ非常ニ多カッタノデアルケレドモ、

明治四十五六年以來、大正八九年ノ好況時代ニ際會シテ、今日デハ先程御話モアリマシタ如ク、製鐵所トシテハ相當ナ利益ヲ擧ゲマシテ、今日デハ獨立ノ徑路ヲ辿ルコトガ出來ル狀態ニナッテ來タノデアリマス、然ラバ吾々ハ寧ロ此際多少ノ立法上ノ疑問ハアリトシマシテモ、最善ノ途デアル實際政治ノ立場カラ、製鐵所ト云フモノヲ獨立會計ニ移シテ、政府ノ原案ヲ認ムルト云フコトガ此際適當デアルト信ジマシタガ故ニ、吾々ハ之ニ贊成ノ意ヲ表シタノデアリマス、第二ノ製鐵業法案トハ思ッテ居ナイ、吾々ハ近ク開設サルベキ所ノ關稅常設委員會ニ於テ更ニ審議致シマシテ、此問題ハ適當ニ解決ヲ付ケタイト云フコトハ、先般關稅法ガ議場ニ上程サレマシタ際ニ、吾々ハ希望條件トシテ之ヲ述ベテ置イタ次第デアリマスガ、是等ト最モ密接ナル關係ノアル卽チ關稅ニ於テハ、鋼鐵ニ對スル關稅ヲ以テ保護ヲ與ヘ、銑鐵ニ對シテハ此際奬勵法案ト云フ別途ノ方法ニ依之ニ吾々ハ贊成ヲ致シテ居ル次第デアリマス、此政府ノ精神ヲ此際認メマシテ、完全ナル解決ハ將來ニ殘シテ、此際爲スト云フコトニ求メズシテ、徒ニ政府ノ保護ニ依テ彼等ヲ指導スルト云フコトハ宜シクナイト云フヤウナ御意見ハ、私モ極メテ贊成デアリマス、成ベク民間ノ事業ハ獨立サシテ、政府ノ力ヲ特ンデ仕事ヲスルト云フヤウナコトハ、產業開發ノ上カラ極メテ宜シクナイ問題デアルト考ヘマスルガ、只今世界ノ狀況カラ考ヘマシテモ、到底之ヲ相當ニ保護スルコトナクシテハ、內地ノ鐵業ト云フモノハ發達スル見込ハナイト此ハ考ヘテ居ルノデアリマス、根本ニ於テ斯ノ如キ製鐵業ハ起ラナクテモ宜シイ、外國ノ安イ品物ヲ以テ內地ハ之ヲ補充スベシト云フ議論ハ、自ラ別途ノ問題デアリマスケレドモ、鐵ヲ保護シテ製鐵產業ヲ內地ニ起スト云フコトヲ眼目トスル以上ハ、ドウシテモ此程度ノ奬勵、或ハ是レ以上ノ保護ヲ以テ、暫ク我ガ製鐵業ト云フモノヽ指導發達ヲ促スヨリ外ニ途ハナイト思フノデアリマス、亞米利加ノ如キモ非常ナ重キ所ノ保護ヲ一時與ヘテ、漸次ソレヲ低下シテ、遂ニハ無稅ノ域ニマデ指導シテ、今日デハ鐵ノ國策ト云フモノガ立ッテ居ル、私ハ寧ロ日本ノ製鐵業モ今少シク徹底

サセテ、或ハ三年五年ノ後ニハ、無稅ノ域ニマデ導イテ行ク保護奬勵法ガ、政府ニ願ヒタイト思ッタ位デアルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ、特別會計ハ吾々ハ此際兎ニ角已ムヲ得ザルモノトシテ之ヲ認メマス、製鐵業奬勵法ハ完全ナル問題デハナイケレドモ、次善ノ案トシテ其全キハ將來ニ之ヲ求メテ、此際贊成シタイト云フノガ吾々ノ意見デアリマス、以上簡單ニ贊成ノ理由ヲ述ベマシテ贊成ノ意ヲ表シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第三讀會ヲ開キ原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ三月三十一日法律第四十九號ヲ以テ公布セラル

七六　土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律案

土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ハ町村長ニ之ヲ適用ス

附　則

本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ大正十五年三月十一日本院ニ提出ス三月十八日本案ハ政府提出明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法中改正法律案（本項第一（八二）、政府提出大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法中改正法律案（本項第一（八三）、政府提出衆議院議員ノ選擧權ニ關スル法律案（本項第一（八四）、政府提出北海道會議員及府縣會議員ノ選擧權及被選擧權竝市町村會議員ノ公民權ニ關ス

ル法律案（本項第一（八五））ノ四案ト同種議案ナルニ依リ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ俵政府委員ハ提案ノ趣旨辯明ヲ爲ス次ヲ委員ノ選擧ハ（八二）乃至（八五）ノ四案ト一括シテ議長指名（十八名）ノ委員ニ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ三月二十二日（八二）乃至（八五）ノ四案ト一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ六月二十四日法律第七十八號ヲ以テ公布セラル（委員會ノ經過ハ本項第一（八二）參看）

七七　都市計畫法中改正法律案

都市計畫法中左ノ通改正ス

第八條第一項中「國稅營業稅割」ヲ「營業收益稅割」ニ、「國稅營業稅」ヲ「營業收益稅」ニ改メ第四號ヲ第五號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四　特別地稅　北海道及其ノ市町村ニ在リテハ地價千分ノ四以內、府縣及其ノ市町村ニ在リテハ地價千分五以內

第八條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

營業收益稅割ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲ササルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス

特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租割額ノ當該田畑ノ地價ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則

本案ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ營業收益稅割ニ關スル改正規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セラルル營業稅額ハ大正十五年度分國稅營業稅割ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

七八　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ伴フ淸算金及補償金ニ關スル法律案

第一條　本法ニ於テ淸算金ト稱スルハ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ伴フ淸算金及補償金ニ關スル法律案於テ耕地整理法第三十條ノ規定ニ依リ徵收シ又ハ交付スヘキ金錢ヲ謂フ

第二條　淸算金ヲ納付スヘキ義務アル者ニ對シ同一土地區劃整理施行地區內ニ於ケル土地ニ關スル權利ニ付特別都市計畫法第八條ノ補償金ヲ交付スヘキ場合ニ於テハ整理施行者ハ徵收スヘキ淸算金ニ之ヲ充ツルコトヲ得但シ其ノ補償金カ耕地整理法第二十五條ノ規定ニ依リ供託

スヘキモノナルトキハ其ノ補償金ヲ交付スヘキ土地ニ關スル權利ニ付徴收スヘキ清算金ニノミ之ヲ充ツルコトヲ得

第三條　整理施行者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ徴收スヘキ清算金ニ付利子ヲ附シ三年ヲ超エサル期間ニ於テ分納スルコトヲ認ムルコトヲ得

前項ノ利子ハ之ヲ清算金ト看做ス

第四條　整理施行者ハ清算金交付ノ爲必要アルトキハ耕地整理法第三十條ノ規定ニ拘ラス他ノ土地區劃整理施行地區ニ於テ徴收シタル清算金ヲ以テ繰替支辨シ又整理施行者カ行政官廳ナルトキハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ノ立替金ヲ以テ支辨スルコトヲ得

整理施行者前項ノ規定ニ依リ繰替又ハ立替支辨シタルトキハ徴收シタル清算金ヲ戻入シ又ハ返還スヘシ

第五條　清算金ニ剩餘ヲ生シタルトキハ其ノ剩餘金ハ整理施行者カ行政官廳ナルトキハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ニ歸屬ス

第六條　土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徴收セラレ又ハ交付セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ヲ讓渡シタルトキハ當事者雙方連署ヲ以テ遲滯ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲ササル場合ニ於テハ清算金ノ徴收又ハ交付ニ關シテハ其ノ讓渡ハ之ヲ以テ整理施行者ニ對抗スルコトヲ得ス

土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徴收セラレ又ハ交付セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ノ分割讓渡ニ付第一項ノ届出アリタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク各當事者ヨリ徴收スヘキ清算金額又ハ各當事者ニ交付スヘキ清算金額ヲ通知スヘシ

第七條　前條ノ規定ハ土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徴收セラレ又ハ交付セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ノ消滅シタル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右兩案ハ孰レモ大正十五年三月十三日本院ニ提出ス三月十八日兩案相關聯セル議案ナルニ依リ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ俵政府委員ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

都市計畫法中改正法律案ノ提案ノ理由ハ、營業稅法廢止法律及營業收益稅法ノ制定ニ伴ヒマシテ、都市計畫特別稅タル國稅、營業稅割ニ關スル規定ノ改正ヲ爲スノ必要ガアリマス、又地租條例ノ改正ニ依リマシテ、地價二百圓以下ノ田畑ヲ有スル自作農ヲ免稅スルノ結果、都市計畫特別稅ノ地租割ニ減收ヲ見マスルガ爲ニ、特別地稅ヲ設定スル必要ガアルノデアリマス、ソレ故ニ本案ヲ提出致シマシタ譯デアリマス、第二十ノ法案ニ付キマシテ、御說明申上ゲマス、東京及橫濱ノ復興計畫ニ於ケル土地區劃整理ノ施行ニ當ッテハ、所謂換地ハ從來ノ土地ヲ標準トシテ、之ヲ

交付シマシテ、換地ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハザル場合ニ、初メテ金錢ヲ以テ清算シナケレバナラヌコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、而シテ金錢ヲ以テ清算スル、其清算ニ付キマシテハ、今次ノ區劃整理ニ於テハ努メテ之ヲ少カラシメル方針デアリマスルケレドモガ、實施上ハ尙ホ已ムヲ得ズシテ換地處分ニ伴ヒ、清算金ノ徵收又ハ交付ヲ要スベキモノガ相當ニ上リマス見込デアリマス、而シテ清算金ノ交付ハ、卽時ニ爲スノ豫定デアリマスルケレドモガ、其徵收ニ付キマシテハ、金額如何ニ依リテハ、大震火災ノ創痍尙ホ癒エザル關係者ヨリ、一時ニ之ヲ徵收スルコトハ頗ル困難ナル事情ガアルノデアリマスガ故ニ、市民ノ經濟ヲ考慮シ、玆ニ特別ノ立法ヲ致シマシテ、清算金ノ徵收ニ付キ、整理施行者ヲシテ一定期間ノ猶豫ヲ求ムルヲ得セシメ、以テ市民ノ困難ヲ緩和スルコトヲ期スルト共ニ、其交付ニ付キ必要ガアル時ニハ、第一特別都市計畫法第八條ニ依テ交付スベキ補償金ヲ以テ、徵收スベキ清算金ニ當テルノ途ヲ開キマスシ、第二ニハ國又ハ公共團體ノ經費ヲ以テ立替支辨スルノ方法ヲ設ケテ、以テ區劃整理ノ圓滑ナル施行ヲ圖ラント致シマスルノデアリマス、是ガ本案ヲ提出スル所以デアリマシテ、尙ホ本法ノ施行ニ必要ナル經費ハ、別途追加豫算ヲ以テ之ヲ提出致シマス次第デアリマス、就キマシテハ速ニ御審査ノ上デ御協贊アランコトヲ希望致シマス

近藤達兒君ハ質疑ヲ爲シ淸野政府委員之ニ應答ス

近藤達兒君ノ質疑

此帝都復興ノ問題ハ、申ス迄モナク東京横濱ノ問題デハアリマスルガ、國力ヲ擧ゲテ國民ハ一日モ早ク其達成ヲ望ンデ居ルノデアリマス、然ルニ今日マデ遲々トシテ其事業ノ進行セザルコトハ、市民ハ勿論國民全般ノ遺憾ト致シテ居ル所デアリマス、現總理大臣兼內務大臣タル若槻氏ハ熱心ナル此速成論者デアリ、又當局ノ方ニモ熱心ニ其事業ニ從事致シテ居リマスルガ、少シモ其成績ノ見ルベキモノガナイノハ、洵ニ遺憾至極デアルノデアリマス、此成績ノ擧ラザルコトハ果シテ何ニ由ルカ、何等カ其所ニ原因ノ存スルモノガナケレバナラヌト思フノデアリマス、事ノ困難アルノデハナイカ、若クハ復興局職制ノ上ニ於テ缺陷ガアルノデハナイカ、或ハ又之ニ要スル所ノ資金ノ不足ニ基クノデハナイカト云フヤウナ方面カラ考ヘテ見マスルガ、要スルニ此問題ハ、一ハ當局ノ怠慢デアルト云フコトヲ申シテ差支ナカラウト思フノデアリマス、過去二年半ノ實績ニ徵シマシテモ、當局ノ聲明シタル事柄ハ屢裏切ラレマシテ、東京市民竝ニ橫濱市民ノ苦痛困憊ハ益增大シテ參ッテ居ルノデアリマス、一例ヲ擧ゲテ申シマスレバ、當局ニ於キマシテ、例ヘバ何年何月マデニ此地區ノ換地、移轉命令ヲ完了スルト云フヤウナコトヲ言明致シマスカラ、市民ハ之ニ一種ノ期待ヲ以テ、或ハ建築ヲ差控ヘ、或ハ營業ヲ差控ヘルト云フヤウナ事ヲ致シテ居ルノデアリマス、然ルニ其事柄ガ、一年乃至ハ三年遲ルヽト云フヤウナコトニ相成リマシテ、市民ハ殆カラザル損害ヲ被ッテ居ルノデアリマス、東京市民ハ此國家的ノ大事業ニ對シマシテハ、或ハ農村振興、若クハ產業ノ發展等ニ費スベキ所ノ國費ヲ擧ゲテ、東京橫濱ノ爲ニ投ジ下サルト云フコトヲ、深ク感謝シテ居ルモノデアリマス、ソレ故ニ此問題ニ對シテハ、相當ノ理解ヲ持ッテ居ルノデアリマスガ、當局ノ仕事ガ遲ルヽガ爲ニ、或ハ此仕事ガ達成シナイデハナイカ、若クハ中止サレルノデハナイカト云フヤウナ疑ヲ起ス市民モ段々出テ參ッタノデアリマス、然ルニ又斯ル時ニ乘ジマシテ、虛僞ノ事實ニ立脚致シマシテ、或ハ公開演說ヲ爲シ、或ハ印刷物ヲ配布シ、區劃整理ノ反對ヲ叫ビ、甚シキニ至ッテハ此問題ヲ選擧ノ具ニ供スルニ至ッテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ此事業ガ長引ケバ長引ク程、斯ノ如キ障碍ガ生ジテ參ル、又昨今ハ區劃整理委員會ナルモノガ設ケラレマシテ、此委員會ヲ開會セズシテ、此事業ノ進捗ヲ妨グルト云フヤウナ傾向ガ、實際ニ見得ラレルヤウニナッテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ有樣デアリマスカラ、此事業ガ遲ルレバ遲ルヽダケ市民ノ損害モ多ク、又事業ノ障碍モ從ッテ多ク出テ參ルノデアリマス、ソレ故ニ當局ニ於カレマシテハ、是等ノ事ニ留意セラレ、斯ノ如キ虛構ノ事實ニ立脚シ、或ハ演說ニ、或ハ印刷物ニ、若クハ整理委員會ガ故ラニ開會セズシテ長引クト云フ

ヤウナ事實ニ對シマシテハ、如何ナル方法ヲ執ラル、御考デアリマスカ、其邊ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、又此區劃整理ノ事業ガ前申シタ如ク年々遲レテ參ッテ居リマスガ故ニ、豫算ト仕事トハ一緒ニ參ラヌト云フヤウナ形ニナッテ居ルノデアリマスカラ、事業ノ大體及豫算ノ金額ガ何程使用サレテ居ルカ、其邊ノ點ヲ御伺イテ居ルノデアリマスガ、本年度ハ既ニ年度末ニ近付致シタイト思フノデアリマス、ソレカラ只今ノ清算金ノ問題デアリマスガ、此問題ハ區劃整理ヲ行フニ付キマシテハ、市民ノ特ニ知ラント欲スル所ノ問題デアリマス、私ノ聞ク所ニ依リマスレバ、清算金ノ算定ハ豫メ路線價ナルモノヲ算定致シテ置キマシテ、之ニ依テ計算ヲ致スト云フコトニ承知致シテ居リマスルガ、其路線價ナルモノ、算出ノ方法ハ東京市、東京府、東京府農工銀行、或ハ勸業銀行、若クハ興業銀行等ノ算定ヲ基礎ト致シマシテ、而モ震災後ニ於ケル土地ノ價格ノ最モ暴落シタル時ヲ根據トシテ路線價ナルモノヲ算出致シテ居ルヤウニ記憶致シテ居リマス、而シテ又一方區劃整理後ノ清算金ハ、區劃整理後土地ノ價格ガ增大スルモノト看做シマシテ、高イ數字ヲ見積リマシテ清算スルト云フコトニナッテ居リマスカラ、清算金ヲ取ラレル場合ニ當リマシテハ、高イ根據ニ基ク所ノ算出方法ニ依テ清算金ヲ收受セラレ、補償金ヲ貰フ場合ニハ少イ所ノ路線價ニ依テ算出セラレタル少額ナル補償金ヲ貰フヤウナ關係ニナリハセヌカト云フコトヲ、頗ル憂ヘテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ是等ノ點ニ對シマシテモ、昨今市民ノ間ニ頗ル疑惑ヲ懷ク人ガ多クナッタノデアリマス、只今又內務次官ノ御說明ニ依リマスレバ、清算金ノ支拂方法ハ、震災後大ナル打擊ヲ被ッテ居ル東京、橫濱市民デアルガ故ニ、三年間ノ猶豫ヲ致スノデアルト云フコトヲ申サレマシタガ、東京市民竝ニ橫濱市民ノ震災後ニ於ケル經濟狀態ハ、恐ラクハ政府當局ノ豫想シ能ハザル程疲弊シテ居ルノデアリマス、然ルニ僅ニ三年間ノ期限ヲ以テ之ヲ完納セシムルト云フコトハ、頗ル慘酷ナル致方デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、加之、之ニ對シテ利子ヲ附スルニ至リマシテハ、恰モ高利貸ト同一ナル方法ヲ御執リニナルヤウニ私ハ考ヘラレルノデアリマス、東京市ニ於ケル道路ノ利益負擔金、若クハ下水ノ利益負擔金ノ如キハ、十箇年ノ年

賦ニナッテ居ルノデアリマスルカラ、政府ニ於キマシテモ是等ノ點ニ鑑ミテ、之ヲ十箇年ノ年賦金ニスルト云フ御考ハナイモノデアリマセウカ、其邊ヲ御伺致シタイト思フノデアリマスガ、第五條ニハ、清算金ニ剩餘ヲ生ジタル場合ヲ規定シテアルノデアリマス、此清算金ニ剩餘ヲ生ジタル場合ハ、行政廳又ハ公共團體ニ歸屬ス、斯樣ナコトニ規定致シテ居リマスガ、今日マデ政府當局ノ言明スル所ニ依リマスレバ、區劃整理ヲ行フベキ一地區內ニ於ケル所ノ補償金ト補償ヲ受クベキ人ニ之ヲ支拂ヲスルノデアルカラ、國庫ノ收入若クハ公共團體ノ收入トナルベキ所ノ清算金ハナイト云フコトヲ言明シテ居ッタト私ハ記憶シテ居ルノデアリマス、然ルニ之ニ依テ見マスレバ、國家若クハ公共團體、卽チ區劃整理ノ執行者ガ剩餘金ヲ收得スル規定ヲ設ケテアルノデアリマスカラ、所謂今日マデ政府ガ區劃整理ヲヤッテ儲ケルノデアルト云フヤウナ說ガ盛ニ行ハレテ居ッタノガ、玆ニ實現サレルノデハナイカト云フヤウナ疑ヲ懷クノデアリマス、是等ノ點ハ先刻申上ゲマシタ、卽チ補償金ノ場合ニ於テハ、震災直後ニ於ケル最モ下落シタ當時ノ地價ヲ根柢トシテ計算シ、又清算金ノ場合ニ於テハ、區劃整理後ノ昂上シタル市價ヲ以テ換算シテ、多額ヲ市民ヨリ徵收シ、以テ此間ノ差額ヲ益スルノデハナイカト云フヤウナ疑ハ當然ニ起ル所デアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ願クバ明確ナル御回答ヲ得タイト思フノデアリマス

清野政府委員ノ應答

私昨年九月ニ復興局長官ヲ拜命致シマシテカラ、只今近藤君ヨリ此復興事業ノ遲々トシテ居ルノハ、當局ノ怠慢デアルト云フ御話ガアリマシタガ、是ハ私就任ヲ致シマシテカラ昨年マデノ調査ヲ研究シテ見マスト云フト、御承知ノ通リニ此換地ノ設計ヲ致シマスルニ、又其設計ガ——一口ニ設計ト申シマスケレドモ、所謂此大都會ノ土地ノ所有者以外、借地權者、殊ニ震災後ニ於テハ此借地權者ノ登記ノナイモノガ多イ爲ニ、其申告ヲ取リマスダケデモ十萬以上ニモ數ガ上ッテ居リマス、前長官ノ時ニ其苦心ヲ致シマシタ跡ハ、一々之ヲ申上ゲルコトハ此處デ憚リマスガ、決

シテ怠慢ト云フコトデハナカッタト思フノデアリマス、但シ豫定年度ヨリ申シマスレバ、事業ノ遲レテ居ルト云フコトハ遺憾ナガラ事實デアリマス、併ナガラ從來ノ苦心ヲ致シマシタコトモ、稍報ヒラレマシテ、現在ニ於キマシテハ假ニ東京ヲ例ニ取ッテ申上ゲマスレバ、六十六區ノ地區ニ分ケテ區劃整理ヲ致シテ居リマスガ、位置ノ決リマシタモノガ六十、既ニ面積ノ決定ヲ致シマシテ、移轉命令ヲ出シ得ル迄ノ準備ノ出來マシタ數ガ三十九ニ上ッテ居リマスヤウナ譯デアリマス、又昨年ノ九月頃カラ此移轉命令ヲ法律ニ依テ出シテ居リマス數ガ、月ニ非常ニ增加ヲ致シマシテ、現在東京デハ約一萬五千ノ移轉命令ガ出テ居リマスヤウナ次第デ、從來此年度ニ關係ヲシテ申シマスレバ、遲レテ居ルト云フ事柄ハ遺憾ナガラ事實デアリマスガ、昨今ハ餘程順調ニ進ンデ居リマスト云フコトダケハ、御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス、尙ホ此區劃整理委員ノコトニ付キマシテハ段々御話ガアリマシタガ、只今ノ所デハ此區劃整理委員ニナッテ居リマスノデ、一、二ノ例外ガナイト云フコトハ申上ゲ兼ネマスガ、故意ニ此整理委員ガ區劃整理ノ進行ヲ阻碍ヲスル、或ハ私ヲスルト云フヤウナ事實ハ、復興局ハ認メマセヌ、又萬一ニ或ハ此委員會ノ議長等ガ、故意ニ整理ノ仕事ニ妨害ヲ加ヘルト云フ事實ガアリマスレバ、是ハ勅令ニ依リマシテ相當ナ途モアリマスガ、右ノ如キ事實ハ現在毫末モナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ此清算ノコトニ關シマシテ、路線價ノ御質問ガアリマシタガ、是ハ詳細ニ申上ゲマスルト、數字ニモ關係シテ餘程時間モ取リマス故ニ、唯簡單ニ近藤君ノ御尋ニ對シテ御答ヲ申上ゲ置キマスガ、補償ヲ致シマスノハ整理前ノ平均地價デ補償ヲスベシト云フコトハ、御承知ノ通リ勅令ノ規定ニ在リマスノデ、卽チ震災前ノ平均地價ヲ一定ノ數額ノ上カラ割出シマシテ、サウ致シテ此整理前ノ地價ト云フモノヲ決メテ居リマス、又此整理後ノ地價ヲ殊更ニ或ハ幹線、補助線等ガ出來ルノデ、漫リニ上ゲテ居ルコトハナイカト云フ御話デアリマスガ、決シテサウデハアリマセヌ、淸算ヲ致シマスノハ、理想ト致シテハ寧ロ此整理前ノ地價ヲ代表致シマスルト此土地ノ價ヲ指數デ現ハシテ居リマスガ、此指數ニ最モ近付ケルコトガ理想デアリマス、併ナガラ色ゝ技術ノ上デサウハ參リ兼ネマス、固ヨリ此整理前ノ地價ト、整理後ノ地價トハ違ッテ居リマスガ、是等ハ何レ此委員會デ詳細ニ其事ヲ御諒承ヲ願フ積リデアリマスカラ、此席デハ詳シク申上ゲマセヌ次第デアリマス、尙ホ此淸算金ノコトニ付キマシテ、三年ト云フコトガ酷デハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、一應至極御尤ノ御話デ、東京市ノ此ノ下水ハ十年ト云フコトニナッテ居リマスガ、ソレニ較ベテ三年ハ短カ過ギル、如何ニモ下水ニ較ベテハ短カ過ギルト云フコトハ事實デアリマスガ、所謂淸算金ハ政府デ徵收致シ、政府デ交付スルト云フ仕事ノ事務ダケハ致シマスガ、本來ノ性質ハ矢張此耕地整理デ淸算ヲ致シマスト同樣ニ、當事者ノ間ニ淸算勘定ヲ致ス筋合デ、之ヲ政府ニ於キマシテ特ニ此震災後ノ東京橫濱ニ對シテ立替ヲ致シマスト云フ爲ニ之ヲ延シマスノデ、淸算ノ性質カラ申シマスレバ、下水ノ受益者ノ負擔ト云フヤウナモノトハ、性質ガ全然違ヒマス、殊ニ此三年ト云フコトニ致シマシタノハ、大藏省ノ財政計畫ノ都合モアリマスノデ、三年ト云フコトニ致シマシタ次第デアリマス、尙ホ此利子ヲ取ル、是ハ酷デナイカト云フ御話デアリマスガ、御承知ノ通リ此區劃整理ハ六十六ノ中デ五十一マデハ東京市ガ行ッテ居リマスノデ、東京市ハ矢張市債ヲ起シマシテ、此立替金ニ充ツルヨリ外ハナイノデ、市ノ市債ノ利廻ハ矢張八分近イモノニ事實ナッテ居リマスノデ、是ハ已ムヲ得ズ東京市或ハ橫濱市ノ關係モアリマス關係ニナッテ居ル次第デアリマス、尙ホ詳細ハ委員會ノ節ニ申述ベマス

近藤達兒君ノ再質疑

尙ホ一ッ御伺致シマスガ、此區劃整理ノ問題ニ對シマシテ、最モ市民ノ苦痛ニ考ヘルノハ移轉料ノ問題デアリマス、其移轉料ガ近來頗ル少イト云フコトデ、各方面ヨリ怨嗟ノ聲ヲ聞クノデアリマス、市民ノ最モ困憊シテ居ル今日、少キ移轉料ヲ與ヘテ之ヲ强制スルガ如キハ、市民ノ苦痛甚シイモノガアルト存ズルノデアリマス、ソレ故ニ政府ニ於カレマシテハ、何等カ豫算ノ流用ニ依テ移轉料ヲ增大スルコトノ御考ハナイデアリマセウカ、此點ヲ御伺致シマス

清野政府委員ノ應答

御承知ノ通リ移轉料ガ若シ誤ッテ少イト云フコトガアリマスレバ、法律ニ依リマシテ司法裁判所ヘ訴ヘ得ル途ヲ法律ハ開イテ居リマス、ソレデ裁判所ノ方ヘ出マスル關係者ガアリマス、殊ニ法律ニ依リマシテ通常受クベキ損害ト云フ文字ヲ法律ハ書イテアリマスキリデ、私ノ方デハソレゾレ皆關係ノ者ガ一戸々々ニ付キマシテ、サウシテ其家ヲ移轉スルノニ付テハ、御承知ノ通リ或ハ全部一時解體ヲシテ改築ヲスルノモアリマスルシ、或ハ簡單ニ引ケルモノモアリマス、或ハ一部除却スルモノハ一々其見取圖ヲスッカリ拵ヘマシテ、新築ノ單價ヲ調ベテ居リマス、只今近藤君ノ御話ハ、或ハ移轉料ノ中デモ營業ノ補償ト云フコトデナイカト云フ想像ヲ致シマスガ、是モ亦各種ノ業體ニ付キマシテ、各其業體ノ如何ニ依リマシテ損害ヲ皆拂フコトニ致シテ居リマス、尚ホ雜作ノ移轉料、或ハ此動產ヲ運搬致シマス移轉料モ拂ッテ居リマス、只今補償審査會ニ懸ケテ居リマスノハ、御承知ノ通リ唯役所デ決メルト云フコトデナシニ、審査會デ一戸々々ニ付ヲ果シテ補償ガ不十分デアルカ、十分デアルカト云フコトヲ審査致シテ居リマスノデ、今日迄此補償額ニ付キマシテ幸ニ裁判所ヘ出訴ノアリマシタモノハ、昨今一ツアリマシタキリデ、サウ仰セノヤウニ不都合ナ事ハ斷ジテ致シテ居ラヌ積リデアリマスガ、尚ホ將來其事ニ付テハ一層ノ注意ヲ無論拂フ積リデアリマス

次テ委員ノ選擧ハ兩案ヲ一括シテ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末(七七)案ハ之ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日吉川吉郎兵衛君外六名ハ(七八)案ニ對シ少數者意見書ヲ提出セリ

(七八)案ハ之ヲ修正スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(七八)案ニ對スル委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

第一條　本法ニ於テ清算金ト稱スルハ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ耕地整理法第三十條ノ規定ニ依リ徵收シ又ハ交付スヘキ金錢ヲ謂フ

第二條　清算金ヲ納付スヘキ義務アル者ニ對シ同一土地區劃整理施行地區內ニ於ケル土地ニ關スル權利ニ付特別都市計畫法第八條ノ補償金ヲ交付スヘキ場合ニ於テハ整理施行者ハ徵收スヘキ清算金ニ之ヲ充ツルコトヲ得但シ其ノ補償金カ耕地整理法第二十五條ノ規定ニ依リ供託スヘキモノナルトキハ其ノ補償金ヲ交付スヘキ土地ニ關スル權利ニ付徵收スヘキ清算金ニ之ヲ充ツルコトヲ得

二　第三條　整理施行者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ徵收スヘキ清算金ニ付利子ヲ附シ三五年ヲ超エサル期間ニ於テ分納スルコトヲ認ムルコトヲ得

三　第四條　整理施行者ハ清算金交付ノ爲必要アルトキハ耕地整理法第三十條ノ規定ニ拘ラス他ノ土地區劃整理施行地區ニ於テ徵收シタル清算金ヲ以テ繰替支辨シ又整理施行者カ行政官廳ナルトキハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ノ立替金ヲ以テ支辨スルコトヲ得

整理施行者前項ノ規定ニ依リ繰替又ハ立替支辨シタルトキハ徵收シタル清算金ヲ戻入シ又ハ

返還スヘシ

第五條（第二條第二項ノ利子第四）清算金ニ剰餘ヲ生シタルトキハ其ノ剰餘金ハ整理施行者カ行政官廳ナルトキハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ニ歸屬ス

第六條（第五）土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラレ又ハ交付セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ヲ讓渡シタルトキハ當事者雙方連署ヲ以テ遲滯ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ爲ササル場合ニ於テハ清算金ノ徵收又ハ交付ニ關シテハ其ノ讓渡ハ之ヲ以テ整理施行者ニ對抗スルコトヲ得ス

土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラレ又ハ交付セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ノ分割讓渡ニ付第一項ノ屆出アリタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク各當事者ヨリ徵收スヘキ清算金額又ハ各當事者ニ交付スヘキ清算金額ヲ通知スヘシ

第七條（第六）前條ノ規定ハ土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラレ又ハ交付セラルヘキ場合ニ於テ其ノ權利ノ消滅シタル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（（七八）案ニ對スル吉川吉郎兵衞君外六名提出少數者意見書）

特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ伴フ清算金及補償金ニ關スル法律案中左ノ通修正ス

第三條第一項中「三年」ヲ「五年」ニ改ム

三月二十二日（七七）案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長太田信治郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ都市計畫法中、稅制整理ノ結果ト致シマシテ、地方稅ニ於テ當然改正ヲ要スル爲メ本案ガ提出セラレマシタ次第デアリマス、本案ノ要點ヲ極メテ簡單ニ申上ゲマス、營業稅改正ノ結果、營業稅ガ、營業收益稅ト改正ニナリマシタ結果、此營業稅制ヲ營業收益稅割ト改メマス、更ニ營業收益稅法第十條ノ第二項ニ規定セラレマシタ所ノ資本利子稅ヲ、地方稅ニ於テ控除シナイト云フコトニナリマシタノデ之ヲ明ニ致シマシタ、尙ホ本法ハ大正十五年度ヨリ直ニ施行セラレマスルコトデアリマスルノデ、營業稅廢止ノ法律案ニ於ケル所ノ大正十五年度ノ免稅百分ノ八ノ減收ヲ、此地方稅ニ於テハソレヲ從前ノ通リ免稅ヲセラレナイデ、賦課セラルヽト云フコトニ決定致シタノデアリマス、更ニ特別地租稅ヲ設定致シマシタガ、是ハ御承知ノ如クニ地租ノ免稅點ヲ設ケラレマシタ其結果ト致シマシテ、地租割ノ改正ヲ致シマシタ次第デアリマス、卽チ地租割ハ百分ノ十二箇半以內デアリマスモノヲ、北海道ニ在リマシテハ地價千分ノ四以內、府縣市町村ニ付テハ千分ノ五以內ニ特別稅ヲ課スル次第デアリマス、併ナガラ其賦課率ハ從前ノ當該年度ニ於ケル所ノ田畑ノ地租割ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ賦課スルト云フコトニナッテ居リマス次第デアリマス、委員會ハ愼重審議ノ結果、政府原案ノ通リ可決確定ヲ致シマシタ、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ三月三十日法律第三十八號ヲ以テ公布セ

ラル

三月二十四日(七八)案ノ第一讀會ヲ開キ委員長太田信治郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

委員會ハ連日ニ渉リマシテ非常ニ熱心ニ愼重ニ質問應答ヲ重ネマシタノデアリマス、而シテ高木君、作間君、近藤君、矢野君、沼田君、其他ノ諸君ガ何レモ大雄辯ヲ揮ヒテ審議セラレマシタノデアリマス、私ノ如キ訥辯ノ者ガ會期切迫ノ際到底審ニ之ヲ御紹介致スコトハ不可能デアリマスカラ、委細ハ速記錄ヲ以テ御承知ヲ願フコトニ致シマシテ、唯討論ノ結果修正案ガ提出セラレマシタカラ、其事柄ニ付テ簡單ニ御報告ヲ申上ゲマス、本案ハ頗ル重大ナル案件デアリマスノデ、十分愼重審議ヲ盡シタイノデアリマシタガ、何ニ致シマシテモ會期切迫ノ折柄、是非共今日上程ヲ致シマセヌケレバ、復興事業上非常ナル影響ヲ及ボシマスコトデゴザイマスカラ、委員長ハ懇談會ヲ開キマシテ、一時休憩ヲ致シ其間懇談ヲ十分ニ致シマシタ、其際高木君、作間君カラ修正案ニ付テ御熟議ガアリマシタ、各派ハ又各派ニ於テ評議ヲ重ネマシタガ、遂ニ一致ヲスルコトガ出來マセヌデ、政友會ノ近藤達兒君ノ修正案ガ提出サレマシタ、其修正案ハ本案ノ第二條ヲ削除スルコト、ソレカラ第三條ノ「清算金ニ付利子ヲ附シ三年ヲ超エサル期間ニ於テ分納スルコトヲ認ムルコトヲ得」トアリマス、規定中ノ「三年」ヲ「五年」ト修正セラレマシタ、ソレカラ第五條ノ「清算金ニ剩餘ヲ生シタルトキハ其ノ剩餘金ハ」トアルノヲ削除シテ「第二條第二項ノ利子」ト云フコトニ修正ナリマシタノデアリマス、之ニ就キマシテ高木君、作間君、安藤君、土屋君、近藤君カラ修正案ニ御賛成ノ御意見ノ陳述ガアリマシタ、其理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、修正ノ理由ハ區劃整理ノ爲ニ此災害地ノ市民ハ一割土地ヲ減歩サレル爲ニ、約三億五千萬圓ノ土地ヲ無償ヲ以テ提供致スコトニナリマシテ、尙ホ此區劃整理換地ノ爲ニ家屋ヲ移轉致シ、其外各種ノ施設ヲ要スル爲ニ多大ノ資金ヲ必要ト致ス場合デアリマス、故ニ此政府ヨリ交付セラルヽ所ノ補償金ニ依テ之ヲ支辨致サントシテ居ル所デアリマス、然ルニ未ダ區劃整理ノ完成セザル整理後ノ清算勘定ニ依ル所ノ清算金ノ徵收ヲ充當致シテ相殺サレルコトニナリマス、左樣致シマスルト現在ノ區劃整理地區內ノ住民ハ、震火災以來酷ク困難ヲ致シテ居ル所ニ、尙ホ此相殺勘定ニ依テ到底現在困難ヲ致シテ居ル所ノ經濟狀態ヲ以テ致シマシテハ、假令移轉命令ヲ受ケマシタ所ガ到底移轉致スコトハ出來マセヌ、左スレバ折角換地處分マデ決定ヲ致シマシテモ移轉ガ出來マセヌケレバ、要スルニ机上ノ區劃整理ガ出來マシテモ、實行ノ區劃整理ガ出來ナイコトハ明カデアリマス、故ニ此際徵收金ト交付金ト相殺シテ、一時區劃整理施行者ニ於テ繰替ヲスルコトニ致シマシタノガ此第二條ヲ削除致シマシタ理由デアリマス、尙ホ此徵收金ノ延納ヲ二箇年延期ヲ致シマシタコトハ、是亦徵收金ノ延期ヲ致シタ次第デアリマス、而シテ徵收変付ガ相濟ミマスレバ、互ニ清算金ノ剩餘ハナイコトデアリマス、然ルニ第五條ニ於テ清算金ニ於テ剩餘ヲ生ジタリト云フ理由ヲ尋ネマシタ所ガ、ソレハ其間繰替金ニ要スル——政府ニ延期ヲシテ繰替ヲシテ貰ヒマシタ所ノ附帶スル利子デアリマス、其利子ガ第五條ノ剩餘金ニ當ルコトヽナリマス、デアリマスカラ其第五條ヲ明ニ「第二條第二項ノ利子ハ」ト云フコトニ修正ヲ致シタ次第デアリマス、政府ハ之ニ對シマシテ財政上又區劃整理施行上ニ付キマシテ、勿論擢災民ニ對シテハ相當ノ利益ヲ與ヘタイ、是ハ大ニ同情ヲ致シテ居ル次第デアリマス、併ナガラ此補償金ヲ充當スルト云フコトハ、是ハ都市計畫法ノ第八條ノ補償金ノ場合ニ於キマシテ、モウ清算金ニ充當スルコトガ決定ヲセラレテ居ル次第デアリマシテ、當然ノ歸結トシテ相殺ヲ受クベキモノデアル、隨テ若シ第二條ヲ削除致シマスル結果ト致シマシテハ、國ニ於テハ約一千萬圓、市ニ於テハ百五十萬圓、橫濱ニ於テハ百五十萬圓、合セテ約三千八百萬圓餘ノ繰替ガ增加スルコトヽナリマス、左樣致シマスレバ斯ノ如キ繰替金ガ、此際餘裕ノアルコトデアリマセヌカラ、頗ル困難ノコトニナリマス、故ニ之ニ同意スルコトガ出來ナイト云フコトデアリマシタ、又第三條ノ延納ニ付キマシテモ同樣ナ結果ヲ來スノデアリマス、之ニ對シテ高木益太郎君ハ、區劃整理ハ都市計畫法第五條ニ依リマスト「都市計畫事業ノ一部ヲ施行スルコトヲ得」ト云フ條文

ガアルノデアリマスカラ、政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ事業ヲ施行スルトスレバ、別段財政ニ支障ヲ來スコトモナイト云フ御意見デアリマシタ、併ナガラ何レニ致シマシテモ此區劃整理ヲ國家ガ施行スルニ當リマシテ、居住民ノ利害ヲ無視スルト云フコトハ出來マセヌ、故ニ居住民ノ經濟上困難スル所ヲ救濟シ之ヲ助成シテ、而シテ帝都復興ノ大事業ヲ促進セシメルコトガ必要デアル、此意味ニ於キマシテ此繰替金ヲ致スコトモ已ムヲ得ナイ事ト信ジマシタノデアリマス、而シテ討論ノ結果沼田嘉一郎君カラ御意見ガ出マシタガ、結局第三條ノ修正案ガ可決ニ相成リマシタ、沼田君ノ御意見ハ此三箇年ヲ五箇年トスルコトニ止メテ、其他ハ全部政府案ヲ贊成スルト云フ御意見デアリマシタガ、其御意見ハ少數デアリマシタ、此少數ノ意見ニ付キマシテハ少數意見ガ追テ御報告ニ相成ル次第デゴザイマス、以上委員會ノ經過ノ大要デゴザイマシテ、詳シイ所ハ委員會ノ速記錄ニ依テ御承知ヲ願フコト、致シタイ次第デゴザイマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ吉川吉郎兵衞君ハ少數者意見書ニ付左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今委員長ノ報告ガアリマシタ通リ、政府當局ガ修正案ニ反對シ、原案ヲ支持致シマシタ事ニ付キマシテハ、尤モナル道理ガアリマスノデ吾ミハ此支持理由ヲ誠ニ尤モナルコト、考ヘマシテ、之ニ贊成ヲ致シテ居ルノデアリマス、修正案ハ罹災民ヲ思フノ餘リ非常ニ罹災民ヲ思ヒ過ギタ所ガアル、吾ミニ於キマシテモ罹災民ヲ思フコトハ最モ深イノデアリマスガ、思ヒ過ギルコトハ隘ヲ得テ蜀ヲ望ムノ非難ニ陷ルコトガアルノデアリマスガ、是ハ甚ダソレニ近イモノト考ヘルノデアリマス、吾ミハ罹災民ヲ思フト共ニ、亦同時ニ國家ノ爲ニモ大ニ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、ソレデ吾ミノ立場ヨリ致シマシテ大處高處ヨリ考ヘマシテ、公平ニ妥當ナル玆ニ決議ヲシナケレバナラヌト存ズル次第デアリマス、由來原案ハ政府ヨリ交付スベキ補償金、或場合ニ於テ同一人ノ清算金ヲ徵收スル場合ニ於テ、清算金ガ有ルトキハ之ヲ相殺スル、今ノ修正意見ハ、

補償金ハ貰フガ清算金トシテ出スベキモノハ出サナイ、先ヅソレハ後ニシテ長年ノ年賦ニシテ、ソレヲ取ッテ貰ヒタイト云フ御意見デアリマス、是ハ吾ミハ誠ニ不合理ナ事デアルト考ヘルノデアリマス、遣ルモノハ遣ル、多キニ失スルダケノモノハ清算金トシテソレヲ取ッテ、足ラナイ者ニ遣ル、之ヲ一時ニ遣ルト云フコトガ誠ニ合理的デアルト吾ミハ考ヘルガ、是又當然ナ事デアル、勿論是ハ罹災民ノ爲ニ特ニ徵收スベキ清算金ニ就テ分納ヲ認メテ居ルノデアリマス、其分納ハ三箇年ヲ五箇年ト云フコトニ玆ニ修正ニモナッテ居リマスガ、此分納ヲ認メテ罹災民ノ爲ニ經濟ヲ十分ニ考慮シタ點ガ、此ニアルノデアリマス、然ルニ修正案ノ如クスルトキハ、相殺ニ便宜ニシテ適切ナル處置ヲ失ハシムルノミナラズ、政府ノ財政ニ於テ約一千萬圓以上ノ豫算ヲ立替金トシテ增加セナケレバナラヌノデアリマス、斯ノ如キコトハ現在國家ノ財政ノ現狀ニ照シマシテ甚シク當ヲ缺クモノト思フノデアリマス、政府原案ハ罹災民ヲ思フト共ニ、國民ノ爲ニ國家ノ財政ヲ考慮シテ、至極公平ナル原案デアルト私等ハ考ヘルノデアリマス、以上ノ議論ハ東京及橫濱兩市ニ付テ申シマシテモ、修正案ニ依ルトキハ東京市ハ約二千七百萬圓、橫濱市ハ約百五十萬圓ノ立替豫算ヲ增加セネバナラヌノデアリマス、是又兩市財政ノ堪ヘル所デハナイト吾ミハ考ヘルガ故ニ、第二條及第五條ニ關スル修正ノ削除、第五條ノ修正、之ニハ反對ヲ致シマシテ、第三條ノ清算金ノ分納金ヲ納メル、此期限ヲ三箇年トアルヲ五年ト云フコトニ之ヲ修正致シマシテ、其他ハ全部原案ニ贊成ヲ致スモノデアリマス、何卒諸君ニ於カレマシテモ能ク御判斷ノ上、是非此少數意見ニ御贊成アランコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス

議長ハ院議ニ諮ヒ右少數者意見ニハ成規ノ贊成アリト認メ修正案トシテ成立セシ旨ヲ宣告ス

討論ニ入リ作間耕逸君ハ修正案ニ反對、折原巳一郎君、安藤正純君ハ贊成ノ演說ヲ爲ス

作間耕逸君ノ反對演說

本員ハ本案ニ付テ委員長ノ修正報告ニ贊成シ、少數意見ニ反對スル者デアリマス、與黨ノ一人デ

アリマスル本員ガ、政府ノ意見ニ反イテ、平素政見ト立場ヲ異ニ致シマスル政友會革新倶樂部ノ諸君ト共ニ本案ノ第二條第三條及第五條ニ對シ、敢テ同一ノ修正意見ヲ唱ヘマスルノハ、實ニ心苦シイ次第デハアリマスケレドモ、ソレダケ本員等ハ區劃整理事業ノ過去ヲ顧ミ、又其將來ヲ思ヒ、一ハ政府ノ爲メ、一ハ市民ノ爲ニ、道理ト實際ノ上ヨリ確乎タル信念ヲ有スルモノデアリマス、本案ノ修正ニ贊成ノ理由ヲ述ブルニ當リマシテハ、一應區劃整理事業ノ工程ヲ檢セナケレバナラヌノデアリマス、此點ニ付キマシテハ高木代議士ガ先刻決算案ノ質問ニ於テ、政府ニ對スル峻烈ナル御陳述ガアリマシタカラ、私ハ大部分省略致シマスガ、元來區劃整理事業ト云フモノハ、東京横濱兩市復興ノ前提トシテ、其性質上他ノ復興事業ヨリモ一歩進ンデ居ラナケレバナラヌモノデアリマス、然ルニ洵ニ遺憾ナコトニハ、其實際ヲ見マスルト云フト、大正十三年三月内務省ノ告示ノ第百三十二號ニ依リマスレバ、大正十四年度中ニハ區劃整理全事業ノ七割八分九厘ヲ完成シテ居ナケレバナラヌ豫定トナッテ居ルノデアリマス、所ガ大正十四年度モ既ニ最早一週間ヲ以テ盡キマスル今日ニ於テ、而モ其事業ハ只今高木代議士モ申述ベラレタ如ク、僅ニ十分ノ一シカ終ッテ居ナイノデアリマス、即チ東京全市六十六地區ノ中デ、移轉命令ヲ終了致シタモノハ、國ノ執行ガ十五地區ノ中、僅カ三地區アリマスルモ、市ノ執行ニ係ルモノ五十一地區ノ中、未ダ一地區モアリマセヌ、而モ實際ニ於テ家屋ノ移動ヲ終リマシタルモノハ、土木工事ヲ加ヘマシテ、一年有半ヲ費シテ僅ニ駿河臺方面ノ第六地區ノ一地區アルバカリデアリマス、而シテ又日本橋區濱町方面ノ第十二地區ノ一部分ガアルダケデアリマス、而モ此地區モ後日ニ至リ最モ解決ノ困難ヲ豫想セラレマス所ノ清算金ト補償金トノ問題ニハ、全然手ガ染マッテ居リマセヌ、斯様ナ有樣デアリマスルガ、復興當局ノ宣傳ニ依リマスレバ、單ニ換地決定ノ決議ヲ經タモノガ五十四地區アル、或ハ移轉命令ヲ發シタルモノガ二十四區アルト云フコトデアリマスケレドモ、是等ハ唯机上ノ事務ニ屬スル、地圖ヲ引ッ張ッテ命令文書ヲ郵送シタバケノコトデアリマス、又實際今マデヤリマシタ所ノ第六區或ハ第十二地區ノ如キハ、比較的手數ト經費トヲ要セザル方面デアリマシテ、眞ノ困難多キ事業ノ主ナル方面ハ是ヨリ以後ニ進ンデ行カナケレバナラヌ、

著手シナケレバナラヌ所ガ多ク殘ッテ居ルト云フコトニ御注意ヲ願ヒタイノデアリマス、更ニ之ヲ建物ノ移轉數ト經費ノ支拂トノ統計カラ見マシテモ、現在ニ於テ復興當局ハ東京燒跡全域ニ渉ッテ建物ヲ十六萬棟動カサナケレバナラヌト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、此十六萬棟ハ固ヨリ概數デアリマシテ、之ヲ政府デヤル所ノ復興局、而シテ又自治團體デアル所ノ東京市、此兩方デ受持ツノデアリマスガ、其中自治團體デ受持チマスル方ハ八萬八千六百棟、政府デ受持チマスル方ハ七萬一千六百棟、然ルニ現在マデ政府ハ幾ラ移轉命令ヲ出シタカト申シマスルニ、七千五百六十二棟デアリマス、即チ一割ト少シ上ッテ居リマスケレドモ、一割三分ニモ當ラナイノデアリマス、之ニ要スル所ノ經費ヲ幾ラ幾ラ支拂フコトニナッテ居ルカト申シマスレバ、其經費ハ六百十四萬三千五百四十一圓ト云フ數字ハ、復興豫算ニ於キマシテ東京市ニ對スル國ノ區劃整理費合計ハ百七十五萬圓ニ對シマスルト、既ニ其八割ヲ超過致シテ居ルノデアリマス、即チ家ヲ動カス棟數ガ一割二、三分シカ動カサナイノニ、之ニ要スル所ノ經費ハ既ニ全體ノ八割バカリヲ支拂ハナケレバナラヌト云フコトニナッテ居ルノデアリマスカラ、後ノ家ヲ動カスノガ全體ノ八割七八分殘ッテ居ル、之ニ對スル經費ト云フモノハ僅ニ一割七、八分ヨリシカ殘ッテ居ラヌト云フコトニ相成ルノデアリマス、而モ此八百七十五萬圓ト申シマスノハ、是ハ土地區劃整理費ノ全體デアリマスルケレドモ、其中ニハ雜工事費、即チ工事ノ費用ヲモ含ンデ居ルノデアル、其正味ト云フモノハ僅ニ八百萬圓ニ過ギナイノデアル、八百萬圓ニ過ギナイ、其大部分ガ既ニ支拂ハレ掛ケテ居ルノデアリマスカラ、如何ニ此經費ト、後ニ殘サレテ居ル所ノ移轉ヲ要スベキ建物ノ數トヲ比較シテ見マスルト云フト、所謂日暮レテ道遠シ、政府ガ近キ將來ニ於テ必ズ此事業ノ前途ニ私ハ進退是レ窮セラレル立場ニ陷ル虞アリト感ズル者デアリマス、而シテ他ノ復興事業即チ橋梁、道路等ノ工事ハ比較的進捗致シテ居リマスノニ、單リ區劃整理事業ガ最モ遲レテ居リマスノハ、是ハ一體ドウ云フ譯デアル、是ハ山本内閣、清浦内閣當時ノ彼ノ大震大火ノ應急善後策ト致シマシテ、匆忙ノ間ニ色ミノ混雜ト變化トヲ以テ取扱ハレテ來リマシタ計畫ガ杜撰デアルガ爲デアリマス、粗

案デアルガ爲デアリマス、固ヨリ其計畫ヲ其儘踏襲シタニ過ギナイ所ノ我黨內閣ノ責任デナイト云フコトダケハ、玆ニ明ニ申上ゲテ置キマス、又現復興當局ノ罪バカリデモアリマセヌ、一番惡イ原因ハ實ニ區劃整理ノ現行制度其モノニ不備缺陷ガ多イカラデアリマス、本員等ハ其制度ノ改善ニ努メテ來テ居ル者デアリマスルガ、玆ニ提案サレマシタ政府ノ本案ノ如キハ、實ニ現行區劃整理制度ヲ一層更ニ改惡セントスルモノデアルト云フコトニ、御注意ヲ願ヒタイノデアリマス、恐ラク事業ノ前途ハ本案ノ通過ニ依テ一層ノ難澁ト市民ノ迷惑トヲ增スモノデアラウト考ヘル、尤モ本案ノ中デモ清算金ノ分納制等ハ事業ノ進行ノ爲ニモ、又市民ノ權利ノ爲ニモ本員等ハ之ヲ歡迎シ、其通過ヲ希望スル者デアリマスルケレドモ、第二條、第五條ノ如キハ、補償金清算金ノ性質ヲ全ク無視シテ、事業ノ進行ト市民ノ迷惑ヲ思ハザル事甚シキモノデアルト謂ハナケレバナリマセヌ、元來補償金ト云フモノハ、御承知ノ通リ政府又ハ市ガ市民カラ必要ナル地所ヲ提供セシムル、其中一割ハ無償提供、只ノ沒收デアル、一割ヲ超ユル所ノ五分ナリ、八分ナリ、或ハ一割ナリガ、卽チ補償金ヲ支拂ッテ市民カラ提供セシムルノデアリマス——補償金ヲ支拂ッテ一割無償提供ノ幾分ノ埋合セニ爲シ、又ソレヲ融通、利用シテ、以テ自己ノ復舊、復興ノ資金ニ當テヤウト致シテ居ルノデアル、之ヲ待ッコト實ニ旱天ノ雲霓モ啻ナラザル境遇ニ在ルノデアリマス、然ルニ政府ハ此補償金ヲ與フベキモノヲ與ヘズニ押ヘテ置イテ、是ハ區劃整理施行ト同時ニ著々トシテ與ヘナケレバナラヌ金デアリマスニ拘ラズ、是ハ支拂ハズニ押ヘテ置イテ、サウシテソレト全ク別ノ關係ニ在ル、單ニ人民同志ノ遣取ヲスベキ清算金ト、此補償金トヲ相殺的ニ充當シヤウトスルノガ、此第二條ノ趣旨デアリマス、而シテ一方ノ清算金ト云フモノハ區劃整理ガ出來上ッテ初メテ生ズル所ノ利益デアリマシテ、ソレモ果シテ利益ヲ生ズルカ否ヤト云フコトハ、區劃整理ガ行ハルレバ、土地ノ値段ガ出ル數十年ヲ經ナケレバ分ラナイノデアリマス、單ニ此ニ區劃整理ガ行ハルレバ、土地ノ値段ガ出ルデアラウト云フコトハ、ソレハ復興局ガ机上ノ論議、若クハ空想デアリマシテ、實際ソレ程ノ價値ガ出ルカ、利益ヲ受クルカト云フコトハ未來ノ事デ、全ク確定シナイ所ノ一ッノ想像的相場ニ過ギナイト云フコトニナルノデアリマス、此想像的相場ニ依テ算定セラレタル金錢、而モ其金錢ハ市民ノ甲カラ乙ヘ與ヘ、或ハ丙カラ乙ヘ與ヘルダケデ、政府ナリ市ナリガ、而モ其金ニ直接關係スルコトノ出來ナイ、卽チ自己ノ所有、自己ノ權利ニ歸屬セシムルコトノ出來ナイ此金ヲ以テ——此金ノ補償金ヲ以テ市民同志ガ遣リ取リスルニ過ギザル所ノ淸算金ト差引勘定ヲスルガ爲ニ、其支拂ニ充當セシメヤウトスル原案ノ第二條ガ、如何ニ私ハ不法暴戾的ノモノデアルカト云フコトヲ諸君ノ御判斷ニ愬ヘタイ所デアリマス、卽チ當事者ノ關係ガ違フ、補償金ハ單ニ政府又ハ市ガ市民ニ對シテ支拂フベキ金、市民ハ特定ノ土地ヲ提供シテ、其代金的ノ受取ルベキ金、其金ヲ以テ市民同志ノ單ニ未來ノ計畫ニ依テ定マリタル所ノ空想的相場ニ依テ受渡ヲスル、此金事ハナイ政府ガ今支拂フベキ現金ト、市民ガ將來利益ヲ受ケトヲ差引カウトシマスルノハ、何ノ事ハナイ、先キデ果シテ幾ラノ利益ヲ受ケルカソレモ分ラナイ、其前途未確定ノ金額トヲ强ヒテ差引イテ決算セシメヤウト云フ趣旨ニ基ク原案第二條ト私ハ考ヘマスルカラ、如何ニシテモ其案ニ同意スルコトハ出來ナイノデアリマス、又支拂ノ時期ニ付キマシテハ、只今モ申上ゲマスル通リ、補償金ハ區劃整理ニ著手スルト同時ニ支拂ハルベキ金、淸算金ハ區劃整理ノ施行ガ終ッテ定マルベキ金額、是ト是トヲ差引クト云フコトハ、政府ハ補償金ヲ支拂フ時期ニシテ居ッテ、市民ガ一日モ早クソレヲ貰ヒタイ、ソレヲ受取ラナイト云フ、此切ナイ金ヲ押ヘテ置イテ、サウシテ區劃整理ガ出來上ッタ金高ト差引決算ヲシヤウト云フコトデアリマスカラ、政府ハ手許ニ於テ補償金ヲ押ヘテ置イテ、サウシテ區劃整理ガ出來上ルマデ勘定ヲ市民ヲ待タサウト致スノデアリマスガ、現在ノヤウナ遲々タル狀態ニ於テ區劃整理ヲ施行シテ居リマスル間、市民ハ空シク其勘定ヲ待ッテ居ルト云フコトヲ玆ニ申上ゲテ置ク次第デアリマス、又第五條ノ剩餘金ガ生ズルト云フヤウニ、原案ノ趣旨ニハナッテ居リマスケレドモ、淸算金ニ剩餘金ト云フモノガアルベキ筈ハナイ、何トナレバ淸算勘定ト云フモノハ、一方ノ善イ所ヘ移ッタ人民カラ取ッテ——ソレモ果シテ事實善イカ惡イカ分ラヌガ、善イ所デアラウト云フ所ヘ移ッタ人民ニ、一方カラ、惡クナッタデアラウト云フ所ヘ移ッタ人民カラ、

取ッテ一方ヘ渡ス金デアリマスルカラ、政府又ハ市ハ、單ニ其金ノ取次ヲスルニ過ギナイノデアル、決シテ自分ノ權利ニ歸屬スベキ性質ノモノデハナイ、隨テ此金ハ剩餘ヲ生ズル筈ハナイノデ面ニ移ッタ人ニ、全體ニ分ケテヤレバ、ソレヲ其全體ノ合計額ヲ惡イ所ノ方テ、其間ニ政府ノ手許ニ清算金ガ餘ッタ、殘ッタト云フコトハ、道理上モ實際上モアルベカラザルコトデアリマス、然ルニ原案第五條ハ此清算金ニ剩餘ヲ生ジタ場合ニハ、之ヲ政府或ハ市ノ權利ニ歸屬セシメテ、其儘取ッテシマフト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、是ハ清算金ノ性質カラ考ヘテ、左樣ノ事ノ出來ベキ筈ハナイ、政府ニ此點ヲ質シマスト云フト、政府ハソレハ利子デアル元金デハナイ、清算金ヲ使ッテ居ル間ニ自然利子ガ生ズル、其利子ダケハ、市又ハ政府ガ取ッテ居ルノデアルト云フ、利子ダケナラバ結構デアル、利子ダケナラバ、何故第五條ニ明ニ利子ダケハ政府又ハ市ノ歸屬トスルト云フコトヲ規定致サナイノカ、原案ノ第五條ヲ見マスト利子ヤ元金ノ區別ハナイ、清算金ガ殘リサヘスレバ、何デモソレヲ市又ハ政府ニ於テ取上ゲルコトガ出來ルヤウニナッテ居リマスカラ、其誤解ヲ避ケテ利子ダケニ止メルト云フコトヲ明ニスル意味ニ於テ、私共ハ第五條ヲモ改正ヲシナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、第二條ヲ削除シナケレバナラヌト云フコトハ、只今申上ゲマシタ通リデアリマス、尙ホ第三條ノ清算金ヲ人民カラ分納セシムル義務ニ付キマシテ、原案ノ三條ニハ、三年間トナッテ居ルノデアルガ、此三年ハ實ニ短イ、御承知ノ通リ下水事業デモ、總テ斯ウ云フヤウナ場合ニハ、大抵十箇年ヲ以テ分納期間ト定メテ居ルノデアリマス、道路事業デモ、政府ノ方デ無條件デヤッテ呉レ、或ハ市ノ方デ無條件デヤッテ呉レタ、下水道路ノ受益負擔金デサヘモ、市民ハ十年間ニ之ヲ分納スレバ宜シイト云フコトニ相成ッテ居リマスルニ拘ラズ、區劃整理ハ決シテ無條件デヤッテ貰ッタノデハナイ、市民ハ多大ノ犧牲ヲ拂ヒ、多大ノ苦痛ト損害ヲ忍ンデヤッテ貰ッテ、此清算金ガ只今ノ下水、道路ノ負擔金ヨリモ短イモ短イ、三箇年間ニ之ヲ止メヤウトスルコトハ、全ク私ハ名ハ分納デアルケレドモ、其實ハ一時ニ徵收セラルヽヨリモ苦痛デアッテ、別ニ變リハナイ、何ノ猶豫モ恩惠モナイモノト申シテ宜シイ位ト存ジマスルカラ、此第三條ニ付キマシテモ、三箇年トアルモノヲ、是ハ五箇年ト改メタイノデアル、私共ノ希望ハ五箇年デハ滿足ヲ致サナイ、七年或ハ十年マデモト云フ希望ヲ持ッテ居リマスケレドモ、ソレデハ餘リ長過ギル、餘リ勝手ナコトヲ申シマシテモ、又本黨諸君等ノ御反對ヲ受クレバ、案ノ通過モムヅカシイノデアリマスルカラ、是ハ五年ノ修正ニ讓歩致シテ置キマシタガ、其他第二ノ修正、竝ニ第五條ノ修正ハ、以上申上ゲマシタ理由ニ依テ、絕對ニ原案ニ贊成ガ出來ナイノデアリマスカラ、修正案ニ同意ヲ表スル次第デアリマス

折原巳一郎君ノ贊成演說

諸君、自分ハ只今問題ニナッテ居リマス法案ニ對シ、少數者ノ意見ニ贊意ヲ表スルノデアリマス、極メテ簡單ニ贊成ノ理由ヲ申述ベタイト存ジマス、本案ニ對シマスル政府ノ說明ヲ承リマスレバ、同一時ニ交付致スベキ清算金ト、徵收スベキ補償金トガ相合スル場合ニハ、其金額ノ範圍ニ於テ相殺ヲスル、斯ウ云フ說明デアルノデアリマシテ、只今作間君ガ縷々御陳述ニナリマシタ所ハ、私共ハ多少違ッタヤウニ承ッテ居ルノデアリマス、其結果ト致シマシテ、若シ此相殺方法ヲ取リマセヌコトニ相成リマスト、國家ニ於テハ約千萬圓、東京市ニ於テハ二千七百餘萬圓、橫濱市モ此市民ガ災害ニ遭ウテ、迷惑ナ狀態ニ在ルコトニ向ッテハ、吾ゝモ滿腔ノ同情ヲ表スルノデアリマスガ、此清算金ト補償金トノ相殺ハ、決シテ無理ナル行爲ヲ爲スノデハナイ、右ノ手カラ拂フベキモノト、左ノ手ヘ取ルベキモノトガ、同時ニ相合シタ場合ニ、其分ダケヲ相殺スルト云フノデアリマシテ、是ハ若シ清算金ノ交付ト云フモノヲ更ニ數年遲ラセマシタナラバ、ヨリ多ク利益デハアリマセウケレドモ、ソレデハ今申述ベマス通リ、市及國ノ負擔ガ極メテ多大ニ上ルノデアリマス、或ル部類ノ人ゝノ利益ノ爲ニ、全般ノ國費或ハ市費ヲ以テ之ヲ負擔スルコトノ穩當デナイト云フ事情ハ、他ノ方面ニ於テモ幾多ノ實例ガアルノデアリマス、吾ゝハ此見地カラ致シマシテ、此清算金ト補償金トノ相殺ト云フコトハ、適當ナル法案デアルト云フコトヲ認メマシテ、

原案ニ賛成致シタ次第デアリマス、尚ホ第三條ノ點ニ付キマシテハ、是ハ先刻作間君ノ御述ニナリマシタト同樣ナ理由ヲ以テ、私共三年トアルノヲ五年ニ修正致シタ次第デアリマス、ドウゾ御賛成ヲ願ヒマス

安藤正純君ノ賛成演說

本問題ハ範圍カラ見レバ一地方ノ問題デハアリマルスケレドモ、之ヲ國民經濟ノ上カラ考ヘ、又是ガ國民思想ニ影響スル上カラ考ヘマスルト、其利害ハ必シモ一地方ノ問題トバカリハ言フコトハ出來ナイト思フノデアリマス、而シテ此清算ト補償トノ問題ニ付キマシテハ、言ハント欲スル所ハ多イガ、既ニ作間君等ガ述ベラレマシタシ、且ツ今ヤ會期明日ニ迫リ極メテ時間ヲ貴重トスル場合デアリマスルカラ、私ハ唯極メチ簡單ニ此修正案ヲ支持スル所ノ意見ヲ述ベル積リデアリマス、卽チ本案ニ對スル第二條、第三條及第五條ノ修正ハ、我ガ政友會提出ノ修正デゴザイマシテ、憲政會ノ委員ノ二、三氏ガ是ニ賛成ヲセラレタ結果、我黨ノ修正案ガ通過致シタノデアリマス、清算金ト補償金トハ元來性質ガ別デアル、補償金トハ區劃整理以後ニ於テ之ヲ清算スベキモノデアッテ、清算金ハ區劃整理ニ、補償金ヲ清算金ニ充當シテ相殺スルト云フコトハ、理論カラ言ッテモ間違ッテ居ルノデアリマス、成程斯ノ如ク致シマスレバ政府ハ至極便利ニ違ヒナイ、又東京市ヤ橫濱市ハ至極都合ガ好イニ違ヒナイ、併ナガラ市ニ都合ノ好イト云フコトハ、卽チ東京市、橫濱市ニ於キマシテ大災厄ヲ受ケタ所ノ大部分ノ住民ガ非常ナル不便ヲ被ルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌト思フノデアル、殊ニ災後復舊ハ表面カラ見マストヨリモ實ニ苦心慘澹、日夜ニ如何ニシテ復舊シ復興センマスケレドモ、其內實ヲ能ク調ベテ見マスルト實ニ苦心慘憺煩悶シテ居ルノデゴザイマス、而シテ此區劃整理ノカト云フコトニ、血ノ出ルヤウナ思ヒデ懊惱煩悶シテ居ルノデゴザイマス、而シテ此區劃整理ノ事業ハ勿論是ハ百年ノ大計デアッテ、必要ナコトデアルガ、政府ハ之ニ對シテ殆ド準備ガ無クテ著手シタ、又徒ニ机ノ上デ計畫シテ、罹災民ノ實狀ヲ顧慮スルニ迂濶デ、且

ツ不親切デアリマス、ダカラ事毎ニ色ゝナ失敗ガ出テ、一々突キ當ッテ其爲ニ事業ガ進マヌノデアル、又今日デハ此區劃整理ノ事業ニ甚シク權威ヲ失墜シタノデアリマス、申ス迄モナク此ノ事業ノ中央官衙タル復興局カラ數人ノ中樞幹部ノ驚クベキ犯罪者ヲ出シマシテ、今ハ復興局ハ國民疑團ノ中心トナッテ居リマス、市民ガ熱心ニ一日モ早ク帝都ヲ復興シ、又經濟ヲ復活シヤウト思ッテ居ル、此悲痛ノ眞最中ニ當ッテ、區劃整理ノ事業ヲ行ヒ、特別都市計畫ヲ行フ所ノ其中心當局タル復興局ガ、斯ル魑魅妖怪ノ府トナッテ居ルニ至ッテハ、此區劃整理事業ナルモノ、特別都市計劃事業ナルモノニ權威ガナクナッテ、市民ガ容易ニ之ヲ信ゼヌト云フコトハ、當然デハナイカト思フノデアリマス、サレバ今此案モ我修正ニ從フノガ市民ト幾分信用ヲ恢復スル譯デアル、成程吾ゝノ修正案ノヤウニ補償ト清算トヲ別々ニ致シマスルト、國ニ於テハ一千萬圓、東京市ニ於テハ二千七百萬圓、橫濱市ニ於テハ百五十萬圓、是ダケノ一時立替ヲシナケレバナラナイカラ、一時腹ガ痛ムト云フコトニナル、併シ是ハ出シ放シデハナイ、結局ハ還ッテ來ル、一時ノ立替ニ過ギナイノデアリマス、少數意見者ハソレデハ國庫ガ堪ヘラレナイ、國家ノ財政ガ洵ニ困ルト云フコトヲ頻ニ言フガ、抑ゝ國民アッテノ國デハナイカ、市民アッテノ市デハナイカ、其國民、其市民ガ今ヤ塗炭ノ苦ミヲ受ケツヽアルト云フコトガ能ク分ッタナラバ、私ハ此際國ガソレダケ立替テモ、市ガソレダケ立替テモ、ソレハ寧ロ當然デハナカラウカト思フノデアリマス、故ニ補償金ハ補償金ト致シテ別ニ支拂ヒ、清算金ハ三年ヲ改メテ五年ノ間ニ分納サセルト云フ所ノ、我ガ政友會ノ修正ガ最モ適當デアラウト思フノデアリマス、殊ニ多數國民ノ利福增進ヲ旨トシ、國民政治ヲ行ハウト云フコトハ、現政府ガ常ニ口癖ノヤウニ言ッテ居ル所デハナイカ、又社會政策ノ實行ト云フコトヲ二言目ニハ言ッテ居ル所ノ現政府デハナイカ、然ルニ政府ガ此修正案ニ反對ノ意ヲ表明サレタコトハ、驚クベキコトデアル、憲政會ノ中カラ高木、作間ノ兩君ガ與黨ト致シマシテ此修正案ニ對シテ賛成ヲスルト云フ、勇敢ナル態度ヲ取ラレタト云フコトハ、偏ニ黨派ニ忠實ナル兩君デモ、市民塗炭ノ苦ミニハ代ヘラレナイト云フ立場カラ、我ガ案ニ賛成ヲセラレタノデアラウト思フ、願クハ此案ハ決シテ黨派問題デハアリマセヌカラ、憲政會ノ諸君モ政友本黨ノ諸君

モ、其他ノ諸君モ、目下ノ都民ノ苦ミト云フコトヲ能ク御察シ下サイマシテ、我黨ノ修正案ニ賛成ヲセラレンコトヲ熱望スル次第デゴザイマス

他ニ通告者ナク討論ハ茲ニ終局ス

次ヲ採決ニ入リ議長ハ先ツ修正案ト委員長報告ト共通ノ點卽チ第三條中三年ヲ五年ト修正スル點ハ起立者多數ニテ可決シ次ヲ共通ノ點ヲ除キタル委員會報告ノ採決ニ付テハ砂田重政君外三十名ヨリノ要求ニ依リ記名投票ニテ採決ノ結果百七十三ニ對スル百十九ニテ委員會報告ノ修正ハ否決セラレタリ

院議異議ナク本案ノ第三讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通修正議決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ四月六日法律第五十二號ヲ以テ公布セラル

七九　産業組合法中改正法律案

（――貴族院修正）

産業組合法中左ノ通改正ス

第一條第六項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

利用組合ノ設備ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

前項ノ設備ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第六條中「所得稅」ノ下ニ「、營業收益稅」ヲ加フ

第六條ノ二　命令ノ定ムル所ニ依ル産業組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合ト組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第四十三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ取扱ヒタル物ノ數量、價格其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スヘキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

組合員ニ配當スヘキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎ト爲ルヘキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第五十九條中「郡長」ヲ「北海道廳支廳長」ニ改ム

第百六條ヲ削ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第五十九條及第百六條ニ關スル規定ハ郡長及島司廢

止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ大正十五年二月三日貴族院ニ提出ス同院ハ三月十五日本案ヲ修正議決シ即日本院ニ送付ス本院ハ三月二十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ高田政府委員ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

産業組合ノ普及發達ハ最近極メテ著シキモノガゴザイマスルガ、其内容實質ニ至ッテハ、尚ホ整理改善ヲ要スルモノガ多々アルノデゴザイマス、今後一層産業組合精神ノ普及徹底ト、組合事業ノ振興發展トヲ期待セネバナラヌノデゴザイマス、是ニ於キマシテ今回産業組合ノ普及發達ヲ圖ルニ差當ッテ必要ナル、二、三ノ事項ヲ改正シタイト思フノデアリマス、即チ其第一ハ、利用組合ノ設備デ勅令ヲ以テ指定シタルモノハ、組合員タルノ資力ナキモノ、其他組合員タルコトヲ得ザルモノニシテ、實費ヲ以テ之ヲ利用セシムルコトヲ認ムルノデゴザイマス、即チ電氣水道、乾繭機等ノ利用ノ如キ、公共的ニシテ而シテ獨占的性質ノアル所ノ産業組合ニ依ル事業ノ經營ヲ適切ナラシムルコトデゴザイマス、第二ハ利用組合又ハ購買組合等ニ依テ行ハレル所ノ住宅ノ供給事業ニ對シマシテ、地方稅ヲ免除致シテ、中小産者ニ對スル住宅ノ供給改善ノ事業ヲ保護奬勵スルコトデゴザイマス、更ニ改正ノ第三點ハ、從來産業組合員ガ其出資ノ拂込ヲ終ルマデハ組合員ニ配當スベキ剩餘金ハ、之ヲ出資ノ拂込ニ充當スル原則ニ對シマシテ、所謂特別配當、即チ組合員ガ利用シタル組合事業ノ分量ニ對スル配當金ハ、之ヲ未拂込出資ノ拂込ニ充當セザルヲ得ルノ例外ヲ認メマシテ、之ヲ組合員ニ交付シ得ルコトニ改メ、以テ産業組合及中央金庫ト、之ヲ組織スル者トノ間ニ於テ、計算關係ヲ極メテ簡單ナラシメテ事務上ノ手續ヲ省キ、同時ニ其購買金融等ノ事業ノ利用關係ヲ一層密接ニシテ、其事業ノ發達ニ力ヅケント欲スルノデアリマス、其他稅制ノ整理郡役所ノ廢止ニ依リマシテ必要ナル二三ノ點ヲ改正セントシタノデアリマス、貴族院ハ此點ニ於キマシテ審議ノ當時ハ、是等ニ關スル根本問題ガ未ダ解決セザルノ理由ヲ以テ、其關係條文ダケ削除ヲ決議シタノデゴザイマス、併シ其削除ハ本案ノ實體ヲ別段害スルモノデハアリマセヌ、何卒愼重御審議ノ上、一刻モ早ク御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ即日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字ハ委員會修正)

産業組合法中左ノ通改正ス

第一條第六項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

利用組合ノ設備ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

前項ノ設備ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第六條中「所得稅」ノ下ニ「、營業收益稅」ヲ加フ

第六條ノ二　命令ノ定ムル所ニ依ル産業組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合ト組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第四十三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スヘキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

組合員ニ配當スヘキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎ト爲ルヘキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第五十九條中「郡長」ヲ「北海道廳支廳長」ニ改ム

第百六條ヲ削ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第五十九條及第百六條ニ關スル規定ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

卽日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長荒川五郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本日付託ニナリマシタ產業組合法中改正法律案ハ、貴族院ヨリ修正可決シテ送ラレタモノデアリマスガ、併シ利用組合ノ利用ノ範圍ヲ廣メ、又組合住宅ヲ住宅組合法ト同ジヤウニ免稅ノ特典ヲ與ヘ、又出資ノ拂込ニ充當スベキ剩餘金ノ配當ニ關スル規定ニ例外ヲ設ケルト云フ、此三箇ガ改正ノ骨子デアリマス、其點ニ於テハ貴族院ニモ何等異議ガナイノミナラズ、其必要ヲ認メラレタノデアリマスルガ、此案ガ貴族院ニ懸カッテ居リマスル際ハ、關係ノアル稅制案竝ニ地方制度案等ハ審議中デアリマシタカラ、未決定ノ事項ヲ法文ニ掲ゲルノハ妥當デナイト云フノデ、第六條、第五十九條、第百六條ノ改正案竝ニ附則ノ但書ヲ削除シテ修正シテ、本院ニ送ラレタノデアリマス、併シ今ヤ既ニ其懸念ハアリマセヌガ故ニ、本委員會ニ於テハ、全部貴族院ノ修正ヲ改メテ政府原案ニ復活スベク修正ヲ致シテ、委員會ハ滿場一致可決致シマシタ、此段御報告申シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日本院ノ修正ニ同意奏上シ其ノ旨本院ニ通知ス四月七日法律第五十四號ヲ以テ公布セラル

八〇　製鐵所特別會計法案

製鐵所特別會計法

第一條　製鐵所ノ事業ヲ經營スル爲從來ノ固定資本及据置運轉資本竝將來ノ製鐵所益金及本會計ノ負擔ニ屬スル公債又ハ借入金ヲ以テ資本ト爲シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充テ特別會計ヲ設置ス

第二條　製鐵所ニ於テ固定財產ノ擴張及改良ニ要スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得但シ公債又ハ借入金ノ額ニ付テハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

製鐵所ニ於テ運轉資金ニ充ツル爲必要アルトキハ最高六千萬圓ヲ限度トシ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條　左ニ揭クル國債ハ本會計ノ負擔トス

一　製鐵所ノ創設及擴張ニ必要ナル經費ヲ支辨スル爲從來發行シタル公債及之カ借換ノ爲從來發行シタル公債

二　前條ノ規定ニ依ル公債又ハ借入金

三　前二號ニ規定スル國債ノ借換ノ爲起債シタル國債

前項ニ規定スル國債ノ償還金、利子、割引料竝發行及償還ニ關スル經費ノ支出ニ必要ナル金額ハ每年度之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ

第四條　本會計ハ之ヲ資本勘定、用品勘定及作業勘定ニ區分ス

第五條　資本勘定ハ作業益金、繰入金、固定財產減價償却繰入金、公債募集金、借入金、固定財產ノ賣拂代金其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ固定財產ノ擴張費改良費補充費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費減價償却金其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第六條　用品勘定ハ用品收入、工作收入其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ用品費、工作費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費減價償却金其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第七條　作業勘定ハ作業上ノ諸收入、固定財產ノ貸付料、預金利子其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ作業上ノ諸費用、總係費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費減價償却金、國債ノ利子割引料其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第八條　需要ノ增加ニ基ク生產又ハ販賣ノ增加ニ因リテ生シタル豫算ノ不足ヲ補フ爲用品勘定及作業勘定ノ歲出ニ豫備費ヲ設クヘシ

第九條　用品勘定又ハ作業勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ減價償却金ハ之ヲ資本勘定ニ繰入ルヘシ

第十條　用品勘定又ハ作業勘定ニ於テ決算上生シタル利益又ハ損失ハ之ヲ資本勘定ニ移シ整理スヘシ

第十一條　資本勘定ニ於テ決算上生シタル利益ハ之ヲ製鐵所益金トシ資本ニ組入ルヘシ

資本勘定ニ於テ決算上損失ヲ生シタルトキハ之ヲ製鐵所損金トシ資本ヲ減額スヘシ

第十二條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第十三條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ最高千萬圓ヲ限度ト

シ一時借入ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得

一時借入金及融通證券ニ依ル資金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第十四條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第十五條　本會計ノ收入支出及損益計算ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第十六條　本法ハ大正十六年度ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　作業會計法第一條第一號乃至第六號ヲ左ノ如ク改メ同法第二條第三項ヲ削ル

第一　印刷局

第二　海軍火藥廠

第三　海軍燃料廠

第四　專賣局

第十八條　明治三十八年法律第十七號第一條第一項中「及製鐵所」、「專賣局ニ在リテハ」及「製所ニ在リテハ九千八百萬圓」ヲ削ル

第十九條　本法ニ依リ本會計ニ於テ借入ヲ爲シ又ハ一時借入ヲ爲ス必要アル場合ニ於テハ當分ノ内當該年度内ニ限リ國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

第二十條　本法施行前ニ於ケル製鐵所特別會計（作業會計法ニ依ルモノ）ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ本會計ニ繰越スヘシ

第二十一條　一般會計ノ歳出豫算ニ於ケル製鐵所擴張費ハ大正十六年度以降本會計ノ所屬スト」

一般會計ノ歳出豫算ニ於ケル製鐵所擴張費及製鐵所設備補足費ニシテ大正十五年度ヨリ翌年度ニ繰越ヲ要スルモノハ之ヲ本會計ニ移シ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲シタル場合ニ於テハ一般會計ハ其ノ繰越額ニ相當スル金額ヲ本會計ニ繰入ルヘシ

右ハ大正十五年三月十一日本院ニ提出ス三月十八日本案ハ政府提出大正九年法律第五十三號中改正法律案（本項第一（七五）ノ兩案ト相關聯セル議案ナルニ依リ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ片岡商工大臣ハ提案ノ趣旨辯明ヲ爲ス次テ委員ノ選擧ハ（七三）、（七五）案ノ兩案ト一括シテ議長指名（十八名）ノ委員ニ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ卽日議事日程ヲ變更シテ其ノ第一讀會ヲ開キ院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二、第三讀會ヲ開キ原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ三月三十一日法律第四十六號ヲ以テ公布セラル（委員會ノ經過ハ本項第一（七五）

参看）

八一　大正十三年法律第十號中改正法律案（高等諸學校震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ニ關スル件）

大正十三年法律第十號中左ノ通改正ス

第二項中「東京帝國大學特別會計」ニ、「竝學校及圖書館特別會計」ヲ「、官立大學特別會計ノ資金中東京商科大學ノ用ニ供スル土地及建造物竝學校及圖書館特別會計」ニ、「及東京高等蠶絲學校」ヲ「、東京高等蠶絲學校及東京外國語學校」ニ改ム

參照

高等諸學校震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ニ關スル法律（大正十三年七月法律第十號）

大正十二年九月ノ震災ニ基ク復舊諸費ニシテ東京帝國大學、東京商科大學及千葉醫科大學ニ關スルモノハ大學特別會計法第一條ノ規定ニ拘ラス之ヲ一般會計ノ所屬トス

東京帝國大學農學部及航空研究所ノ用ニ供スル土地及建造物竝學校及圖書館特別會計ノ資金中東京帝國大學、東京女子高等師範學校及東京高等蠶絲學校ノ用ニ供スル土地及建造物ニシテ此等諸學校ノ震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ノ結果不用ニ歸スヘキモノハ當該資金ヨリ之ヲ拂出スコトヲ得

右ハ大正十五年三月十五日本院ニ提出ス三月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ鈴置政府委員ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

大正十三年ノ法律第十號ハ、特別會計ノ特例ヲ設ケタノデアリマシテ、今回都市計畫ノ結果、東京商科大學竝外國語學校ノ二校ガ、其敷地ノ一部ヲ都市計畫ノ用地ニ供セラレルコトニナリマシタノデ、殘地ガ狹クナリマシタ、就キマシテハ之ヲ他ニ移轉改築ヲシマシテ、其殘地ヲ處分スルト云フ案デアリマス、是ハ處分スル爲ニハ、此兩校ヲ特別會計ノ特例ニ加ヘル必要ガアル爲ニ、此案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上ニ御協贊アランコトヲ希望致シマス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名（九名）ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ即日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ翌二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長上原好雄君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ御承知ノ通リ極メテ簡單ナル案デアリマシテ、即チ帝國大學特別會計法中ニ一ノ特例ヲ設ケタイト云フノガ本案ノ骨子デアリマス、即チ東京商科大學ヲ移轉改築致シマス爲ニ、其殘地ヲ特別會計カラ引離シテ、國有財産ノ方ニ移シタイト云フノデアリマス、之ニ對スル委員會ハ委員諸君ト政府委員トノ間ニ最モ熱心ニ仔細ナル質問應答ヲ重ネラレマシタ結果、希望條件ヲ附シマシテ、滿場一致原案ヲ可決致シマシタ、希望條件ハ「東京帝國大學其ノ他諸學校復舊工事ハ可成速ニ完成セラレムコトヲ望ム」以上御報告致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ三月三十一日法律第四十八號ヲ以テ公布セラル

八二　明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法中改正法律案

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法中左ノ通改正ス

第六條　左ニ揭クル者ヲ以テ選擧長トス

一　一支廳管內又ハ一市一選擧區タル場合ニ於テハ其ノ支廳長又ハ市長

二　一選擧區數支廳管內、數市又ハ支廳管內及市ニ涉ル場合ニ於テハ關係支廳長又ハ市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

三　其ノ他ノ選擧區ニ於テハ官吏又ハ關係市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

選擧長ハ選擧會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第十八條第一項及第二項ヲ削リ同條第三項中「市長」ヲ「市長村長」ニ、「市內」ヲ「市町村內」ニ改ム

第二十條中「其ノ廳」ヲ「市役所、町村役場」ニ改メ「郡長、」ヲ削ル

第二十一條中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改ム

第二十四條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第二十五條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改ム

第二十六條　削除

第二十七條第二項中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改メ同條第三項ヲ削ル

第三十二條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ、「各投票區內」ヲ「其ノ投票區內」ニ改ム

第五十一條中「郡市役所」ヲ「支廳若ハ市役所」ニ改ム

第五十九條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第六條第一項第三號ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）選擧長タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ前條第一項但書ノ規定ハ選擧錄及投票錄ノ保存ニ之ヲ準用ス

第百五條ノ二　本法中郡トアルハ從前郡長ノ管轄シタル區域ヲ謂フ

前項ノ規定ハ島ニ之ヲ準用ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域內ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ涉

ヲテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ渉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第百五條ノ三　北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アルモ選擧區ニ關シテハ仍從前ノ管轄區域ニ依ル但シ市町村ノ境界ノ變更アリタル爲北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル選擧ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第百五條ノ二ノ規定ヲ除クノ外本法中郡ニ關スル規定ハ支廳長ノ管轄區域ニ之ヲ適用ス

附　則

本法ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年法律第六十四號ハ之ヲ廢止ス

八三　大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法中改正法律案

大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法中左ノ通改正ス

第十二條第一項及第二項ヲ削リ同條第三項中「市長」ヲ「市町村長」ニ、「市內」ヲ「市町村內」ニ改メ同條第四項中「第一項又ハ」及同條第六項中「又ハ第三項」ヲ削ル

第十三條中「郡市役所」ヲ「市役所」ニ改メ「郡長及」ヲ削ル

第十四條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改ム

第十五條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改メ同條第二項及第三項ヲ削ル

第十六條第一項中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改ム

第十七條第二項中「郡市長」ヲ「市町村長」ニ改メ同條第三項及第四項ヲ削ル

第四十四條中「郡市長」ヲ「支廳長、市長又ハ地方長官ノ指定シタル官吏」ニ改ム

第四十五條中「郡市役所」ヲ「支廳、市役所」ニ改ム

第五十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第四十四條ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル官吏開票管理者タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第五十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ前條但書ノ規定ハ開票錄及投票錄ノ保存ニ之ヲ準用ス

第五十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

左ニ掲クル者ヲ以テ選擧長トス

一　一縣又ハ一市一選擧區タル場合ニ於テハ其ノ地方長官又ハ市長

二　一選擧區數市又ハ支廳管內及市ニ渉ル場合ニ於テハ關係支廳長又ハ市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

三　其ノ他ノ選擧區ニ於テハ官吏又ハ關係市長ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者

第五十九條中「縣廳若ハ郡市役所」ヲ「縣廳、支廳若ハ市役所」ニ改ム

第六十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第五十八條第一項第三號ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル官吏（支廳長ヲ除ク）選擧長タル場合ニ於テハ地方長官ニ於テ選擧錄及第四十九條第三項ノ報告ニ關スル書類ヲ保存スヘシ

第百四十四條ノ二　本法中郡又ハ島廳管內トアルハ從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ヲ謂フ從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域內ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ渉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ渉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第百四十四條ノ三　北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アルモ選擧區ニ關シテハ仍從前ノ管轄區域ニ依ル但シ市町村ノ境界ノ變更アリタル爲北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル選擧ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十五條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第百四十四條ノ二ノ規定ヲ除クノ外本法中郡ニ關スル規定ハ支廳長ノ管轄區域ニ之ヲ適用ス

附　則

本法ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

八四　衆議院議員ノ選擧權ニ關スル法律案

本法公布前ノ調製期日ニ依リ調製セラレタル最近ノ衆議院議員選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ハ次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間納稅要件ヲ闕クニ至リタル場合ト雖之カ爲其ノ選擧權ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間ニ調製セラルル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者亦同シ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

八五　北海道會議員及府縣會議員ノ選擧權及被選擧權竝市町村會議員ノ公民權ニ關スル法律案

本法公布前ノ調製期日ニ依リ調製セラレタル最近ノ北海道會議員又ハ府縣會議員ノ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ハ次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間納稅要件ヲ闕クニ至リタル場合ト雖之カ爲其ノ選擧權及被選擧權ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間ニ調製セラルル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者亦同シ

本法公布ノ際現ニ北海道會議員、府縣會議員又ハ市町村會議員ノ職ニ在ル者ハ其ノ任期ヲ終ル迄ノ間被選擧權又ハ公民權ノ納稅要件ヲ闕クニ至リタルカ爲其ノ職ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間ニ其ノ職ニ在ルニ至リタル者亦同シ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右四案ハ孰レモ大正十五年三月十六日本院ニ提出ス三月十八日四案及政府提出土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律案（本項第一（七六）ノ五案ハ同種ノ議案ナルニ依リ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ俵政府委員ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ諸案ノ大要ヲ御說明申上ゲマス、第九、第十、第十一ハ何レモ衆議院議員選擧法ニ關スル事デアリマスガ、極メテ重要ナル法案デハアリマスルガ、其提案ノ趣意ハ極メテ簡單デアリマス、先ヅ第九、第十ノ兩案ハ關係致シマスルカラ、併セテ御說明申上ゲマス、政府ハ大正十五年度ニ於キマシテ、行政財政ノ整理改善ヲ圖ルノ目的ヲ以チマシテ、郡長ヲ廢止スルコトニ致シテ居ルノデゴザイマス、隨テ衆議院議員選擧法中改正ヲ爲スノ必要ヲ生ジマシタ故ニ、郡長ノ廢止ニ關聯致シマシテ、必要已ムヲ得ザル限度ニ於テ、現行選擧法竝ニ改正選擧法ニ付選擧長、開票管理者、選擧人名簿、投票立會人等ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘントスルノデアリマス、是ガ本案ノ改正ヲ提案シタ理由デアリマス、次ニ第十一、第十二ハ關係致シマスカラ、併セテ御說明申上ゲマス、今回ノ稅制整理ニ依レバ地租、所得稅及營業稅ニ關シ改廢ヲ加フル結果ト致シマシテ、衆議院議員ノ選擧權竝ニ地方議會議員ノ選擧權、被選擧權及公民權中ノ納稅要件ヲ缺如スルニ至レルガ故ニ、相當多數ノ失格者ヲ生ズル見込デアリマス、而シテ稅制整理ノ結果遽ニ多數ノ失格者ヲ生ズルハ、健全ナル地方行政ノ運用上圓滿ヲ缺ク嫌ガアリマスカラ、隨テ、是ガ適當ナル對策ヲ講ズルノ必要ガアルノデアリマス、是レ此兩案ヲ提出致シマシタ理由デアリマス、最後ニ第十二ノ提案理由ヲ說明致シマス、現行法ニ依レバ天災地變ニ際シマシテ、急施ヲ要スル事業ノ爲メ土地ヲ使用スル場合ニアリマシテハ、郡市長ガ其事業ノ認定ヲ致シマシテ、其土地ヲ使用セシムル規定デアリマスガ、然ルニ今回郡長ヲ廢シマスルガ爲ニ、是等ノ事務ハ町村長ヲシテ執行セシムルコトガ必要デアルノデアリマス、是レ本案ヲ提出シタ理由デアリマス、何レモ今申シマスル通リニ極メテ簡單デゴザイマスルカラ、願ハクハ御審議ノ上速ニ御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

原夫次郎君及土屋清三郎君ハ質疑ヲ爲シ若槻内閣總理大臣、俵政府委員之ニ應答ス

原夫次郎君ノ質疑

只今上程セラレマシタル法律案ハ、何レモ憲法附屬ノ大典ノ改正案デアリマシテ、就中昨年吾ガ協贊ヲ與ヘタル所ノ衆議院議員選擧法、卽チ新選擧法ノ改正案ガ只今日程第十トシテ上程セラレタノデアリマス、私ハ先ヅ此改正法律案ニ付テ改正ノ內容ニ立入ッテ御質問ヲ致ス前ニ、先ヅ內務大臣其他ノ國務大臣カラデモ宜シイデアリマスガ、現內閣ノ責任アル答辯ヲ得タイ事項ガアル、ソレハ申ス迄モナク此憲法附屬ノ大法典ノ改廢ニ際シマシテ、是ハ言フマデモナク樞密院ノ官制ニ依リマシテ、先ヅ政府ハ我ガ議院ニ提案スル前ニ、樞密院ノ御諮詢ヲ相俟ッコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、此改正法律案ハ、既ニ遠ク先々月デアリマシタカ、樞密院ニ御諮詢ニ相成ッタノデアリマスガ、樞密院ニ於キマシテハ、現內閣ノ施政方針ト見解ヲ異ニスルト云フ故ヲ以テ、卽チ現內閣ガ施政ノ大方針ト致シテ居ル郡長、郡役所、支廳長等ノ廢止ヲ企テタコトニ依テ、此改正案ヲ提出致シタノデアリマスガ、樞密院ニ於テハ反對デアルト云フ、此現內閣ノ施政ノコトニ立入ッテ、根本ノ見解ヲ異ニスルガ爲ニ、樞密院ニ於テハ精査委員會ヲ既ニ六回モ開會致シ、而シテ最後ニ去ル十六日ノ本會議ニ於テ、二ッノ希望條件ヲ附シテ之ガ諮詢ニ御答ヲ致シタト云フコトデアリマス、其第一ト致シテハ、樞密院ニ於テハ先程申スガ如ク、郡長郡役所ノ廢止ハ絕對ニ反對デアル、反對デアルケレドモ、既ニ政府ハ此政策ヲ遂行センコトスル場合ニ當ッテハ、少クトモ此郡役所ニ代ルベキ出張所ヲ設クルコトヲ希望條件ト致シ、第二ト致シテハ、郡長廢止ノ所謂地方官制ニ屬スル所ノ事項ヲ、將來樞密院ノ議ニ付スルト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、此改正案ヲ通過セシメタト云フコトデアリマス、現內閣ノ首班ノ若槻首相ハ、新聞紙ノ傳フル所ニ依レバ、此樞密院ノ誤レル希望條件ニ對シテ、之ニ承諾ヲ致シ、幸ニ其通過ヲ得テ此法律案ヲ本議場ニ提出致シタト云フコトデアリマスガ、果シテ斯ノ如キ弱音ヲ吐イタノデアルカ、ドウカ、第一ニ之ヲ御伺ヒシタイ、何トナレバ若槻首相ハ、吾ヾノ此衆議院ニ於

テハ、郡役所ヲ廢止スルト同時ニ、其出張所ハ之ヲ設ケナイ、唯全國僅カニ在ル島嶼、卽チ島國ニ於テ五箇所カ六箇所設ケルニ過ギナイ、其他ハ全部之ヲ設ケナイト云フコトデ、吾ヾハ此郡役所廢止ノ豫算ニ協贊ヲ與ヘテ、其豫算ハ今貴族院ノ議ニ付シテ居ルノデアリマス、然ルニ樞密院ノ官制ニ於テハ斷ジテ此施政ノ事ニ喙ヲ容ルヽコトハ、官制上相成ラヌノデアリマス、是ハ私ガ申スマデモナイ、然ルニ斯ノ如キ希望條件ヲ附シタト致シマスルナラバ、樞密院ナルモノハ自己ノ職責ヲ顧ミナイデ、濫ニ施政ノ事ニ關與シ、而モ現在貴族院デ論議ノ的トナッテ居ル所ノ、此郡役所廢止問題ニ對シテ、大ナル間接射撃ヲ爲シ、以テ施政ノコトニ容喙スルコトニナッテ居ル、斯ノ如キコトガ眞ニアッタリトスルナラバ、是ハ斷ジテ吾ヾノ許容スベカラザルコトニ屬スルノミナラズ、又現內閣ノ餘リニ弱腰ヲ嗤ハザルヲ得ナイノデアリマス、殊ニ此會期切迫ノ今日、此重大ナル三法律案ヲ提出致シタト云フコトハ、是ハ全ク樞密院ノ斯ノ如キ越權ノ處置カラ、事玆ニ至ッタモノデアッテ、若シ本案ガ吾ヾノ手ニ依ッテ審議ヲ致シ、次ニ貴族院ニ於テ握潰シニ相成ッタ場合ニ於テハ、其責任ハ樞密院ガ負ハナケレバナラヌノデアル、此點ニ關シテ政府ハ如何ニ樞密院ニ對シテ責任ヲ負ハシムルト云フ考デアルカト云フコトヲ御伺致シタイ、ソレカラ次ニハ法律案ノ內容ニ關スル點デアリマスガ、卽チ新選擧法中ノ改正法律案、此法律案ノ百四十四條ニ二ツノ項目ヲ新設致シタコトデアリマス、一體先程俵政務次官ノ本案提出ノ理由ヲ聽キマシテモ、又此改正法律案ノ理由書ヲ拜見致シマシテモ、此改正法律案ナルモノハ、今般郡長及島司ノ廢止ニ伴ッテ、新選擧法ヲ改正スルノ必要ガアルカラ、隨テ此改正ノ範圍ナルモノハ、郡長及島司ノ廢止ニ伴ウテ、眞ニ必要已ムヲ得ズシテ此改正ヲ爲シタモノデアルト云フコトニ吾ヾハ拜承致スノデアリマス、然ルニ拘ラズ只今申上ゲタ所ノ百四十四條ニ、新ニ二ッ設ケタ項目ハ如何ナルコトデアルカト申シマスナラバ、是ハ郡長及島司ノ廢止ニ伴フト否トニ拘ラズ、全然ソレトハ關係ナキ條項ヲ玆ニ掲ゲ來ッタコトデアリマス、卽チ新選擧法ニ於キマシテハ、昨年咄嗟ノ間ニ吾ヾガ協贊ヲ與ヘタ法律デアリマスルガ爲ニ、彼ノ選擧法ノ別表ニ於テ、各府縣共ニ選擧區ト竝ニ選出議員ノ數ヲ限定致シテアルノデアリ

マス、而シテ此別表ナルモノハ將來十年間ハ之ヲ改廢シナイト云フ特別ナル規定マデ設ケテアル、然ルニ今度ノ改正法案ニ依ルト云フト、郡役所ガ廢止ニナッタ結果、郡役所ノ從來管轄致シテ居ル所ノ其管轄區域ガ卽チ選擧區ニナルト云フコトハ、是ハ洵ニ尤モナ事デアルノデアリマスケレドモ、若シ各郡役所ト郡役所トノ間、或ハ北海道ニ於テハ支廳長ト支廳トノ間、若クハ各府縣ニ於テ此郡ト市トノ中間ニアル地域、或ハ北海道ニ於キマシテモ支廳ト市トノ中間ニ位スル地域ニ於テ、市町村ノ管轄ガ變更ヲ來シタ場合ニハ、此別表ノ改正ハ是ハ勅令ヲ以テ改正スルコトガ出來ルト云フ、茲ニ百四十四條ノ三項ニ於テ新ナル條項ヲ挿入致シタコトデアリマス、諸君、如何デアリマセウ、斯ノ如キ規定ナルモノハ、昨年協贊ヲ與ヘタル新選擧法中ニ是ハ規定セザリシ缺陷デアッタ箇條デアルノデアリマス、然ルニ此度郡長及島司ノ廢止ニ伴フト云フコトデ、多クノ條文ヲ改正致シ、其改正ハ主トシテ其廢止ダケノ問題ニ牽聯シテ、文字ノ修正ダケガ改正ニ相成ッテ居ルノデアリマス、然ルニ拘ラズ只今申上ゲタル所ノ百四十四條ノ第二項竝ニ三項ヲ附加ヘテ、郡長若クハ島司ノ廢止ニ何等ノ關係ノナイ新ナル斯ノ如キ別表改正ノコトハ、勅令ヲ以テ之ヲ規定スルコトガ出來ルト云フ規定ヲ設ケテ之ヲ改正セントスル法案デアリマス、吾ヽハ斷ジテ斯ノ如キ憲法上法律ノ規定事項デアルモノヲ、咄嗟ノ間ニ此條文ヲ設ケラレテ、是ガ後日勅令デ以テ自由ニ改廢セラレルト云フコトニナリマシタナラバ、新選擧法ノ別表デアル所ノ選擧區制ノ問題、選出議員ノ數ノ問題ハ、勅令デ以テ幾ラデモ改廢ガ出來ルコトニ相成ルノデアリマス、時ノ政府ノ都合ニ依テ、吾ヽガ協贊ヲ與ヘナケレバナラナイ事項ヲ、勅令ニ之ヲ讓ルト云フコトハ、是ハ吾ヽ議員ト致シテ斷ジテ斯ノ如キ改正ヲ企ツベキモノデハナイト信ズルノデアリマス、殊ニ又斯ノ如キ郡ト郡トノ間ヘ挾マル所ノ市町村ノ境界ガ異ルト云フコトデ、郡ノ變動ガアルト云フ場合ニ於テハ、其場合ニ於テ勅令ヲ以テ其境界ヲ定メル所ノ變更ノ勅令ガ出タル時ニ於テハ、此選擧區ノ別表ハ其場合ニ於テ政府者ハ直ニ議會ニ提案ヲシテ、別表ノ改正ヲ爲セバ宜シイノデアリマス、然ルニ拘ラズ其事ヲ規定シテナクテ、直ニ勅令ヲ以テ斯ノ如キ重大ナル變更ヲ爲サントスルコトハ、吾

吾此法案ヲ見テ立所ニ疑問ガ起ルノデアリテ置イタノデアリマスガ、只今總理大臣ガ御出ニナッタノデアリマス、以上ノ點ニ於テ實ハ內務大臣ノ御辯明ヲ求メ煩シタイノデアリマス

若槻內閣總理大臣ノ應答

只今御質問中、衆議院議員選擧法第百四十四條ニ關スル御質疑ハ、政府委員ヨリ御答辯ヲ致スコトニ致シマス、樞密院ノ議事ニ關スル御質問ニ對シテ私ヨリ御答ヲ致シマス、樞密院ノ議事ハ御承知ノ通リ祕密ニスルト云フコトニナッテ居リマシテ、法規上私ハ議事ノ內容ヲ玆ニ申上ゲルコトガ出來ヌノデアリマス、ソレ故ニ樞密院ノ議事ガ如何ナルモノデアッタカト云フ御質問ニ對シテハ、私ハ答辯ガ出來マセヌト御答スルノ外ナイノデアリマス、唯世間ノ疑惑ヲ解クガ爲ニ、新聞紙ニ書イテアルコトニ付テ私ハ申上ゲタイノデアリマス、卽チ新聞紙ニ於テハ、地方官々制中ノ重要ナル事柄ニ付テハ、是ガ改正ノ場合ニハ樞密院ニ御諮詢ニ相成ルヤウニ政府ガ奏請シテ貰ヒタイト云フコトヲ、樞密顧問官カラ要求ヲセラレテ、私ガ之ニ同意ヲ表シタト云フコトガ書イテアリマス、是ハ全然事實デナイノデアリマス、左樣ナ事ハ私ハ決シテ同意ヲ致シテ居リマセヌ、是ダケハ明瞭ニ申上ゲマス

俵政府委員ノ應答

只今原君ノ百四十四條ノ二竝ニ三ノ規定ハ、此際之ヲ提案スルコトハ甚ダ不都合デハナイカト云フ御尋ニ對シマシテ御答致シマス、是ハ第九ノ明治三十三年法律第七十三號、衆議院議員選擧法中改正法律案、其中ニアリマスルガ、大正十年ノ法律第六十六號衆議院議員選擧區ニ關スル件ト云フ單行法ガアリマス、此單行法ヲ今回矢張第九ノ改正案ニ依テ廢止致シマシタ、廢止致シマス結果ト致シマシテ、此規定ニ關シテ島司竝ニ北海道支廳長ニ關スル問題ガ全ク消滅スルノデアリマス、ソレ故ニ其善後法ト致シマシテ、第十ノ改正法ニ依テ玆ニ百四十四條ノ二、竝ニ百

四十四條ノ三、此二箇條ヲ追加致シマシテ、一ツハ島司ニ關シ、一ツハ北海道支廳長ニ關スル規定ヲ設ケタダケデアリマス、極ク簡單ナ理由デアリマス

原夫次郎君ノ再質疑

選擧法ノ改正案ノ内容ニ付テハ何レ委員會ニ讓ルコト、致シマス、又現内閣樞密院ノ問題ニ付キマシテ、先程若槻首相カラ御言明ヲ得テ大ニ安心シタノデアリマスルガ、序ニモウ一ツ御伺致シテ置キタイト思フノハ、流石ハ若槻首相デアリマス、斯ル新聞ニ掲ゲテ居ルヤウナ言明ヲ致タコトハナイ、斯ウ云フコトデアッテ、是ハ左モアルベキコト、思フノデアリマスガ、然ル所第二ノ質問ト致シマシテ、私ノ御尋致シタ所ノ現内閣ハ郡役所廢止問題ニ付テ、當初豫算ヲ提案セラレ、斷乎タル施設ノ方針トシテ述ベラレテ――御考ヘニナッタモノデアルカラ、ソレニ伴ウテ此法律ガ改正ニナル場合ニ於テ、今日マデ樞密院ニ精査委員會ヲ、此簡單ナル問題デ五回モ六回モ開カスト云フコトハ、一體ドウ云フコトデアリマスカ、今日此會期切迫ナ場合ニ於テ、本院ガ之ニ協賛ヲ與ヘテモ、貴族院ガ協賛ヲ與ヘナケレバイカヌノデアル、而シテ若シ貴族院ガ之ヲ握リ潰シニナッタナラバ、樞密院ハ大ナル責任ヲ持タナケレバナラヌ立場ニ在ルノデアリマス、所デ樞密院ハ隨分無責任ナ所デアリマシテ　陛下ノ御諮詢ニ奉答スルダケノ職責デアルガ故ニ、何共手ノ著ケヤウガナイト思フノデアリマス、一體此樞密院ノ官制ニ依ルト云フト、各國務大臣ハ樞密院ノ議ニ參加シテ、十分ニ表決ニ加ハルコトモ出來ルノデアリマス、然ルニ今日マデ此重大ナル法案ヲ樞密院ニ握ラセテ置イタト云フコトハ、一體ドウ云フコトデアリマスカ、又樞密院ニ對スル鞭撻方法ハ、今後ドウ云フ御政策ニ依ルデアリマセウカ、其點ヲ一應御伺シテ置キマス

若槻内閣總理大臣ノ應答

是ハ原君モ御承知ノ通リ、樞密院ハ、憲法上一ノ獨立シタル機關デアリマス、政府ノ監督ノ下ニ居ラナイノデアリマスノデ、樞密院ニ於ケル事務ノ處理ノ仕方ニ付テハ、政府ハ之ニ就テ責任ヲ負ヒマセヌト共ニ、又何トモ致方ガナイノデアリマス

土屋清三郎君ノ質疑

私ハ此機會ニ新選擧法第三十三條、卽チ「選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキコトヲ證スル者ノ投票」所謂不在投票ニ關スル特別規定ニ付テ御尋ヲ致シタイノデアリマス、此三十三條ノ規定ニ基キマシテ政府ハ過般勅令ヲ以テ施行令ヲ御公布ニ相成ッタノデアリマスルガ、如何ナル者ニ對シテ所謂不在者投票ヲ認ムルカト云フ事ニ付キマシテハ、同施行令ノ第二十六條ニ、船員又ハ船舶乘務ノ常況ニ在ル者、鐵道列車乘務中ノ者、演習又ハ敎育ノ爲メ召集中ノ陸海軍々人、海上勤務中ノ艦船乘員タル軍屬、是等ノ人ニ對シテ不在投票ヲ認メテ居ルノデアリマスルガ、傳染病豫防法、又ハ海港檢疫法等ニ依テ、自由ヲ拘束セラレテ居ル者ニ對シテ此規定ノ適用ガ無カッタコト、云フコトハ、如何ナル譯デアリマスカ、御承知ノ通リ傳染病豫防法、又ハ海港檢疫法ニ依テ隔離ヲ致サレテ居ル人ニハ、私ノ用務デハアリマセヌ、又病ンデ意識ヲ失ッテ居ル者デモアリマセヌ、法律ニ依テ自由ヲ拘束セラレナイ以上ハ、健康ニシテ自ラ投票所ニ到ッテ投票スルコトノ出來ル人ニデアリマス、唯此法律ガアルガ爲ニ此法律ニ依テ自由ヲ拘束セラルヽガ爲ニ投票ガ出來ナイノデアリマス、況ヤ豫防法ノ規定スル所、消毒方法ヲ施行致シマスレバ、其投票ハ絶體ニ安全ニ行ハレルノデアリマス、而モ是等ノ法律ニ依テ自由ヲ拘束セラル所ノ人ニハ、例ヘバ虎列剌ノ如キ場合ニ於キマシテハ、一市郡ニ於テ一時ニ數千人又ハ數萬人ノ人ガ隔離セラレルコトニ相成ルノデアリマス、是等ノ人ニ對シテ此三十三條ヲ適用セラレナカッタト云フコトハ、他ノ人ニト比較ヲ致シマシテ甚ダ權衡ヲ失スルト考ヘルノデアリマス、是ハ或ハ當局ニ於テ、千慮ノ一失デアッタカモ知レマセヌ、若シサウデナイトスルナラバ、如何ナル理由ニ依テ除外セラレタカト云フコトヲ明白ニ御說明ヲ願ヒタイノデアリマス

俵政府委員ノ應答

此不在者ノ投票ニ付キマシテハ、如何ニ其範圍ヲ限定スルカト云フコトハ、是ハ極メテムヅカシキ問題デアッタノデアリマス、只今御話ノ傳染病豫防法竝ニ船舶檢疫法ニ依テ隔離シタ者ハ、如何ニモ御說ノ通リニ、是モ矢張不在投票者ノ中ニ算ヘテ宜イト云フ御議論モ、是ハ決シテ私ハ理由ナキコトヽハ考ヘマセヌ、併シ是ト同樣ナ者ハ他ニ幾ラモアルノデアリマス、ソレ故ニドノ程度ニ止メルカト云フコトガ最モ困難デアリマシテ、御承知ノ通リニ不在投票ト云フコトハ今回ガ初メテデアリマス、初メテノ試ミデアリマスカラ澤山アリマスル中ノ最モ緊切重要ナルモノヲ、先ヅ以テ此不在者投票ノ勅令ノ中ニ規定シタノデアリマス、其他ノ者ニ付キマシテハ、實地施行ノ曉ニ於キマシテ、更ニ必要ニ應ジテソレ〳〵是ガ救濟ヲ致ス積リデアルノデアリマス

次テ委員ノ選擧ハ右四案及政府提出土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律案（本項第一（七六）ノ五案ヲ一括シテ議長指名（十八名）ニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十二日右五案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長原夫次郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程セラレマシタル五案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス此五案ハ何レモ郡長又ハ當時ノ制度ノ廢止ニ基クモノ、或ハ稅制整理ニ基ク爲メノ改正法律案デアリマシテ、委員會ニ於キマシテハ事ノ重大ニ鑑ミ、極メテ愼重審議ヲ致シマシタガ、其結果何レモ原案ハ之ヲ可決スベキモノデアルト云フコトニ決議ヲ致シタノデアリマス、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク各案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ四月八日法律第五十五號（（八四）案）、法律第五十六號（（八五）案）ヲ、六月三十日法律第八十一號（（八一）案）、法律第八十二號（（八二）案）ヲ以テ公布セラル

八六　王公族ノ權義ニ關スル法律案

王族及公族ノ權義ニ關シテハ皇室令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

王族又ハ公族ト一般臣民トニ涉ル事項ニシテ各適用スヘキ法規ヲ異ニスルトキハ前項ノ規定ニ依ル」

第一項ノ命令ハ法律中特ニ王族又ハ公族ニ適用スヘキモノトシタル規定ニ違背スルコトナシ

右ハ大正十五年三月十三日貴族院ニ提出ス同院ハ三月十八日本案ヲ可決シ卽日本院ニ送付ス本院ハ三月二十日議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ若槻內閣總理大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ王公族ノ權義ニ關スル法律案ニ就キマシテ、簡單ニ其提出ノ理由ヲ說明致シタイト思ヒマス、御承知ノ通リ王族及公族ハ、之ニ關スル御詔書ニ於テ明カデアリマス通リ、國法上其地位ニ應ジテ相當ノ優遇ヲ享ケラルベキモノデアリマス、尙ホ皇族ノ禮ヲ以テ遇セラルヽ、次第モアルコトデアリマスカラ、之ヲ一般的ノ法規ニ依ルモノト致スコトハ、優遇ノ道ニ

於テ缺クル所ナシト申シ難イノデアリマス、ソレ故ニ皇族ノ制度ヲ參酌致シマシテ、王公族ニ關シテハ優遇上必要ナル諸規定ヲ設クルノ要ガアルノデアリマス、而シテ其事項ハ專ラ王公族ノ規範ニ屬スルコトデアリマスガ、又立法事項ニ關係ヲ有スルモノモアルノデアリマスカラ、王公族ノ權義ニ關シマシテハ、命令ヲ以テ立法事項ヲ規定スルノ途ヲ開クコトガ適當デアルト考ヘルノデアリマス、是ガ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、故ニ何卒御審議ノ上速ニ御協贊ヲ與ヘラルルコトヲ切望シテ已マナイノデアリマス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ三月二十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長松田源治君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ニ付テ昨日委員會ヲ開キ、先ヅ政府ノ要求ニ依リマシテ祕密會ト致シマシテ、各委員ヨリ政府ニ質問シ、政府ノ答辯ヲ得マシテ、本提案ノ正當ナル理由ヲ諒解致シマシタ、討論ニ入ルニ先チ會議ヲ公開致シマシテ、委員ヨリ、本案ハ王公族ヲ優遇スル案デアッテ、委任立法ニ依テ、皇室令ヲ以テ特別ノ規定ヲ爲スコトハ適當デアルト云フ趣旨ノ議論ガアリマシテ、各委員トモ一人ノ異議ナク、全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、右委員會ノ經過結果ノ大要デアリマス、ドウカ本會ニ於テモ、全會一致通過アランコトヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決奏上シ即日其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス此ノ法律ノ公布ハ本項脫稿迄ニハ未タ之ヲ見サリキ

14.3
51=